

シリーズ 視覚障害者の大学進学 別冊
視覚障害学生実態調査報告書

令和7年（2025年）6月改訂

全国高等学校長協会特別支援学校部会・全国盲学校長会大学進学支援委員会・全国高等学校長協会入試点訳事業部

はじめに

視覚障害のある学生が大学のさまざまな学部・学科に進学するようになり、大学における学習支援のための相談が視覚特別支援学校（盲学校）に多く寄せられています。また、盲学校の生徒が大学受験をする際に、事前に行われる話し合いの場で、入学試験の実施方法に加え、入学後の授業への参加、教科書の点訳や拡大などの墨字の最適化の体制、定期試験の実施方法、大学で備えるべき支援機器、通学および学内の移動方法などが話題になります。

本委員会ではこれまで、全国高等学校長協会特別支援学校部会から頂いた補助により、パンフレット「視覚障害者の大学進学」として、入学試験・学生生活・支援機器・就職の4つのタイトルにまとめて作成し、各大学や盲学校等に配付してきました。2008年度と2015年度には、各大学に在籍中の視覚障害学生を対象に、学生生活を送る上で受けている支援の現状と、本人が本来希望している支援についてアンケート調査を実施し、当事者の声をシリーズの別冊「視覚障害学生実態調査」としてまとめ、2009年と2017年に配付しました。

2015年度のアンケート調査から、かなり時間が経過しました。その間、2016年に障害者差別解消法が施行され、2019年に視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）が成立するなど、社会の環境も障害者にとってよい方向に進んできました。そこで、改めて2023年度に同様のアンケート調査を行いました。今回も、40名の視覚障害学生から回答が得られ、貴重な意見も多く寄せられました。このたび、2023年度の調査結果をまとめ、さらに2015年度および2008年度の結果と比較し、分析して、本報告書にまとめました。

本報告書が、視覚障害学生をとりまく多くの方々に読まれ、よりよい支援の参考となることを祈念する次第です。

最後になりますが、今回の調査および報告書の編集をしてくださいました筑波大学附属視覚特別支援学校の清和嘉子氏、2008年度の調査時から調項目の検討や結果の分析、報告書の作成において貴重な助言を頂きました筑波大学附属視覚特別支援学校の青松利明氏に御礼申し上げます。そして、直接一人一人の学生達にインタビューをしてくださった内川亜佑美さん、インタビューの回答データをまとめてくださった広島大学教育学部特別支援教育教員養成コース（当時）の山根伶一さん、山本理紗さんに感謝いたします。

なお、2023年度の調査は、科学研究費補助金（奨励研究）「視覚障害生徒のキャリア教育につながるオンライン時代における先輩大学生の実態調査（課題番号：23H05107）」の助成を受け、2023年12月に筑波大学附属学校教育研究倫理審査委員会の承認を得て実施いたしました。本調査の実施にあたり関係機関の皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。

令和7（2025）年 6 月

全国盲学校長会大学進学支援委員会委員長

森田 浩司

目 次

はじめに	1
調査目的	3
調査方法	3
調査結果の概要	4
調査結果の詳細	
1. 対象者のプロフィール	10
2. 入学前の支援	13
3. 資料の入手	16
4. 資料の提出	44
5. 講義等	63
6. 定期試験	71
7. 図書館・参考資料室	77
8. 学習室・専用ロッカー	81
9. 支援機器・視覚補助具	82
10. 施設・設備	89
11. 視覚に障害のある友人との関わり ...	91
12. 大学生活	94
13. 高校時代に身につけておくべき力 ...	98
おわりに	100

調査目的

視覚障害のある学生が大学に進学した際に受けている支援や配慮の内容については、日本学生支援機構による実態調査において、大学が回答している支援内容の集計があるのみで、視覚障害当事者が実際に質の高い支援を受けられているかどうかについては、大学等の研究機関でも行われていませんでした。そのような中、本会では2008年度に、視覚障害のある学生に対する配慮の現状と希望を把握するため、「視覚障害学生実態調査」を実施しました。その結果、学生の希望と現状の間の相違が、項目ごとに明らかにされ大きな差が見られました。また、この調査は継続的に実施され、支援の質的变化を考察する必要を感じ、平成 27 年度には科学研究費補助金（奨励研究）「盲学校高等部生徒の進路指導につながる視覚障害学生の実態調査」を実施しました。2回目の調査結果では、前回と同様に学生の希望と現状の間には相違がみられた一方、ICT の発達により支援の内容に変化がみられた項目も確認されました。

2回目の調査終了から8年が経過し、その間「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されるなど、障害者に対する合理的配慮が法的にも位置付けられるようになってきてきました。一方で、大学側の予算等の制約により、十分な配慮ができないことを事前に伝えられることも多く、支援の実施状況が、以前に比べてどの程度改善されているのか疑問に感じる部分もありました。また、ICT 機器の進歩により視覚補助具としても活用が可能になり、さらにオンライン授業の実施も一般化してきたことから、視覚障害学生が大学入学前に身につけておくべきスキルも変化してきているように感じられました。そこで、2023年度に、過去2回の「視覚障害学生実態調査」の質問項目を見直し、追加・修正を行った上で、視覚障害者が大学で修学する際の支援や配慮について、当事者の希望と現状の差を把握した上で、今後の課題を明らかにすることを目的に再度調査を実施しました。あわせて、視覚補助具や支援技術を用いた ICT 機器の種類や活用場面を把握し、大学入学に向けて必要なスキルを整理することとしました。

調査方法

2024年1月から2月にかけて、全国の大学および大学院に在学する視覚に障害のある学生を対象に、大学生活における支援について、現状の支援内容と本人の希望を、質問紙を用いて調査しました。調査の際には、質問者が質問紙の内容をもとに口頭でインタビューし、回答を書き取りました。一人あたりの調査時間は、60分～90分でした。なお、本調査の実施にあたっては、2023年12月に筑波大学附属学校教育研究倫理審査委員会の承認を得ています。

質問紙の内容は、①プロフィール、②入学前の支援、③資料の入手、④資料の提出、⑤講義等、⑥定期試験、⑦図書館・参考資料室、⑧学習室・専用ロッカー、⑨支援機器・視覚補助具、⑩施設・設備、⑪視覚に障害のある友人との関わり、⑫学生生活、⑬高校時代に身につけておくべき力の13項目でした。各質問は、原則として、選択肢から適当なものを選び回答する形式としましたが、一部自由記述を求める質問もありました。

本報告書では、回答を点字使用学生と墨字使用学生の別に集計し、2015年度および2008年度の回答と比較し、分析したものをまとめました。

調査結果の概要

質問紙の13項目について、項目ごとに回答を分析した調査結果の詳細を10ページ以降に掲載しますが、結果の概要を以下に記します。

1. プロフィール

2023年度の調査対象者は視覚障害のある大学生および大学院生40名、平均年齢21.4歳でした。使用文字は、点字26名、墨字（拡大文字を含む）14名でした。専攻分野は、2015年度調査や2008年度調査に比べ多岐にわたり、福祉や教育、社会科学、人文科学、語学・国際のほか、心理学、音楽、体育、農学・動物学・環境科学などもありました。

2. 入学前の支援

点字使用学生・墨字使用学生ともに、実施率が1.00（100%）となりました。これは、2024年4月に改正された障害者差別解消法による合理的配慮の義務化に先立ち、各大学が障害学生支援の体制を整えつつあり、面談の場が設けられるようになったものと考えられます。また、面接を希望する割合も高くなっており、視覚障害学生自身において、自分の障害の状況や必要な配慮に関する面談の意義を自覚するようになってきたとも言えます。

3. 資料の入手

（1）学生生活上必要な規則やシラバス等の冊子

調査を経るごとに、データで情報を得ている学生の割合が増加してきました。墨字使用学生だけでなく、点字使用学生においてもデータでの入手を希望する学生の割合が増加してきていることから、点字使用学生も独力で読める形態で資料を入手できるようになってきていることがわかりました。また、多くの大学で、一般の学生向けにも普通文字の冊子ではなく、webに掲載することが増えてきています。墨字使用学生にとっても、webに掲載された情報を、パソコンなどで自分の読みやすい大きさの文字にしたり、コントラストを変更したりして見やすい状態で読めるようになっていることもわかりました。大学にとっても大きな負担ではなく、視覚障害学生にとっても便利になっているようです。一方で、複雑なレイアウトの構造を理解したり、膨大な情報の中から自分に必要な情報を確実に見つけたりすることにはかなりの負担が生じます。そのため、対面朗読を希望する学生も存在することがわかりました。今後は、webサイトの設計においても、より視覚障害者に配慮されたものになることを期待します。

（2）教科書等

点字使用学生では、過去の調査と比べ、オリジナルデータを入手している学生の割合が増加しました。また、多くの学生はオリジナルデータでの入手を希望しています。ただし、語学や理数系の教科書では、文字や式を正確に読む必要があります。また、講義の内容を聞きながら、語学の教科書を画面読み上げソフトで確認することは負担が大きいです。そのため、語学や理数系の教科書については点字で入手できることを希望している学生の割合が高くなっていました。また、参考図

書では、入手できていない学生の割合が微増していました。大学での学習は、教科書だけでは不十分が多くあります。必要な教科書はほとんど入手できてきましたので、次の段階は参考図書を自由に選び読めるようにする環境を整えることが課題であると考えられます。

墨字使用学生では、いずれの教科書や図書でも、過去の調査に比べ、現状も希望もオリジナルデータの割合が大きく増加し、普通文字や拡大コピーの紙媒体の割合が減少しました。タブレット端末の普及、学生のICTスキルの向上が影響しているものと考えられます。オリジナルデータを入手できている学生の割合も増加していますが、希望に比べると現状の方が低い傾向にあります。点字使用学生だけでなく、墨字使用学生にも出版社からオリジナルデータを入手するなどの配慮が必要であることの理解が広がることを期待します。

(3) 教員・他の学生からの配布資料

点字使用学生では、大学のポータルサイト等 web からの入手の割合が大きく増加しました。一般の学生においても、ポータルサイト等から資料をダウンロードして入手するというシステムになっていることが多く、そのシステムで点字使用学生も資料が入手できているようです。なお、点字の資料を希望する割合は減少しているものの、点字を希望している学生もいます。授業のプリントや学生の発表資料については、発表を聞きながら読むことを考えると、データよりも点字のほうが扱いやすいとも考えられます。

墨字使用学生では、ポータルサイト等からデータをダウンロードできることで、スムーズに資料を入手でき、またタブレット端末等で自分の読みやすい大きさに拡大できるという状況に満足している様子が伺えました。

(4) 事務連絡等

掲示板等による諸連絡、成績の通知、履修登録や履修状況の確認のいずれの場合にも、点字使用学生、墨字使用学生ともに、前回の調査と同様に、現状も希望も「web 等での入手」が最多でした。一般の学生向けに整備されてきているシステムを、視覚障害学生も活用できているものと考えられ、大学側が特別な配慮をしなくても、視覚障害学生が対応しやすい環境になってきていると考えられます。

4. 資料の提出

(1) 授業中に作成し提出する資料

オンライン学習システムなど web で入力できる大学が増えてきました。このようなシステムが導入されている大学の視覚障害学生のほとんどは、その手段を希望していました。新型コロナウイルスの感染拡大予防のために各大学においてオンライン授業システムの整備が急速に進み、同時に学生のICTスキルも向上したことが影響していると考えられます。大学側が一般の学生に対して整備したシステムが視覚障害のある学生にとっても利用しやすいということは双方の負担軽減が期待できます。ただし、web の場合は音声の読み上げでわかりやすい構造であることが必要です。アクセシビリティも含めたシステムの開発が進むことを期待します。

(2) 授業中以外の時間で作成し提出する資料

レポート・発表資料においては、電子メールや USB での提出や web 上にアップロードして提出している学生やそれらを希望する学生の割合の方が高くなりました。これは、大学で提示されるレポートの提出方法が紙での提出からデータでの提出に代わってきていること、配布される資料のペーパーレス化が進んでいることなどが影響していると考えられます。そして、墨字使用学生のほとんどは指定された方法で提出できており、さらにその方法がよいと感じているようですので、墨字使用学生にとって提出しやすい状況になってきているといえます。点字使用学生においては、総じて web での提出の割合よりも電子メール等での提出の割合の方が高くなっています。これは、ポータルサイトやオンライン学習システムのアクセシビリティに課題があるものと考えられます。

(3) 事務手続き

履修登録についてみると、点字使用学生も墨字使用学生も、現状・希望ともに「web 入力」の割合が最も高くなりました。多くの大学で、一般の学生も含め、履修登録が web 入力で行われるようになってきていることが影響していると考えられます。

証明書等の発行手続きについてみると、墨字使用学生では現状・希望ともに専用端末が最多で、点字使用学生でも現状は専用端末が最多でした。このことから、多くの大学では、証明書等の発行手続きのために専用端末が導入されている一方で、点字使用学生には操作できない端末であることが推察されます。

5. 講義等の配慮

「板書の読み上げ」では、2015年度に比べ、墨字使用学生の現状の値が高くなりました。墨字使用学生は見えているようでも板書の文字は見えなかったり、大きな黒板の中から必要な情報が書かれた場所を見つけることが困難であったりします。今後も大学側にその点を理解してもらい、墨字使用学生に対しても、板書の内容を言葉で説明してもらえるような配慮を求めていく必要があります。

「ビデオの字幕・映像等の説明」では、2015年度に比べ、点字使用学生でも墨字使用学生でも、現状の割合が低くなりました。映像そのものの音声に加えて画面の説明を入れることの難しさもあると思われますが、近年、講義中のビジュアルな情報提示方法がますます増えているため、視覚情報を補う支援の検討が不可欠であると考えられます。

「担当教員への周知」では、現状・希望ともにかなり高い値となりました。視覚障害学生が大学での学習を進める際には、教員の視覚障害に対する理解が不可欠であることを示しています。

6. 定期試験

点字使用学生について、出題方法をみると、過去の調査では点字での出題の割合が最も高かったのに対し、今回はデータでの出題の割合の方がわずかに高くなりました。しかし希望は、データでの出題よりも点字での出題の方がわずかに高かったです。データでの出題は、出題する側にとっては点訳のための時間や費用が軽減でき、負担が小さくなりますが、点字使用学生にとっては問題の

全体を把握するのに時間がかかることや、下線や空欄などの記号類を見つけにくいこと、レイアウトが把握しにくいことなどから、負担が大きいと考えられます。

解答方法をみると、過去の調査に比べ、現状では点字で解答している学生の割合が減少した一方、点字での解答を希望している学生の割合は増加しています。成績に影響する試験の場合には慎重に読み書きする必要があるため、何度も読み返すことができ、必要な部分をいつでも確認することができる点字を希望する学生の割合が増えているのではないかと考えられます。また、データで解答する場合には、漢字変換のミスや、漢字への不慣れによって使用する文字を間違えることもあります。その点を考慮して採点上の配慮をすることが必要となります。

墨字使用学生について、解答方法に関する配慮について過去の調査と大きな違いはありませんでしたが、「まったく必要ない」と回答した学生はゼロとなり、何らかの配慮を希望していることがわかりました。

7. 図書館・参考資料室

大学図書館の利用頻度をみると、点字使用学生については過去の調査と同様にきわめて低く、墨字使用学生の利用頻度も次第に低くなっていました。今回は、サピエ図書館および国立国会図書館障害者用資料検索・視覚障害者等用データ送信サービスの利用頻度についても質問しました。点字使用学生は、大学図書館よりもサピエ図書館を利用して学習していることがわかりました。サピエ図書館では独力で点字データや音声データが入手でき、利用しやすいため、こちらの利用頻度が高くなっていました。ただし、サピエ図書館における専門書の種類や蔵書数はかなり少ないです。大学での学習を深めるためには、視覚障害学生に対する大学図書館の支援の一層の充実が望まれます。なお、国会図書館のサービスについては始まって間もないことからサービスの存在を知らない学生が多かったです。

また、大学図書館において、支援を利用している墨字使用学生の割合が大きく増加していました。普段墨字を使用していたとしても、小さい文字を大量に読むことには負担感があると思われます。過去の調査に比べ、墨字使用学生自身が、図書館での困難さを大学にきちんと説明し、必要な支援を利用できるようになってきているのではないかと考えられます。

8. 学習室・専用ロッカー

点字使用学生では、学習室や学習スペースについても専用ロッカーについても、現状・希望ともに減少していました。教科書や資料の多くがデータでの提供となってきたこと、新型コロナウイルスの影響によって自宅で学習する機会が増えていることなどが影響しているのではないかと考えられます。しかし、点字プリンタなど音の出る支援機器を使用する際や、大学で自習する際に空いている席を見つけて利用することが難しいことを考えると、学習室等が適切に整備され、入学当初から効果的に活用できるよう指導する必要があると考えられます。

墨字使用学生でも、希望の値が次第に高くなってきています。これは、卓上型拡大読書器を使用する場合や、画面読み上げソフトを用いてパソコンを利用する場合等には、周囲に気兼ねなく音を出

せる環境や、それらの機器を保管できるロッカーが必要であると考えためです。

9. 支援機器・視覚補助具

点字使用学生では、過去と同様、画面読み上げソフト・パソコン・携帯用点字端末は常に活用されており、大学で学習する際になくてはならない機器であると言えます。また視覚障害者用のインターネットブラウザ・ワープロソフトの活用が低くなりました。一般のワープロソフトやウェブブラウザの活用が高くなっており、専用ソフトではなく一般のソフトを活用する学生が増加していることがわかりました。

墨字使用学生では、2015年度と同様に、パソコンと一般のワープロソフトの活用がかなり高く、さらに、スマホやタブレット、一般のインターネットブラウザの活用もかなり高いことがわかりました。

また、過去の調査に比べ、どの支援機器においても大学で準備されている程度が低くなりました。個人で準備していることが増えてきているものと考えられます。

今回の調査では、視覚障害学生が活用している画面読み上げソフトとウェブブラウザの種類も質問しました。画面読み上げソフトについては、点字使用学生も墨字使用学生も、PC-talker と VoiceOver が多く、PC-talker で読み上げられないものなどについては、NVDAを活用するという学生が半数程度いました。ウェブブラウザについては、GoogleChrome、NetReader、Safari、MicrosoftEdge が挙げられ、視覚障害者用のインターネットブラウザである NetReader よりも一般のインターネットブラウザである GoogleChrome の方が多く活用されていることがわかりました。おそらく、NetReader ではボタンを押せないなど、うまく操作ができないことがあるため、一般のインターネットブラウザを利用することが増えているものと考えられます。しかし、視覚情報が多く取り入れられているホームページ等の構造を把握しやすいのは視覚障害者用のインターネットブラウザです。最初から一般のインターネットブラウザを使う練習をするのではなく、視覚障害者用のインターネットブラウザで構造を理解し、基本的操作に慣れた上で、必要に応じて一般のインターネットブラウザを利用できるよう練習していくことが大切です。

10. 施設・設備

「エレベータの点字表示や音声案内の整備」は、次第に進んでいることがわかりました。これは、建築物に関するバリアフリー法により、大学の改築や修繕については、建築物移動等円滑化基準を満たさなければならないことが影響しているのではないかと考えられます。点字表示がないと降りたい階のボタンが押せなかったり、音声案内がないと止まった階が自分の降りたい階なのかがわからなかったりするため、法律によって整備が広がっていくことは安心です。より多くの大学で整備されていくことを期待します。

11. 視覚に障害のある友人との関わり

点字使用学生も墨字使用学生も、視覚に障害のある友人とのつきあいの程度が高く、さらに必

要性を感じている割合も非常に高いことがわかりました。一般の大学に在籍していると、視覚障害学生が一人や少数であるということが多く、同じ障害のある友人との関わりが、視覚障害に特化した情報収集や心理的安定を図るためにも重要であるということがわかりました。

12. 大学生活

2015年度の調査では、点字使用学生・墨字使用学生ともに「合理的配慮という言葉をよく知らない」と回答した学生が2割以上いましたが、今回の調査では全員、合理的配慮について知っていました。しかし、「大学から十分に説明を受けた」と回答した学生は、墨字使用学生で50.0%、点字使用学生では15.4%にとどまっていました。今後は、視覚障害学生本人が障害者差別解消法の趣旨を理解し、自分に必要な配慮をきちんと伝えられるようになること、大学側は視覚障害学生の希望にどのように対応できるかを提示し相談できる場を設定することの必要性を示唆しています。なお、点字使用学生も墨字使用学生も、ほとんどの学生は困ったときに相談できる組織や担当者が「いる」と回答しており、安心して学習できる環境が整備されていることがわかりました。

一方で、災害時の対応については課題が残っています。点字使用学生でも墨字使用学生でも、半数以上の学生が、災害時の避難経路や手段に関する説明を受けていないことがわかりました。年に一度以上説明を受けている学生は2割程度で、2015年度調査より大きく改善したとは言えない状況でした。近年、各地で震災が起こっていることもあり、いつどこで災害に遭遇するかわかりません。視覚障害学生の場合、災害によって変化した状況を把握することが難しく、周囲の人とともに避難できることが望ましいです。そのことを、視覚障害学生本人も、大学関係者も日頃から意識する必要があります。

13. 高校時代に身につけておくべき力

大学生活を送る上で高校時代に身につけておくべき力に関する自由回答を整理したところ、以下のような項目が挙げられました。

- ・日常生活スキル
- ・自己理解と自己表現の力
- ・コミュニケーション・対人関係能力
- ・学習・情報処理能力
- ・情報機器・ICT 活用力
- ・外部とのつながり・主体的な行動力 などです。

回答の多くは「高校時代にもっとこういう力をつけておけるとよかった」という意見でした。大学進学に向けて、これらの力を育てられるよう意識していきたいところです。ただし、それ以前に、これらの力の基礎となる力（例えば、点字や拡大文字の読み書きのスキル、期限に間に合うようにレポートを作成するための計画力など）が十分に身につけていることが前提でもあります。視覚特別支援学校（盲学校）高等部等で指導にあたる際には、これらの力の基礎となる力も見極め、育てる必要があると言えます。

調査結果の詳細

1. 対象者のプロフィール

2023 年度の調査における対象者のプロフィールを表 1-1 に示します。なお、点字使用学生が 26 名、墨字(拡大文字を含む)使用学生が 14 名でした。点字も墨字も使用していると回答した学生が 1 名いましたが、普段の学習で常用している文字で分類しました。

表 1-1 対象者のプロフィール(人) 「使用している補助具」は、使用している学生のみ的人数

	点	墨	計		点	墨	計
年齢				専攻分野			
18 歳	1	2	3	語学・国際	3	1	4
19 歳	5	1	6	社会科学(教育・心理・福祉以外)	3	3	6
20 歳	4	3	7	人文科学	3	1	4
21 歳	3	4	7	教育・心理学	3	4	7
22 歳	5	1	6	福祉	2	1	3
23 歳	3	2	5	音楽	2	1	3
24 歳以上	5	1	6	理学	4	0	4
学年				情報	2	2	4
1 年	7	3	10	農学・動物学・環境科学	3	1	4
2 年	3	2	5	体育	1	0	1
3 年	5	3	8	在学大学への入試形態			
4 年	6	4	10	総合型選抜・AO・自己推薦	11	4	15
修士課程	2	0	2	学校推薦型選抜・指定校推薦	8	3	11
博士課程	3	1	4	障害者特別推薦	0	1	1
科目等履修生	0	1	1	各大学独自の一般選抜	2	3	5
視力				大学入学共通テスト(単独型)	1	0	1
0.03 未満	25	3	28	共通テスト利用型と各大学独自の一般選抜の両方	4	0	4
0.03~0.1 未満	1	6	7	大学入学共通テストと各大学独自の二次試験等	0	1	1
0.1 以上	0	5	5	小学校の教育経験			
使用している補助具				盲学校・視覚特別支援学校	15	3	18
近用レンズ	0	9	9	通常学校	6	7	13
遠用レンズ	1	11	12	通級による指導	1	2	3
拡大読書器	1	7	8	弱視特別支援学級・弱視通級指導教室	1	2	3
タブレット	3	12	15	盲学校等専門機関での継続的な教育相談	0	1	1
その他	2	3	5	その他	3	1	4
視覚障害の発症時期				中学校の教育経験			
小学校入学前	25	13	38	盲学校・視覚特別支援学校	22	7	29
小学校	0	0	0	通常学校	1	4	5
中学校	1	0	1	通級による指導	0	0	0
高等学校	0	0	0	弱視特別支援学級・弱視通級指導教室	1	1	2
高等学校卒業後	0	1	1	盲学校等専門機関での継続的な教育相談	0	1	1
視覚障害の原因				その他	2	1	3
網膜芽細胞腫	6	0	6	高等学校の教育経験			
緑内障	5	1	6	盲学校・視覚特別支援学校	24	11	35
レーベル症	3	0	3	通常学校	0	3	3
網膜剥離	2	1	3	通級による指導	0	0	0
ピータース奇形	2	1	3	弱視特別支援学級・弱視通級指導教室	0	0	0
網膜色素変性症	1	2	3	盲学校等専門機関での継続的な教育相談	1	1	2
家族性滲出性硝子体網膜症	0	3	3	その他	1	0	1
角膜混濁	1	1	2	居住形態			
第一次硝子体過形成遺残	1	1	2	大学の寮	4	0	4
未熟児網膜症	0	2	2	アパート等での一人暮らし	8	10	18
その他	4	3	7	家族と同居	14	4	18

対象者は視覚障害のある大学生および大学院生 40 名（男 19 名・女 21 名）、平均年齢 21.4 歳でした。なお、本調査と比較する過去の調査対象者についてみると、2015 年度調査は計 45 名（男 17 名・女 28 名）、平均年齢 21.2 歳、2008 年度調査は計 41 名（男 19 名・女 22 名）、平均年齢 20.3 歳でした。

本調査対象者の学年は、1 年次 10 名、2 年次 5 名、3 年次 8 名、4 年次 10 名、大学院生 6 名、科目等履修生 1 名でした。

視力はよい方の眼の視力で分類したところ、0.03 未満が 28 名（うち点字 25 名）、0.03～0.1 未満が 7 名（うち点字 1 名）、0.1 以上が 5 名（うち点字 0 名）でした。視覚障害の発症時期については、小学校入学前 38 名、小学校在学中 0 名、中学校在学中 1 名、高等学校在学中 0 名、高等学校卒業後が 1 名で、ほとんどが先天性の視覚障害でした。また、墨字使用学生のほとんどは補助具を活用していました。状況に応じて補助具を使い分けている人が多く、延べ人数となっています。墨字使用学生 14 名のうち、近用レンズの使用 9 名、遠用レンズの使用 11 名、拡大読書器の使用 7 名、タブレットの使用 12 名と、ほとんどの学生が遠用レンズとタブレットを活用していました。その他としては、スマートフォンのカメラ機能やパソコンという回答がありました。点字使用学生の中には、網膜投影カメラキットという回答もあり、ICT 技術の発達が発達視覚補助具にも影響していると感じました。

主な視覚障害の原因は、網膜芽細胞腫 6 名、緑内障 6 名、レーベル症 3 名、網膜剥離 3 名、ピーターズ奇形 3 名、網膜色素変性症 3 名、家族性滲出性硝子体網膜症 3 名、角膜混濁 2 名、第一次硝子体過形成遺残 2 名、未熟児網膜症 2 名でした。複数の眼疾患を併せ有する場合があるため、視覚障害の原因は延べ人数となっています。なお、その他として、点字使用者では、角膜白斑、視神経萎縮、視神経低形成、頭蓋咽頭腫、墨字使用者では、眼振とう、先天性眼皮膚白皮症、白内障、原因不明が各 1 名でした。

専攻分野は、2015 年度調査や 2008 年度調査に比べ多岐にわたっています。教育・心理学系 7 名、社会科学系 6 名、人文科学 4 名、語学・国際系 4 名、理学 4 名、情報 4 名、農学・動物学・環境科学 4 名、福祉 3 名、音楽 3 名、体育 1 名でした。在学大学に合格した入試形態は、総合型選抜 15 名、学校推薦型選抜・指定校推薦 11 名、障害者特別選抜 1 名、で、推薦制度を利用した入試で合格した学生が 28 名と多数を占めました。一方、大学入学共通テスト（大学入試センター試験を含む）利用入試を受けて合格した学生は 1 名にとどまりました。この傾向は 2015 年度・2008 年度と大きく変化しておらず、視覚に障害のある学生は短時間に大量の問題を処理することが求められる大学入学共通テストでは実力を発揮しにくいという課題が継続されていると考えられます。

教育経験については、小学校・中学校においては校種を越えての転校があるため、人数は延べ人数での集計となります。盲学校・視覚特別支援学校在籍は小学校段階 18 名（点字 15 名、墨字 3 名）、中学校段階 29 名（点字 22 名、墨字 7 名）、高等学校段階 35 名（点字 24 名、墨字 11 名）と学校段階が高くなるにつれて増加する傾向がみられました。これは過去の 2 回の調査でも同様の傾向がありました。学習内容が複雑化し、扱う情報量が増える中学校や高校になると、点字使用

者・墨字使用者ともに盲学校の在籍者数が増える傾向があるといえます。

一方で、通常学校在籍は小学校段階 13 名（点字 6 名、墨字 7 名）、中学校段階 5 名（点字 1 名、墨字 4 名）、高等学校段階 3 名（点字 0 名、墨字 3 名）でした。2015 年度調査の小学校段階 30 名、中学校段階 15 名、高等学校段階 11 名と比較すると、すべての段階で通常学校在籍者が減少しています。ただし、2008 年度調査結果では、小学校段階 16 名、中学校段階 8 名、高等学校段階 5 名となっており、こちらとは類似しており、長期的に見た場合、明確な増減の傾向は確認しにくい状況です。なお、「その他」としては、通常学校に在籍していたが支援員がついていた、ボランティアによる支援などがありました。

現在の居住形態は、大学の寮 4 名、アパート等での一人暮らし 18 名、家族と同居 18 名で、約半数が一人暮らしをしていました。

対象者の在籍大学数は 32 校で、うち大学院が 6 校でした。なお、障害者のみを対象とする大学は含まれていません。在学大学を表 1-2 に示します。

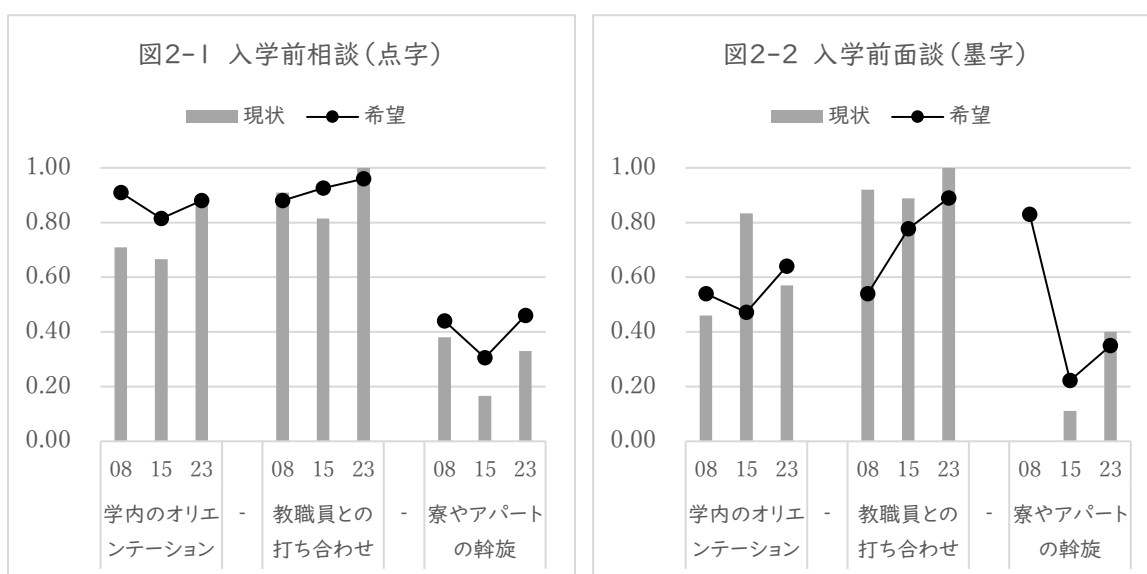
視覚に障害のある大学生の数が極めて少ないことと、支援を受けていない弱視者を特定することは困難であることを考慮すると、40 名の当事者、特に点字使用学生 26 名を対象に調査できたことは特筆すべきであり、価値の高い調査となりました。

表 1-2 対象者の在籍大学・学部（私立・国公立別、あいうえお順）

点字使用者		墨字使用者	
桜美林大学	リベラルアーツ学群	麻布大学	獣医学部
神奈川大学	人間科学部	国立音楽大学	音楽学部
関東学院大学	理工学部	四国学院大学	社会学部
京都外国語大学	外国語学部	芝浦工業大学	工学部
慶應義塾大学	環境情報学部	中京学院大学	人間福祉学部
恵泉女学園大学	人間社会学部	帝京大学	文学部
甲南大学	法学部	東洋大学	社会学部
国際基督教大学	教養学部	広島文教大学	人間科学部
天王寺大学	人文社会学部	立教大学	コミュニティ福祉学部
東海大学	理学部	和光大学	現代人間学部
東京情報大学	総合情報学部	広島大学	教育学部
日本大学	芸術学部	筑波大学大学院	人間総合科学学術院
日本大学	文理学部	東北大学大学院	医学系研究科
フェリス学院大学	音楽学部		
文教大学	人間科学部		
立教大学	理学部		
立正大学	社会福祉学部		
和光大学	現代人間学部		
和光大学	表現学部		
東京農業大学大学院	地域環境科学研究科		
立教大学大学院	異文化コミュニケーション研究科		
立教大学大学院	コミュニティ福祉学研究科		
早稲田大学大学院	先進理工学研究科		
東京藝術大学大学院	音楽研究科		

2. 入学前の支援

入学前の支援として、「学内の建物の配置などに関するオリエンテーション」、「教職員との打ち合わせ」、「寮やアパートの斡旋」について、各支援が実際に入学前にあったかどうか（現状）、及び支援を希望する程度について質問しました。2015 年度調査・2008 年度調査と同様に、現状については、「なかった」を0点、「あった」を1点、希望については、「必要ない」を0点、「できればいい」を1点、「必ずほしい」を2点と得点化し、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの（対象人数）×（満点）で割った値を求めました。その結果を図 2-1（点字）、図 2-2（墨字）に示します。なお、「寮やアパートの斡旋」については一人暮らしをしている学生 27 名（点字 18 名、墨字 10 名）のみの値を示してあります。



（1）学内の建物の配置などに関するオリエンテーション

点字使用学生では、現状 0.88、希望 0.88 でした。過去の調査では、2015 年度は現状が 0.67、希望が 0.81、2008 年度は現状 0.71、希望 0.91 でした。なお、「必要ない」と回答した学生はいませんでした。

一方、墨字使用学生では、現状 0.57、希望 0.64 でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.83、希望 0.47、2008 年度は現状 0.46、希望 0.54 でした。なお、「必要ない」と回答した学生は、2008 年度 27.8%、2015 年度 23.1%と微減でしたが、今回は 7%に激減しました。

点字使用学生は学内の建物の配置などに関するオリエンテーションの希望が高く、やはりオリエンテーションの必要度が高いことが確認できました。これは、視覚障害学生は初めての場所での単独移動が困難であるためと考えられます。また、実施率がこれまでで最も高く、9割近くとなりました。点字使用学生は初めての場所での単独移動が困難であり、ある程度慣れるまでは学内移動の支援が必要であることについての理解が広がっていると言えます。今後、新たに視覚障害学生が入学する大学にも周知されることが期待されます。

一方、墨字使用学生についてみると、2015 年度調査と比較して、オリエンテーションの実施率が

下がり、学生の希望の度合いが上がりました。ただし、2015年度の墨字使用学生は盲学校在籍者の割合が少なく、通常学校在籍者の割合が高いという傾向がありました。そのため、大学入学前にも自分で何とかしながら学習してきた経緯から、どこまでニーズを表明してよいかかわからず、ニーズの表明をできていない可能性が感じられました。

今回、研究に協力してくれた墨字使用学生の教育経験は2008年度と類似していましたので、2008年度調査と比較すると、実施率も希望の度合いも増加しています。墨字使用学生の場合は、視力によっては建物のオリエンテーションの必要性を感じないのかもしれませんが、しかし、本人は見えているつもりでも気づいていないこともありますので、頻繁に使う校舎や図書館などについては、一度は大学職員の方と共に、建物の位置関係や教室の構造などを確認する機会を設けることが望まれます。

(2) 教職員との打ち合わせ

点字使用学生では、現状1.00、希望0.96でした。過去の調査では、2015年度は現状0.82、希望0.93、2008年度は現状0.91、希望0.88でした。なお、「必要ない」と回答した学生は、いずれの調査でも0%でした。

墨字使用学生では、現状1.00、希望0.89でした。過去の調査では、2015年度は現状0.89、希望0.78、2008年度は現状0.92、希望0.54でした。なお、「必要ない」と回答した学生は、2008年度23.1%、2015年度11.1%と減少していましたが、今回の調査では0%でした。

点字使用学生でも墨字使用学生でも実施率が1.00となりました。障害者差別解消法の改正によって2024年4月より合理的配慮が完全に義務化されました。本調査はその前に実施しましたが、完全義務化に向けて各大学が障害学生支援の体制を整えつつあり、面談の場が設けられるようになったものと考えられます。また、希望の割合も高くなっており、視覚障害学生自身において、自分の障害の状況や必要な配慮に関する面談の意義を自覚するようになってきたものとも言えます。

入学前の打ち合わせは、その学生が使用する文字で作成された教科書の準備や、教職員の理解促進等のために必要と考えられ、今後、実施率が下がることのないよう期待しています。

(3) 寮やアパートの斡旋

点字使用学生では、現状0.33、希望0.46でした。過去の調査では、2015年度は現状0.17、希望0.31で、2008年度は現状0.38、希望0.44でした。なお、「必要ない」と回答した学生は、2008年度40.7%、2015年度32.1%、2023年度25%と減少してきています。

墨字使用学生では、現状0.40、希望0.35でした。過去の調査では、2015年度は現状0.11、希望0.22で、2008年度は現状0.00、希望0.83でした。なお、「必要ない」と回答した学生は、2008年度55.6%、2015年度38.5%、2023年度40.0%でした。

点字使用学生・墨字使用学生のいずれにおいても、寮やアパートを探す際に大学から支援を受けている学生の割合は、2015年度調査より高くなりましたが5割に達していません。希望の度合いも、ほかの配慮事項と比較して高くありません。これは、視覚障害学生も大学側も、住まい探しは大

学が支援するものではなく、本人と保護者が行うものであるという認識が高いのではないかと考えられます。しかしながら、視覚障害学生がアパートを借りる場合、貸し主の障害者に対する偏見から契約を断られる場合も少なくありません。また、点字教科書や支援機器等、学習に欠かせない持ち物が一般の学生よりも多いので十分なスペースが必要であること、大学まで安全に通学できる経路が求められます。このような状況を鑑みると、大学に通学しやすい立地で、十分な広さのある寮やアパートに優先的な斡旋についても、検討すべき時期に来ていると言えるでしょう。

3. 資料の入手

「学生生活上必要な規則やシラバス等の冊子」、「教科書等」、「教員・他の学生からの資料」、「事務からの連絡等」の資料の入手形態について、現状と希望を質問しました。入手形態は以下の9形態とし、現在利用している形態、及び希望する形態をすべて選んでもらいました。その結果を、点字使用学生・墨字使用学生別に表と図に示します。

- a. 点字
- b. 普通文字（通常の印刷された配布形式）
- c. 拡大コピー
- d. 対面朗読
- e. 音訳（録音）
- f. スキャンして電子データ化【過去の調査ではOCR】
- g. 撮影して電子データ化【過去の調査では選択肢なし】
- h. 資料の作成者から提供されたオリジナルの電子データ（電子メールによる入手を含む）
- i. web・学内ポータルサイト・オンライン学習システムなどから入手
- j. 未入手
- k. その他

(1) 学生生活上必要な規則やシラバス等の冊子

「学生便覧」、「シラバス」、「履修要覧」について質問しました。表 3-1-1 に点字使用学生、表 3-1-2 に墨字使用学生の結果を示します。

表 3-1-1 学生生活上必要な規則やシラバス等の冊子（点字：単位は％）

		点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	web 等	未入手	
学生 便覧	現状	08	3.6	10.7	0.0	17.9	0.0	3.6	—	10.7	21.4	39.3
		15	11.1	18.5	0.0	7.4	0.0	18.5	—	37.0	22.2	18.5
		23	0.0	3.8	0.0	11.5	0.0	11.5	11.5	57.7	69.2	3.8
	希望	08	21.4	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6	—	57.1	28.6	
		15	22.2	3.7	0.0	3.7	0.0	29.5	—	33.3	25.9	
		23	15.4	3.8	0.0	7.7	0.0	7.7	3.8	57.7	46.2	
シラ バス	現状	08	10.7	3.6	0.0	25.0	0.0	3.6	—	25.0	53.6	3.6
		15	0.0	3.7	0.0	11.1	0.0	18.5	—	22.2	59.3	7.4
		23	3.8	0.0	0.0	19.2	0.0	0.0	0.0	26.9	88.5	0.0
	希望	08	17.9	3.6	0.0	17.9	0.0	3.6	—	28.6	53.6	
		15	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	29.6	—	14.8	48.1	
		23	7.7	0.0	0.0	11.5	0.0	0.0	0.0	30.8	84.6	
履修 要覧	現状	08	0.0	3.6	0.0	57.1	0.0	0.0	—	17.9	25.0	7.1
		15	11.1	22.2	0.0	29.6	0.0	7.4	—	33.3	22.2	0.0
		23	7.7	7.7	0.0	23.1	0.0	7.7	0.0	50.0	38.5	3.8
	希望	08	25.0	3.6	0.0	28.6	0.0	0.0	—	39.3	28.6	
		15	40.7	0.0	0.0	14.8	0.0	25.9	—	22.2	25.9	
		23	15.4	3.8	0.0	11.5	0.0	3.8	0.0	57.7	34.8	

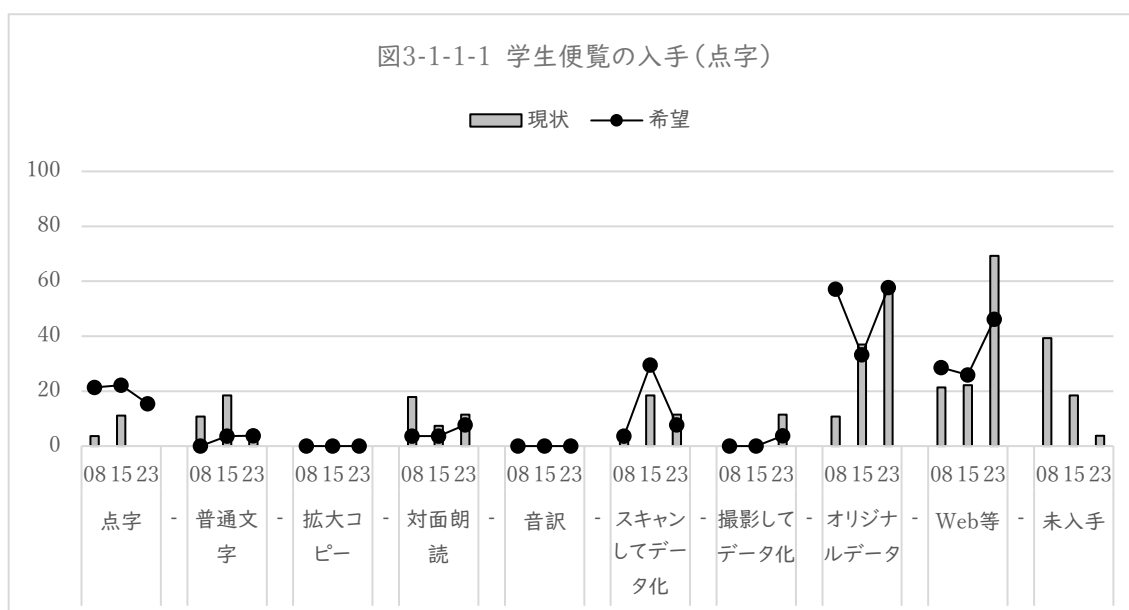
表 3-1-2 学生生活上必要な規則やシラバス等の冊子(墨字:単位は%)

			点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャ ン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	web 等	未入手
学生 便覧	現状	08	0.0	84.6	23.1	0.0	0.0	0.0	—	7.7	30.8	0.0
		15	0.0	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	—	0.0	16.7	5.6
		23	0.0	42.9	28.6	7.1	0.0	14.3	14.3	28.6	71.4	0.0
	希望	08	0.0	84.6	15.4	0.0	0.0	0.0	—	15.4	30.8	
		15	0.0	38.9	22.2	0.0	0.0	5.6	—	22.2	27.8	
		23	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	7.1	35.7	71.4	
シラ バス	現状	08	0.0	92.3	15.4	0.0	0.0	0.0	—	15.4	53.8	0.0
		15	0.0	38.9	11.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	50.0	0.0
		23	0.0	21.4	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	21.4	71.4	0.0
	希望	08	0.0	69.2	23.1	0.0	7.7	0.0	—	23.1	38.5	
		15	0.0	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	—	11.1	50.0	
		23	0.0	14.3	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	21.4	64.3	
履修 要覧	現状	08	0.0	92.3	46.2	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0
		15	0.0	77.8	5.6	0.0	0.0	0.0	—	0.0	16.7	0.0
		23	0.0	50.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	64.3	0.0
	希望	08	0.0	76.9	23.1	0.0	0.0	0.0	—	23.1	30.8	
		15	0.0	27.8	27.8	0.0	0.0	5.6	—	11.1	33.3	
		23	0.0	21.4	28.6	21.4	0.0	0.0	7.1	14.3	64.3	

① 学生便覧

図 3-1-1-1 に点字使用学生の学生便覧の入手、図 3-1-1-2 に墨字使用学生の学生便覧の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(69.2%)、「オリジナルデータ」(57.7%)、「対面朗読」「スキャンしてテキストデータ化」(各11.5%)でした。過去の調査では、2015年度は、「オリジナルデータ」(37.9%)、「web」(22.2%)、「OCR」「普通文字」「未入手」(各18.5%)で、2008年度は、「未入手」(39.3%)、「web」(21.4%)、「対面朗読」(17.9%)

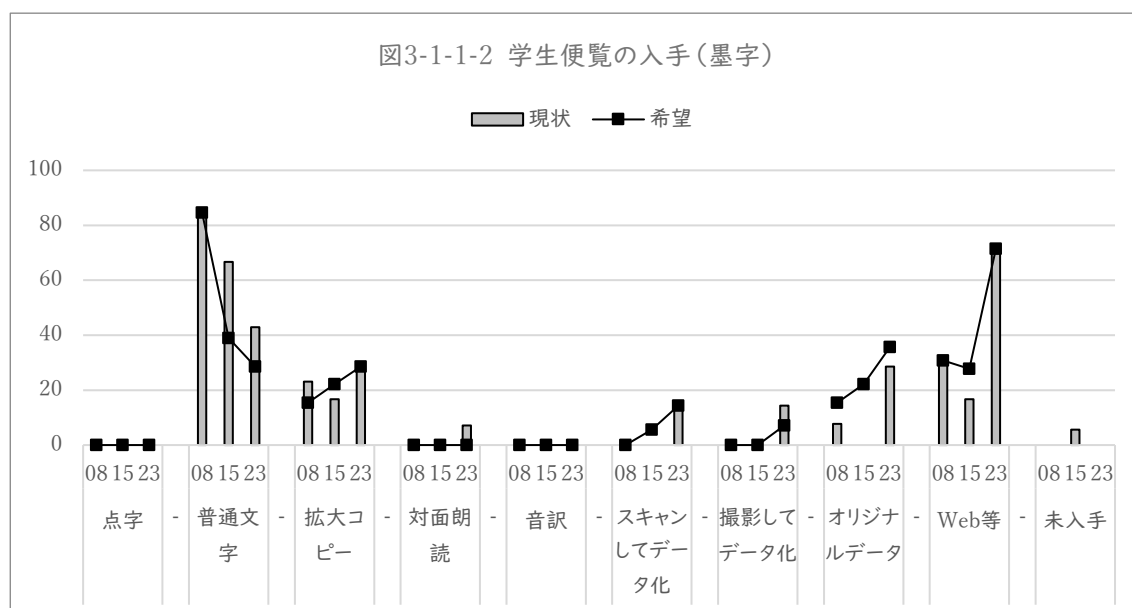


でした。過去の調査に比べ、学内ポータルサイト等を利用している学生や、オリジナルデータを入手している学生がかなり増えました。「その他」では、PDF ファイルで入手しているという回答もあり、ファイル形式は様々ですが、多くの学生がデータで入手していることが分かりました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(57.7%)、「web 等」(46.2%)、「点字」(15.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(33.3%)、「OCR」(29.5%)、「web」(25.9%)で、2008 年度は、「オリジナルデータ」(57.1%)、「web」(28.6%)、「点字」(21.4%)でした。データで入手している学生のほとんどは、現状と同じ形式での入手を希望していましたが、現状は点字で入手している学生はいなかったにもかかわらず、点字を希望する学生もいました。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(71.4%)、「普通文字」(42.9%)、「拡大コピー」「オリジナルデータ」(各28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「普通文字」(66.7%)、「web」「拡大コピー」(各16.7%)で、2008 年度は、「普通文字」(84.6%)、「web」(30.8%)、「拡大コピー」(23.1%)でした。上位の項目に大きな変化はありませんが、普通文字よりも web 等から入手している学生の割合が増えました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(71.4%)、「オリジナルデータ」(35.7%)、「普通文字」「拡大コピー」(各28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「普通文字」(38.9%)、「web」(27.8%)、「オリジナルの電子データ」「拡大コピー」(各 22.2%)で、2008 年度は、「普通文字」(84.6%)、「web」(30.8%)、「オリジナルデータ」「拡大コピー」(各 15.4%)でした。普通文字を希望する学生の割合は次第に減少してきました。学生便覧の文字は小さく、墨字使用の学生にとっても読みにくい文字であり、他の手段を求める学生が増えていることがわかりました。

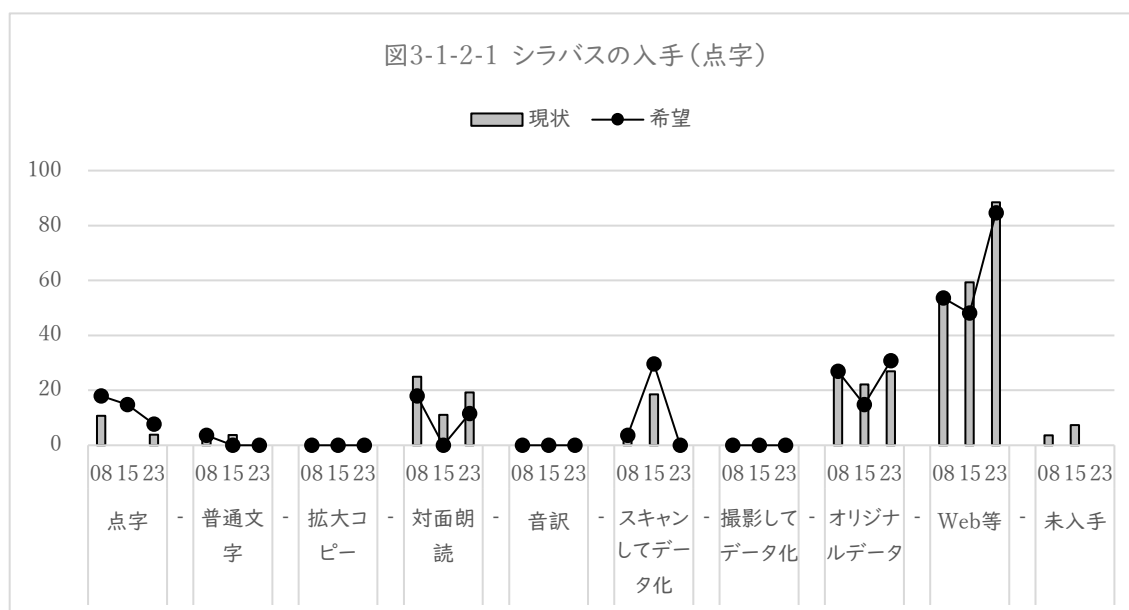


② シラバス

図 3-1-2-1 に点字使用学生のシラバスの入手、図 3-1-2-2 に墨字使用学生のシラバスの入手の結果を示します。

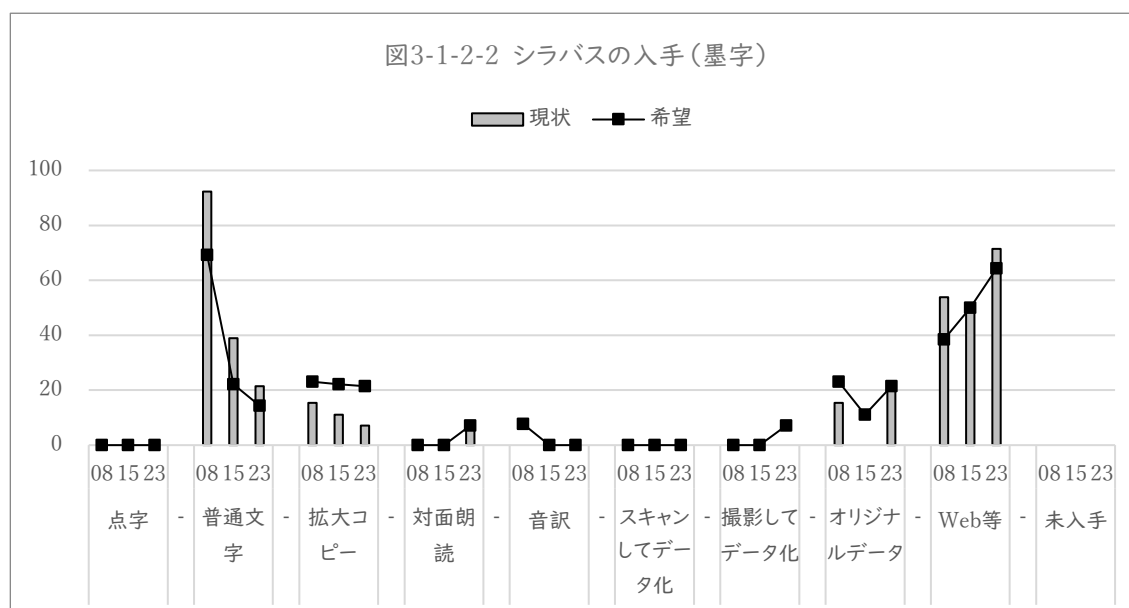
点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(88.5%)、「オリジナルデータ」(26.9%)、「対面朗読」(19.2%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(59.3%)、「オリジナルデータ」(22.2%)、「OCR」(18.5%)で、2008 年度は、「web」(53.6%)、「オリジナルデータ」「対面朗読」(各 25.0%)でした。上位の項目に大きな変化はありませんでしたが、「web 等」から入手している学生の割合が8割を超えました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(84.6%)、「オリジナルデータ」(30.8%)、「対面朗読」(11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(48.1%)、「OCR」(29.6%)、「点字」「オリジナルデータ」(各14.8%)で、2008 年度は、「web」(53.6%)、「オリジナルデータ」(28.6%)、「点字」「対面朗読」(各17.9%)でした。これまでも学内ポータルサイトなどから入手することを希望する学生の割合は高かったのですが、今回は希望も8割を超えました。また、点字を希望する学生の割合が過去に比べて小さくなりました。大学において、障害の有無に関わらず、学生に対してデータでの情報提供が増えてきていること、視覚障害学生の ICT スキルが向上していることが伺えます。



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(71.4%)、「普通文字」「オリジナルデータ」(各21.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(50.0%)、「普通文字」(38.9%)、「拡大コピー」(11.1%)で、2008 年度は、「普通文字」(92.3%)、「web」(53.8%)、「オリジナルの電子データ」「拡大コピー」(各 15.4%)でした。過去と比べると、各大学で学内ポータルサイトの整備が広がっており、シラバスを「web 等」から入手している学生の割合がかなり高くなりました。それに対して、普通文字の割合が減少してきました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(64.3%)、「拡大コピー」「オリジナルデータ」(各21.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(50.0%)、「拡大コピー」「普通文字」(各 22.2%)で、2008 年度は、「普通文字」(69.2%)、「web」(38.5%)、「オリジナルの電子データ」「拡大コピー」(各 23.1%)でした。普通文字を希望する学生の割合は減少しており、形式は様々ですが、データでの入手を希望する生徒の割合が増加してきました。また、「拡大コピー」を希望する学生の割合はほとんど変化がなく、常に2割程度の学生が希望しています。膨大な資料の場合、データの中で必要な情報を検索することの負担を感じている学生もいるのではないかと考えられます。



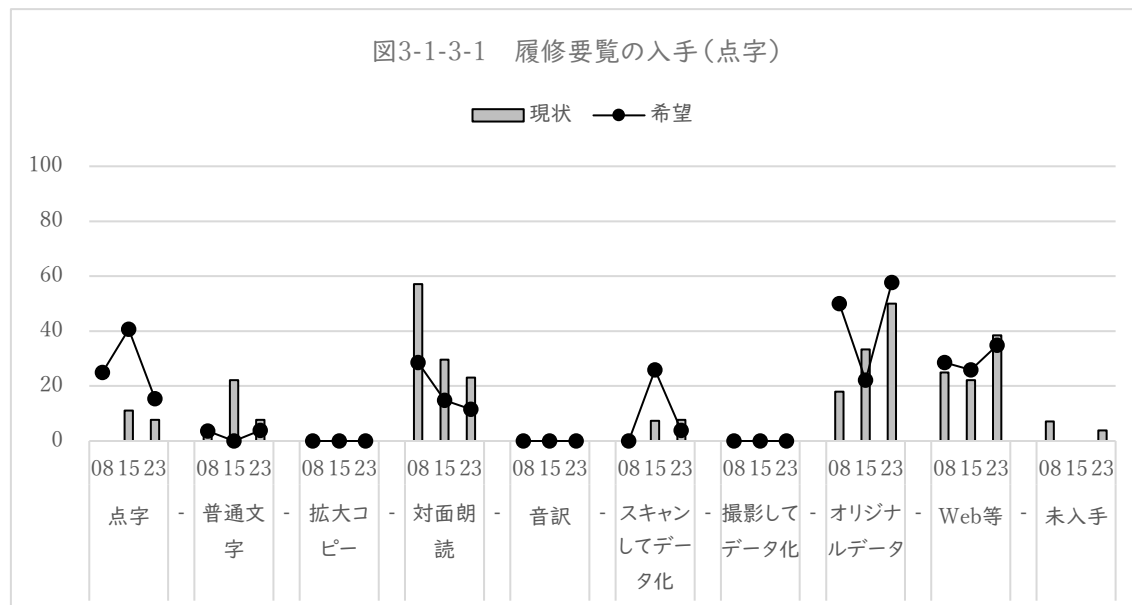
③ 履修要覧

図 3-1-3-1 に点字使用学生の履修要覧の入手、図 3-1-3-2 に墨字使用学生の履修要覧の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「オリジナルデータ」(50.0%)、「web 等」(30.8%)、「対面朗読」(11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(33.3%)、「対面朗読」(29.6%)、「web」「普通文字」(各 22.2%)で、2008 年度は、「対面朗読」(57.1%)、「web」(25.0%)、「オリジナルデータ」(17.9%)でした。普通文字で入手している学生の割合は減少してきており、オリジナルデータや web、PDF データなどのデータで入手している学生の割合が増加してきました。

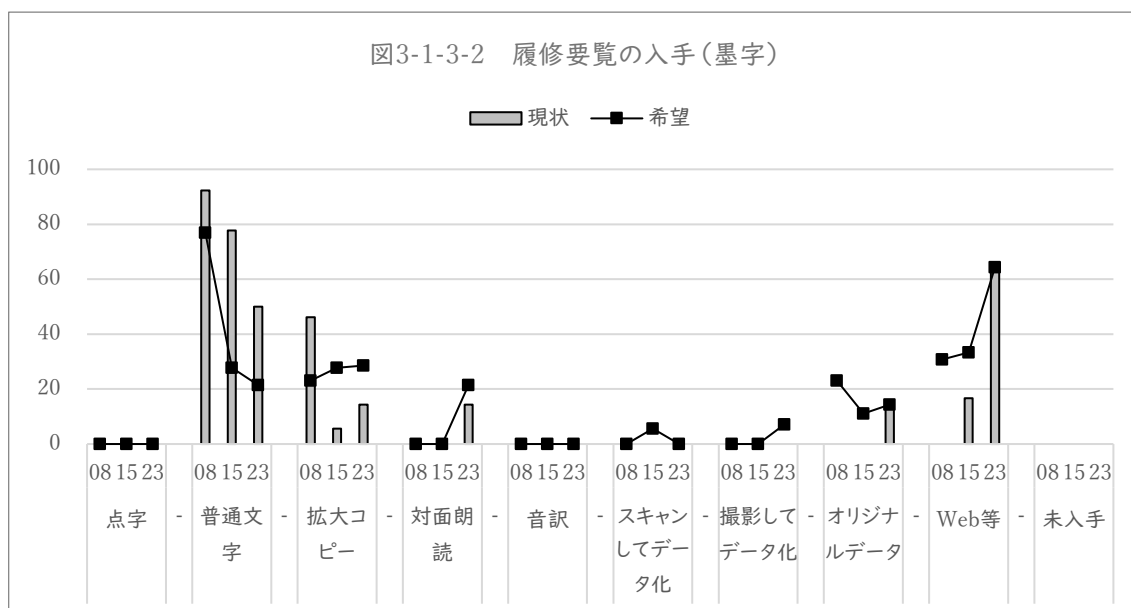
一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(57.7%)、「web 等」(34.8%)、「点字」(15.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「点字」(40.7%)、「web」「OCR」(各 25.9%)で、2008 年度は、「オリジナルの電子データ」(39.3%)、「web」「対面朗読」(各 28.6%)でした。オリジナルデータなどを入手できるようになってきていますが、点字での入手を希望する学生の割合も少なくはなく、膨大なデータから必要な情報を読み取ることが困難なのではな

いかと考えられます。



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web等」(64.3%)、「普通文字」(50.0%)、「拡大コピー」「対面朗読」「オリジナルデータ」(各14.3%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(77.8%)、「web」(16.7%)、「拡大コピー」(5.6%)で、2008年度は、「普通文字」(92.3%)、「拡大コピー」(46.2%)でした。履修要覧についても、普通文字で入手している学生の割合は減少し、web等から情報を入手している学生の割合が増加していました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web等」(64.3%)、「拡大コピー」(28.6%)、「普通文字」(21.4%)でした。過去の調査では、2015年度は、「web」(33.3%)、「拡大コピー」「普通文字」(各27.8%)で、2008年度は、「普通文字」(76.9%)、「web」(30.8%)、「オリジナルデータ」「拡大コピー」(各23.1%)でした。



④ 学生生活上必要な規則やシラバス等の冊子のまとめ

調査を経るごとに、データで情報を得ている学生の割合が増加していることが明らかになりました。これは墨字使用学生に限らず、点字使用学生においても同様であり、データでの入手を希望する学生の割合が増加してきていることから、点字使用学生も独力で読める形態で資料を入手できるようになってきていることが示唆されます。近年では、一般の学生向けにも普通文字の冊子ではなく、webに掲載する大学も増えてきています。墨字使用学生は、webに掲載された情報を、パソコンなどで自分の読みやすい大きさの文字にしたり、コントラストを変更したりして見やすい状態で読めるようになってきていることもが明らかになりました。大学にとっても大きな負担ではなく、視覚障害学生にとっても利便性の高い手段となっています。しかし、学生便覧や履修要覧は情報量が非常に多く、その中から自分に必要かつ重要な情報を読み取らなければなりません。web上のレイアウトが複雑である場合や、情報が膨大な場合には、必要な情報にたどりつきにくく、対面朗読を希望する学生も存在することがわかりました。そして、それを行う際には、電子データが点字や画面読み上げソフトを用いて読みやすい形式になっているわけではないことが伺えました。今後は、読みやすさや検索性に配慮した電子データの整備が一層求められます。今後は、視覚障害学生が情報へ円滑にアクセスできるよう、合理的配慮の一環としての web アクセシビリティの向上を期待します。

表 3-2-1 教科書等(点字:単位は%)

			点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャ ン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	Web 等	未入手
語学の 教科書	現状	08	89.3	3.6	3.6	7.1	0.0	21.4	—	10.7	0.0	0.0
		15	77.8	11.1	0.0	0.0	0.0	29.6	—	11.1	0.0	3.7
		23	76.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	3.8	69.2	7.7	0.0
	希望	08	96.4	0.0	0.0	3.6	3.6	3.6	—	17.9	0.0	
		15	100.0	0.0	0.0	0.0	3.7	7.4	—	7.4	0.0	
		23	84.6	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	0.0	42.3	7.7	
理数系 の 教科書	現状	08	35.7	3.6	3.6	10.7	0.0	0.0	—	3.6	0.0	0.0
		15	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	—	22.2	0.0	3.7
		23	38.5	3.8	3.8	3.8	0.0	3.8	3.8	38.5	0.0	7.7
	希望	08	78.6	0.0	3.6	7.1	0.0	0.0	—	17.9	0.0	
		15	92.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	14.8	0.0	
		23	84.6	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	0.0	42.3	0.0	
語学や 理数系 以外の 教科書	現状	08	60.7	3.6	0.0	25.0	10.7	42.9	—	39.3	3.6	14.3
		15	37.0	11.1	0.0	3.7	3.7	55.6	—	40.7	0.0	7.4
		23	11.5	3.8	0.0	3.8	0.0	30.8	11.5	73.1	23.1	0.0
	希望	08	75.0	0.0	0.0	7.1	3.6	3.6	—	42.9	3.6	
		15	51.9	0.0	0.0	3.7	3.7	55.6	—	55.6	3.7	
		23	38.5	0.0	0.0	3.8	0.0	11.5	3.8	80.8	11.5	
参考 図書	現状	08	39.3	0.0	0.0	28.6	10.7	17.9	—	3.6	17.9	21.4
		15	40.7	7.4	0.0	18.5	18.5	44.4	—	18.5	3.7	25.9
		23	11.5	11.5	3.8	19.2	3.8	19.2	3.8	61.5	11.5	30.8
	希望	08	39.3	0.0	0.0	17.9	3.6	10.7	—	46.4	10.7	
		15	59.3	0.0	0.0	3.7	11.1	48.1	—	44.4	7.4	
		23	53.8	0.0	0.0	0.0	0.0	19.2	3.8	73.1	11.5	

(2) 教科書等

「語学の教科書」、「理数系の教科書」、「語学や理数系以外の指定教科書」、「参考図書」について質問しました。表 3-2-1 に点字使用学生、表 3-2-2 に墨字使用学生の結果を示します。

表 3-2-2 教科書等(墨字:単位は%)

			点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャ ン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	Web 等	未入手
語学の 教科書	現状	08	0.0	92.3	38.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	7.7	0.0
		15	0.0	83.3	22.2	0.0	0.0	5.6	—	0.0	0.0	0.0
		23	0.0	42.9	0.0	7.1	0.0	28.6	7.1	28.6	7.1	0.0
	希望	08	0.0	53.8	61.5	7.7	7.7	0.0	—	15.4	0.0	
		15	0.0	55.6	33.3	0.0	0.0	11.1	—	11.1	5.6	
		23	0.0	28.6	14.3	7.1	0.0	28.6	7.1	57.1	7.1	
理数系 の 教科書	現状	08	0.0	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	—	0.0	7.7	15.4
		15	0.0	38.9	5.6	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	3.7
		23	0.0	21.4	6.1	7.1	0.0	14.3	7.1	14.3	7.1	0.0
	希望	08	0.0	46.2	53.8	7.7	7.7	0.0	—	15.4	7.7	
		15	0.0	50.0	44.4	0.0	0.0	5.6	—	11.1	5.6	
		23	0.0	21.4	28.6	7.1	7.1	21.4	7.1	50.0	14.3	
語学や 理数系 以外の 教科書	現状	08	0.0	92.3	38.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	7.7	0.0
		15	0.0	77.8	11.1	0.0	5.6	11.1	—	0.0	0.0	0.0
		23	0.0	50.0	7.1	14.3	7.1	28.6	14.3	42.9	7.1	0.0
	希望	08	0.0	61.5	46.2	7.7	7.7	0.0	—	23.1	0.0	
		15	0.0	33.3	44.4	0.0	0.0	22.2	—	16.7	5.6	
		23	0.0	35.7	28.6	14.3	7.1	21.4	14.3	64.3	21.4	
参考 図書	現状	08	0.0	100.0	23.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	7.7
		15	0.0	77.8	11.1	5.6	5.6	0.0	—	0.0	11.1	5.6
		23	0.0	50.0	0.0	14.3	7.1	14.3	0.0	21.4	7.1	0.0
	希望	08	0.0	53.8	46.2	7.7	15.4	0.0	—	30.8	7.7	
		15	0.0	61.1	22.2	5.6	0.0	16.7	—	11.1	16.7	
		23	0.0	28.6	21.4	21.4	7.1	14.3	7.1	42.9	14.3	

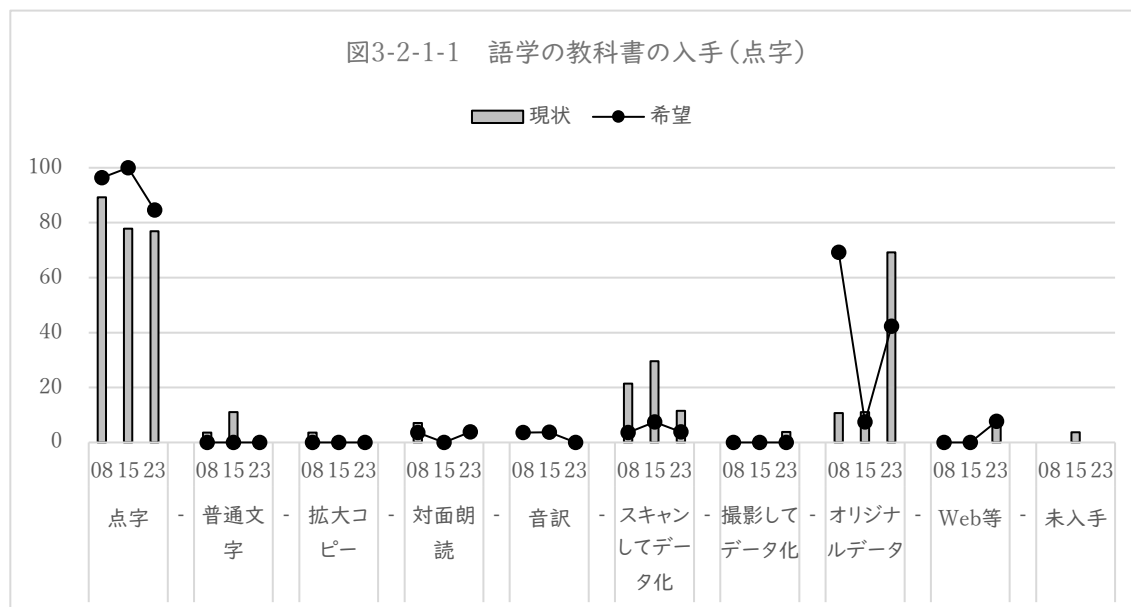
① 語学の教科書

図 3-2-1-1 に点字使用学生の語学の教科書の入手、図 3-2-1-2 に墨字使用学生の語学の教科書の入手の結果を示します。

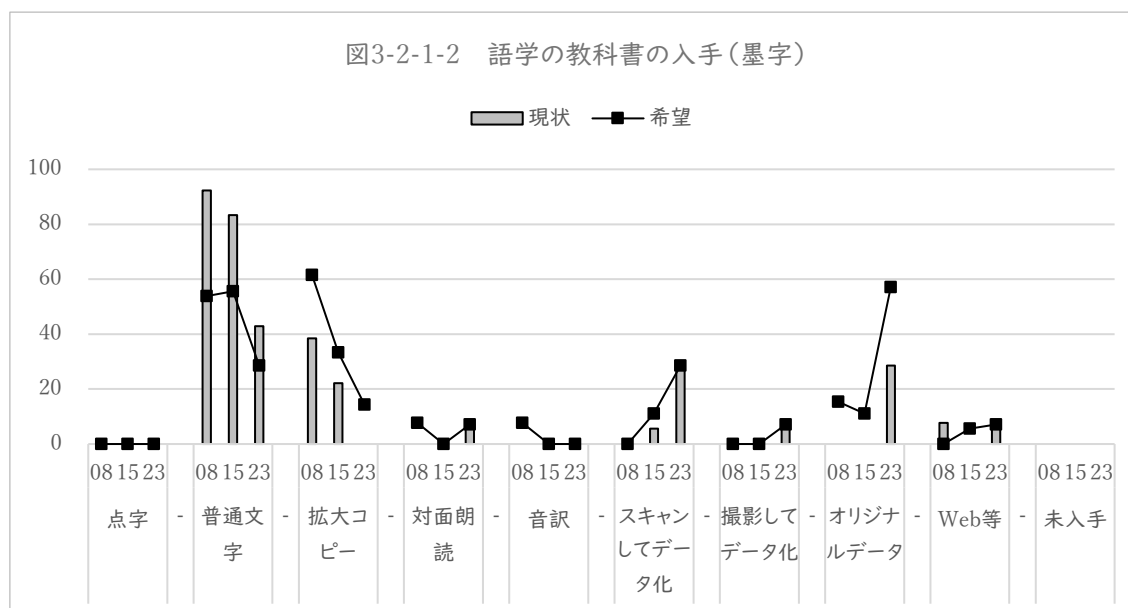
点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「点字」(76.9%)、「オリジナルデータ」(69.2%)、「スキャンしてデータ化」(11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「点字」(77.8%)、「OCR」(29.6%)、「オリジナルデータ」(11.1%)で、2008 年度は、「点字」(89.3%)、「OCR」(21.4%)、「オリジナルデータ」(10.7%)でした。過去と比べると、オリジナルデータを入手している割合がかなり増加しました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「点字」(84.6%)、「オリジナルデータ」(42.3%)、「web 等」(7.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「点字」(100.0%)、「オリジナルデータ」(7.4%)で、2008 年度は、「点字」(96.4%)、「オリジナルデータ」(17.9%)、「OCR」(対面朗読)「音訳」(各 3.6%)でした。点字での入手を希望する学生の割合が減少し、オリジナ

ルデータでの入手を希望する学生の割合が増加しました。現状、オリジナルデータで入手している学生の中には、それでよいと感じている学生も半数以上いました。一方、語学の教科書のように、特に文字を正確に読む必要がある場合は点字がよいと回答する学生も多くいました。大学側に、語学の教科書については点字にしてもらえよう、今後も理解を求めていく必要があります。



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「普通文字」(42.9%)、「オリジナルデータ」「スキャンしてデータ化」(各28.6%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(83.3%)、「拡大コピー」(22.2%)、「OCR」(5.6%)で、2008年度は、「普通文字」(92.3%)、「拡大コピー」(38.5%)、「web」(7.7%)でした。過去の調査と比べ、普通文字で入手している学生の割合が大きく減少し、拡大コピーで入手している学生はいなくなりました。それに対して、オリ



ジナルデータを手入したり、スキャンしてデータ化したりして、データを手入した上で、タブレット端末で拡大して読むという学生の割合が増加しました。

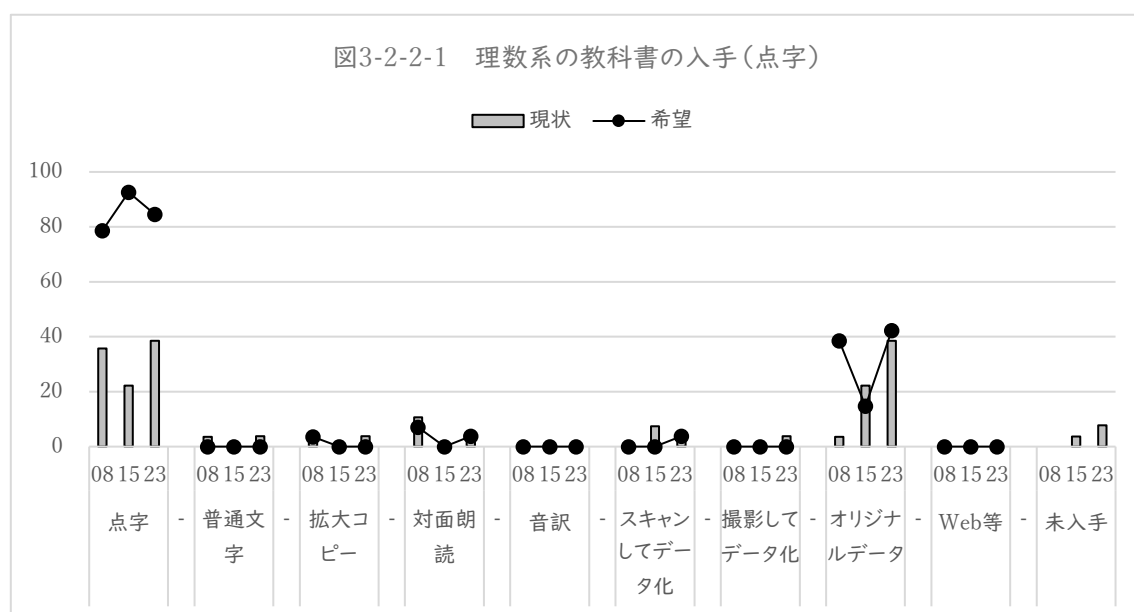
一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(57.1%)、「普通文字」「スキャンしてデータ化」(各28.6%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(55.6%)、「拡大コピー」(33.3%)、「オリジナルの電子データ」「OCR」(11.1%)で、2008年度は、「拡大コピー」(61.5%)、「普通文字」(53.8%)、「オリジナルの電子データ」(15.4%)でした。過去の調査と比べ、オリジナルデータを希望する学生の割合が大きく増加し、普通文字や拡大コピーといった、自由に大きさを変えられない媒体での入手を希望しなくなっていることがわかりました。

② 理数系の教科書

図3-2-2-1に点字使用学生の理数系の教科書の入手、図3-2-2-2に墨字使用学生の理数系の教科書の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「点字」「オリジナルデータ」(各38.5%)でした。過去の調査では、2015年度は、「点字」「オリジナルデータ」(各22.2%)、「OCR」(7.4%)、「未入手」(3.7%)で、2008年度は、「点字」(36.7%)、「対面朗読」(10.7%)、「オリジナルデータ」「拡大コピー」「普通文字」(各3.6%)でした。過去の調査と同様、理数系の教科書を必要としない学生が多かったため、どの媒体の割合もそれほど高くはありません。

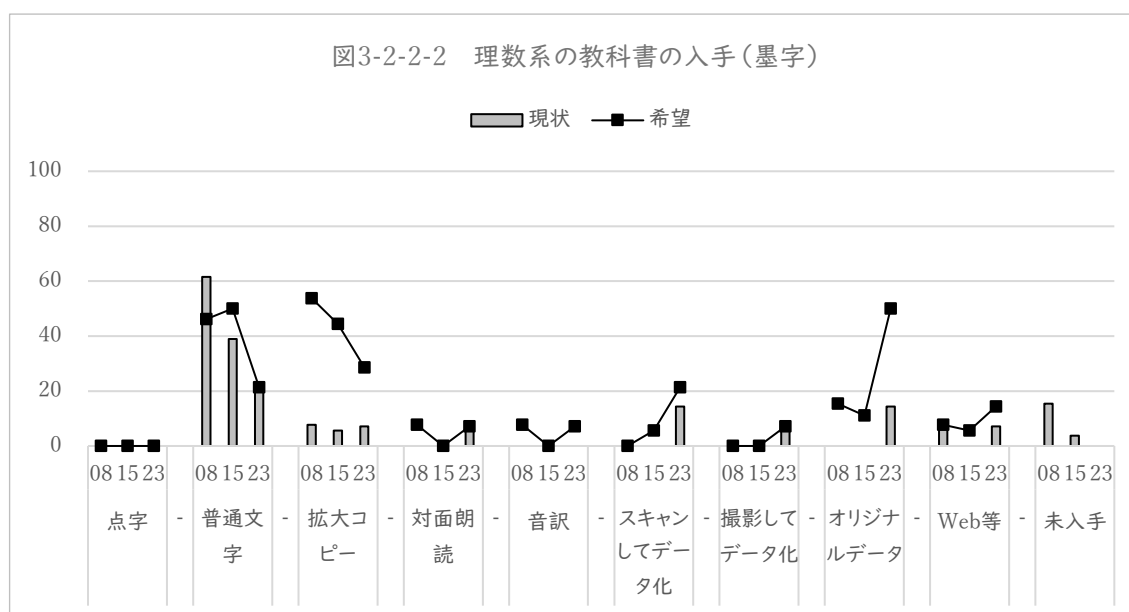
一方、希望を割合の高い順に示すと、「点字」(84.6%)、「オリジナルデータ」(42.3%)でした。過去の調査では、2015年度は、「点字」(92.6%)、「オリジナルデータ」(14.8%)で、2008年度は、「点字」(78.6%)、「オリジナルデータ」(17.9%)、「対面朗読」(7.1%)でした。理数系の教科書については、これまでと同様、点字を希望する学生の割合がかなり高いことがわかりました。ただし、オリジナルデータを希望する学生の割合も増加してきました。理数系の教科書には数式が多く含まれており、データを手入しても読み上げソフトを用いて正確に読むことができないため、点



字で正確に読めることを希望していると考えられると同時に、数式があまり含まれない教科書であればオリジナルデータでも内容を理解できるようになってきているのではないかと考えられます。理数系学部に進学した学生については、数式を正確に理解しなければなりませんので、理数系の教科書を点字にしてもらえよう理解を求めていく必要があります。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「普通文字」(21.4%)、「オリジナルデータ」「スキャンしてデータ化」(各14.3%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(38.9%)、「拡大コピー」(5.6%)、「未入手」(3.7%)で、2008年度は、「普通文字」(61.5%)、「未入手」(15.4%)、「拡大コピー」(7.7%)でした。点字使用学生と同様に、理数系の教科書を必要としていない学生が多かったため、どの割合もあまり高くありません。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(50.0%)、「拡大コピー」(28.6%)、「普通文字」(21.4%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(50.0%)、「拡大コピー」(44.4%)、「オリジナルデータ」(11.1%)で、2008年度は、「拡大コピー」(53.8%)、「普通文字」(46.2%)、「オリジナルデータ」(15.4%)でした。過去の調査と比べ、オリジナルデータを希望する学生の割合が大きく増加しました。オリジナルデータをタブレット端末で読む場合には、必要に応じて拡大率を変化させることができます。理数系の教科書の場合、指数や添え字など、小さい文字が多く、それらを確認するには拡大率を大きくし、本文を読む際には拡大率を小さくできるという点で使いやすいのではないかと考えられます。



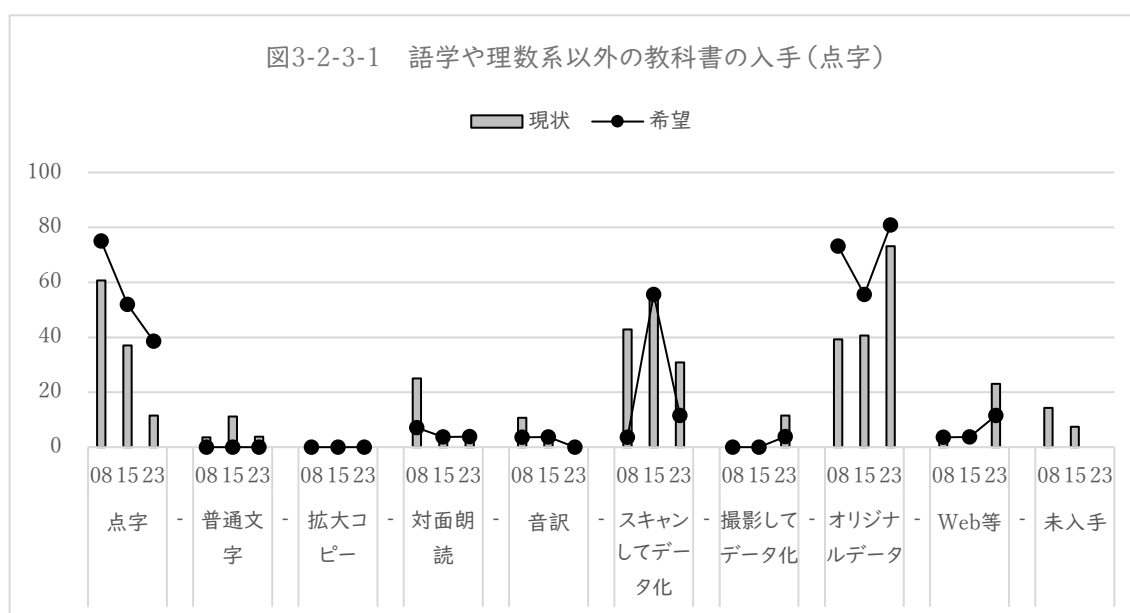
③ 語学や理数系以外の教科書

図3-2-3-1に点字使用学生の語学や理数系以外の教科書の入手、図3-2-3-2に墨字使用学生の語学や理数系以外の教科書の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「オリジナルデータ」(73.1%)、「スキャンしてデータ化」(30.8%)、「web等」(23.1%)でした。また、「その他」として、電子図書で読んでいる

という回答もありました。過去の調査では、2015 年度は、「OCR」(55.6%)、「オリジナルデータ」(40.7%)、「点字」(37.0%)で、2008 年度は、「点字」(60.7%)、「OCR」(42.9%)、「オリジナルデータ」(39.3%)でした。過去の調査と比べ、オリジナルデータの割合が大きく増加し、点字の割合は次第に減少してきていることがわかりました。各大学においてデータでの提供が進んでいるものと考えられます。

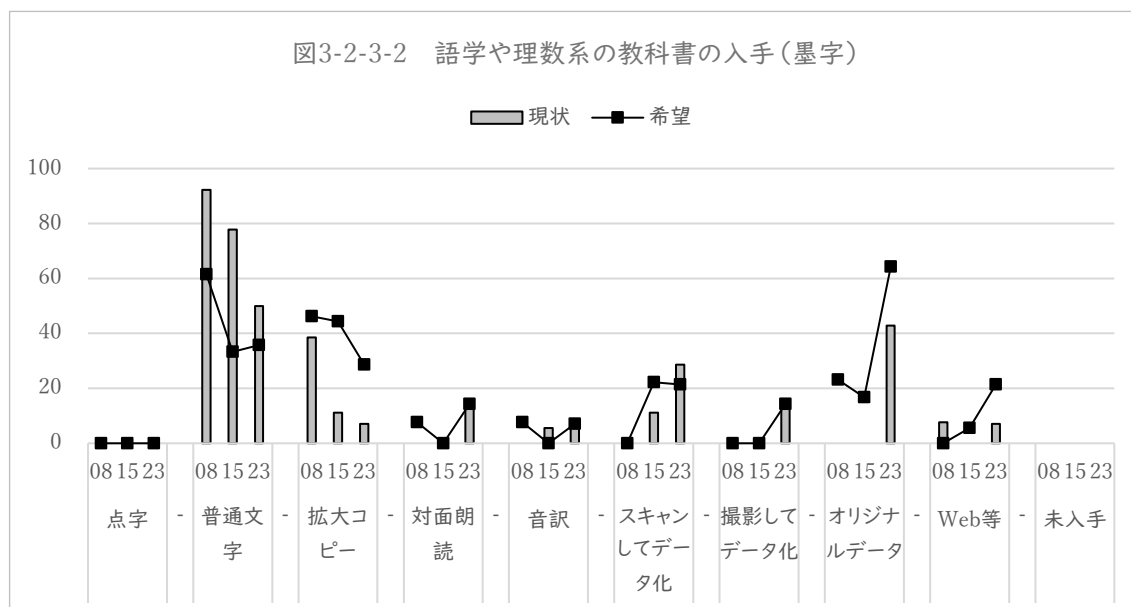
一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(80.8%)、「点字」(38.5%)、「スキャンしてデータ化」「web 等」(各 11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」「OCR」(各 55.6%)、「点字」(51.9%)で、2008 年度は、「点字」(75.0%)、「オリジナルデータ」(42.9%)、「OCR」(3.6%)でした。現状と同様に、オリジナルデータを希望する学生の割合が大きく増加し、点字を希望する学生の割合が減少してきていることがわかりました。語学や理数系以外の教科書については、データを手入れできれば教科書を読むことができていると考えられます。ただし、点字を希望している学生は減少してきていますが、4割近くいます。語学や理数系以外の教科書であるからといって一概に点字にする必要がないとはいえないこともわかりました。



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「普通文字」(50.0%)、「オリジナルデータ」(42.9%)、「スキャンしてデータ化」(28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「普通文字」(77.8%)、「拡大コピー」「OCR」(各 11.1%)で、2008 年度は、「普通文字」(92.3%)、「拡大コピー」(38.5%)、「web」(7.7%)でした。過去の調査と比べ、紙に印刷された文字で入手する学生の割合が減少し、データで入手する学生の割合が増加していることがわかりました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(64.3%)、「普通文字」(35.7%)、「拡大コピー」(28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「拡大コピー」(44.4%)、「普通文字」(33.3%)、「OCR」(22.2%)で、2008 年度は、「普通文字」(61.5%)、「拡大コピー」(46.2%)、「オリジナルデータ」(23.1%)でした。現状でもオリジナルデータを手入れしている学生

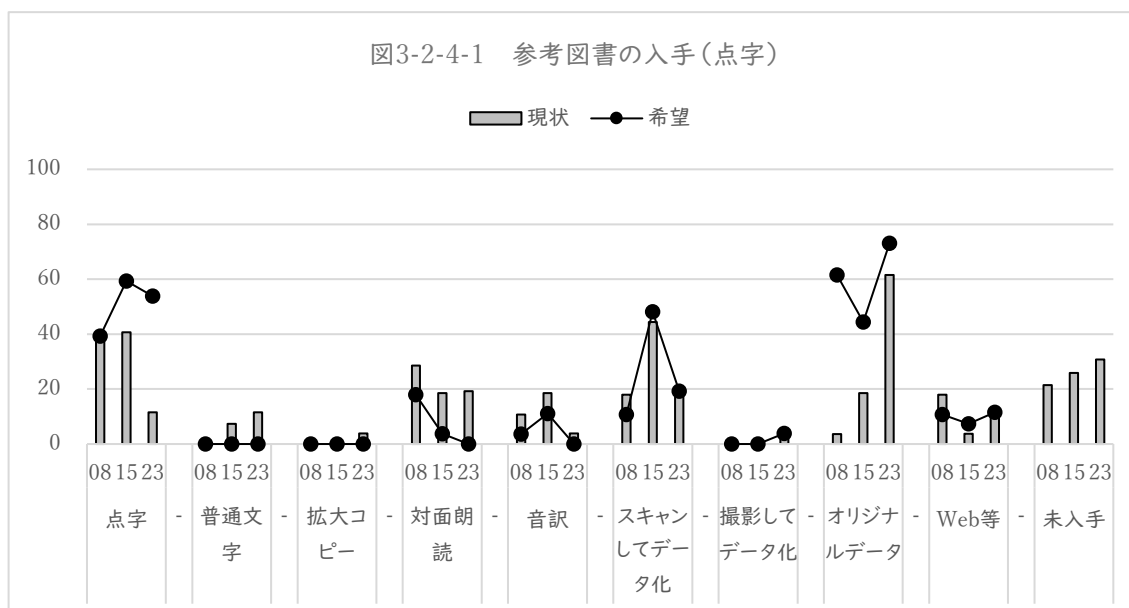
の割合が増加していましたが、オリジナルデータでの入手を希望する学生の割合はさらに高く、読みやすい形態で入手できていない学生もいることがわかりました。



④ 参考図書

図3-2-4-1に点字使用学生の参考図書の入手、図3-2-4-2に墨字使用学生の参考図書の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「オリジナルデータ」(61.5%)、「未入手」(30.8%)、「対面朗読」「スキャンしてデータ化」(各19.2%)でした。過去の調査では、2015年度は、「OCR」(44.4%)、「点字」(40.7%)、「未入手」(25.9%)で、2008年度は、「点字」(39.3%)、「対面朗読」(28.6%)、「未入手」(21.4%)でした。過去の調査に比べ、オリジナル

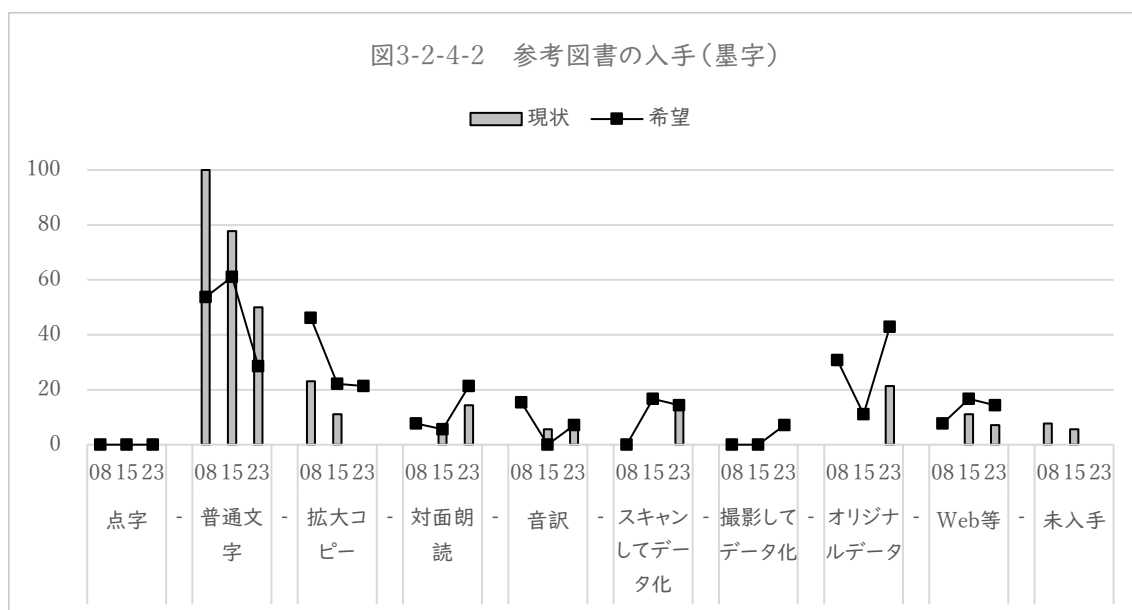


データを入手している学生の割合が大きく増加していることがわかりました。しかし、未入手の割合も減少していなかったり、点字で入手できている学生の割合が大きく減少したりしており、参考図書を十分に読めていない現状があることがわかりました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(73.1%)、「点字」(53.8%)、「web等」(11.5%)でした。過去の調査では、2015年度は、「点字」(59.3%)、「OCR」(48.1%)、「オリジナルデータ」(44.4%)で、2008年度は、「オリジナルデータ」(46.4%)、「点字」(39.3%)、「対面朗読」(17.9%)でした。過去の調査と比べ、現状と同様に、オリジナルデータを希望する学生の割合が大きく増加していることがわかりました。また、2015年度には、自分でOCRソフト等を使ってデータ化することを希望する学生も半数近くいましたが、今回は自分でデータ化してでもデータで読むことを希望する学生よりも、点字を希望する学生の割合の方が高くなりました。近年は対面朗読がほとんど利用されていないことがわかりました。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「普通文字」(50.0%)、「オリジナルデータ」(21.4%)、「対面朗読」「スキャンしてデータ化」(各14.3%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(77.8%)、「拡大コピー」「web」(各11.1%)で、2008年度は、「普通文字」(100.0%)、「拡大コピー」(23.1%)、「未入手」(7.7%)でした。2008年度には全員が普通文字を入手していましたが、普通文字の割合が徐々に減少し、今回の調査では普通文字で入手している学生は半数となりました。一方、オリジナルデータやスキャンしてデータ化したものを入手する学生だけでなく、対面朗読や音訳によって入手している学生の割合も増加していました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(42.9%)、「普通文字」(28.6%)、「拡大コピー」「対面朗読」(各21.4%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(61.1%)、「拡大コピー」(22.2%)、「web」「OCR」(各16.7%)で、2008年度は、「普通文字」(53.8%)、「拡大コピー」(46.2%)、「オリジナルの電子データ」(30.8%)でした。過去の調査と比べ、普通文字を希望する学生の割合は徐々に減少し、オリジナルデータを希望する学生や、対面



朗読を希望する学生の割合が増加しました。墨字使用学生でも、普通文字で十分に対応できる学生は少なく、多くの学生がデータや読み上げを必要としていることがわかりました。また、「その他」として、表やグラフのみを拡大コピーでもらいたいという希望もありました。紙に印刷されたものでは、文章と図表の倍率が同じですが、資料や図表等では拡大率を変える必要があることの理解が広がることを期待します。

⑤ 教科書等のまとめ

点字使用学生においては、過去の調査と比べ、オリジナルデータを入手している学生の割合が増加しており、多くの学生はオリジナルデータでの入手を希望していることが明らかとなりました。これは、「読書バリアフリー法」の整備を背景に、大学や出版社の理解と協力が進み、点字使用学生も独力で読める形態で教科書を入手できるようになった成果と考えられます。今後もこの傾向が継続されることを期待します。

一方で、語学や理数系の教科書では、文字や式を正確に読む必要があり、画面読み上げソフトによる対応では限界があるとの指摘も見られました。特に講義の内容を聞きながら、語学の教科書を音声で確認するということは大きな負担が伴うため、これらの科目では点字で入手できることを希望している学生の割合が高くなっています。大学側には、教科書の内容によって、オリジナルデータだけでは十分な対応が困難であることも理解し、適切な支援方法を選択する柔軟な姿勢が求められます。ただし、教科書を点字にする場合の経費や専門点訳者の確保などを考えると、点字使用学生が希望する教科書をすべて点字にすることは難しい現実もあります。そのような制約の中でも、語学や理数系の教科書については、学習の基盤となる重要な教材であることから、優先的に大学の経費で点字にしてもらえよう、理解を求めていく必要があります。

また、参考図書では、入手できていない学生の割合が微増していました。大学での学びは教科書だけで完結するものではなく、参考図書による知識の拡充が不可欠です。必要な教科書はほとんど入手できてきましたので、次の段階は参考図書を自由に選び読めるようにする環境を整えることが課題であると考えられます。

墨字使用学生では、いずれの教科書や図書でも、過去の調査に比べ、現状も希望もオリジナルデータの割合が大きく増加し、普通文字や拡大コピーの紙媒体の割合が減少しました。タブレット端末の普及、学生のICTスキルの向上が影響しているものと考えられます。オリジナルデータを入手できている学生の割合も増加していますが、希望に比べると現状の方が低い傾向にあります。点字使用学生だけでなく、墨字使用学生にも出版社からオリジナルデータを入手するなどの配慮が必要であることの理解が広がることを期待します。

(3) 教員・他の学生からの配布資料

「授業のプリント」、「学生の発表資料」、「提出したレポートに対するコメント」について質問しました。表 3-3-1 に点字使用学生、表 3-3-2 に墨字使用学生の結果を示します。

表 3-3-1 教員・他の学生からの配布資料(点字:単位は%)

			点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャ ン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	Web 等	未入手
授業の プリン ト	現状	08	53.6	3.6	0.0	28.6	3.6	39.3	—	75.0	7.1	14.3
		15	39.3	10.7	0.0	7.1	0.0	21.4	—	75.0	0.0	3.6
		23	11.5	3.8	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7	88.5	34.6	3.8
	希望	08	53.6	3.6	0.0	10.7	3.6	3.6	—	78.6	0.0	
		15	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	—	71.4	0.0	
		23	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	3.8	88.5	30.8	
学生の 発表資 料	現状	08	7.1	3.6	0.0	21.4	0.0	7.1	—	42.9	3.6	28.6
		15	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	—	71.4	0.0	25.0
		23	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	3.8	69.2	23.1	34.6
	希望	08	14.3	0.0	0.0	17.9	0.0	0.0	—	78.6	0.0	
		15	28.6	3.6	0.0	0.0	0.0	14.3	—	89.3	0.0	
		23	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	80.8	30.8	
提出し たレポ ートに 対する コメント	現状	08	7.1	3.6	0.0	32.1	0.0	0.0	—	53.6	0.0	10.7
		15	3.6	10.7	0.0	21.4	0.0	0.0	—	71.4	3.6	3.6
		23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	57.7	3.8
	希望	08	10.7	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	—	71.4	0.0	
		15	7.1	3.6	0.0	7.1	0.0	0.0	—	82.1	7.1	
		23	11.5	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	50.0	46.2	

表 3-3-2 教員・他の学生からの配布資料(墨字:単位は%)

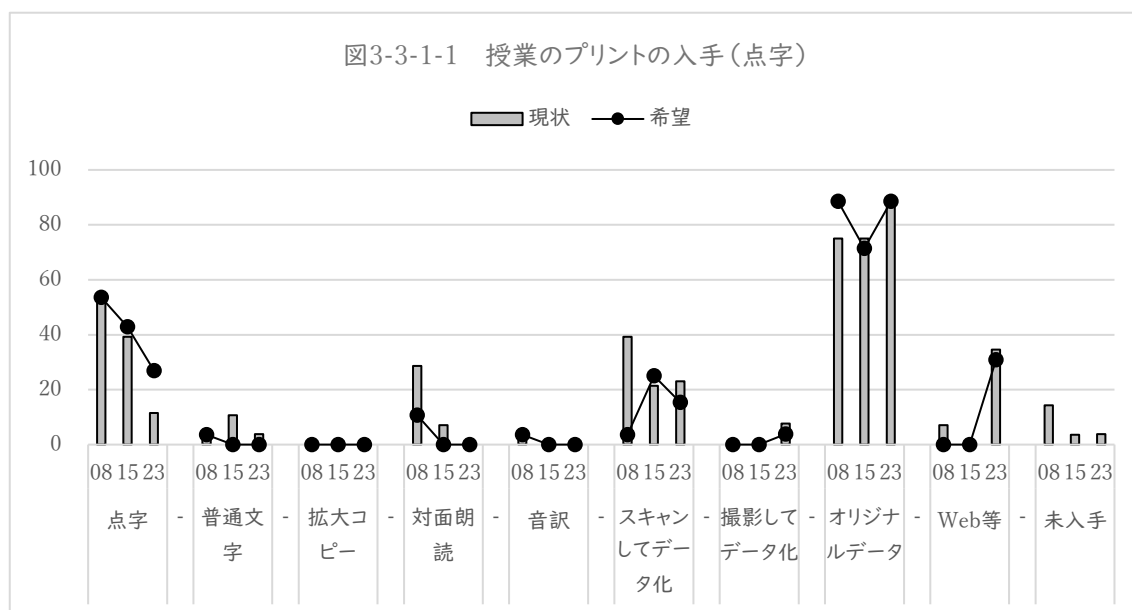
			点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャ ン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	Web 等	未入手
授業の プリン ト	現状	08	0.0	76.9	92.3	0.0	0.0	0.0	—	15.4	15.4	0.0
		15	0.0	88.9	22.2	0.0	0.0	11.1	—	22.2	0.0	0.0
		23	0.0	50.0	64.3	7.1	0.0	14.3	21.4	50.0	64.3	0.0
	希望	08	0.0	46.2	76.9	0.0	0.0	0.0	—	38.5	7.7	
		15	0.0	27.8	72.2	0.0	0.0	11.1	—	22.2	11.1	
		23	0.0	21.4	35.7	0.0	0.0	7.1	14.3	64.3	64.3	
学生の 発表資 料	現状	08	0.0	84.6	38.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0
		15	0.0	77.8	33.3	0.0	0.0	0.0	—	11.1	5.6	0.0
		23	0.0	35.7	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	42.9	21.4	7.1
	希望	08	0.0	61.5	61.5	0.0	0.0	0.0	—	23.1	0.0	
		15	0.0	38.9	44.4	0.0	0.0	11.1	—	22.2	5.6	
		23	0.0	14.3	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	64.3	42.9	
提出し たレポ ートに 対する コメント	現状	08	0.0	0.0	84.6	15.4	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0
		15	0.0	50.0	11.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	11.1	0.0
		23	0.0	35.7	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	28.6	57.1	0.0
	希望	08	0.0	53.8	38.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	
		15	0.0	50.0	11.1	0.0	0.0	0.0	—	11.1	27.8	
		23	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	64.3	

① 授業のプリント

図 3-3-1-1 に点字使用学生の授業のプリントの入手、図 3-3-1-2 に墨字使用学生の授業のプリントの入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「オリジナルデータ」(88.5%)、「web 等」(34.6%)、「スキャンしてデータ化」(23.1%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(75.0%)、「点字」(39.3%)、「OCR」(21.4%)で、2008 年度は、「オリジナルデータ」(75.0%)、「点字」(53.6%)、「OCR」(39.3%)でした。点字の割合が徐々に減少し、オリジナルデータの割合が増加してきました。また、これまではほとんどなかった大学のポータルサイト等の web から入手している学生が3割以上いました。

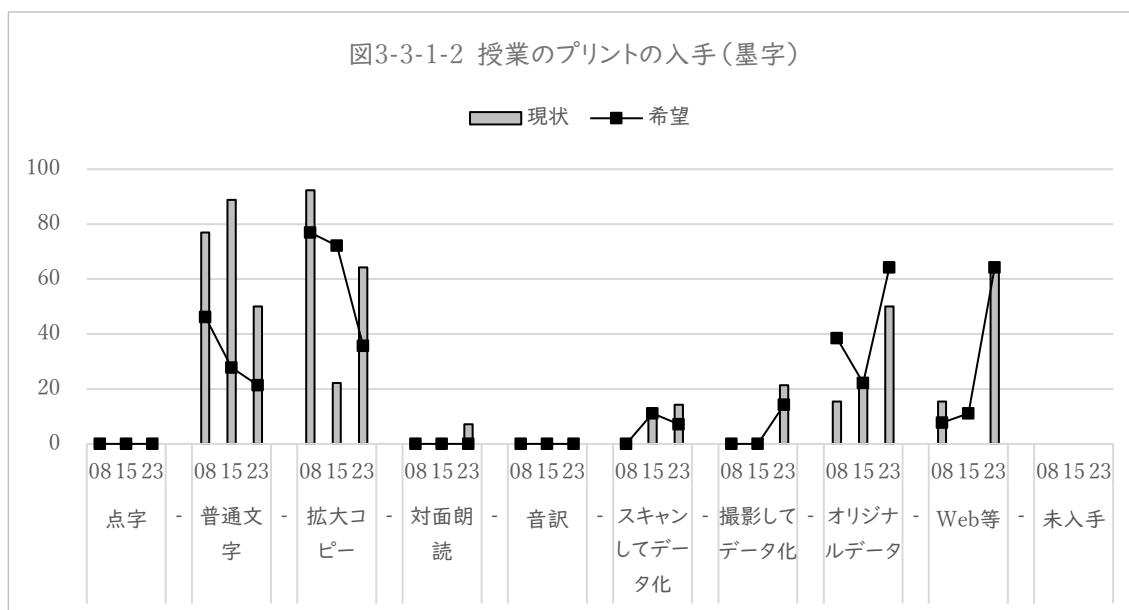
一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(88.5%)、「web 等」(34.6%)、「点字」(26.9%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(71.4%)、「点字」(42.9%)、「OCR」(25.0%)で、2008 年度は、「オリジナルデータ」(78.6%)、「点字」(53.6%)、「対面朗読」(10.7%)でした。過去の調査と比べ、点字を希望する学生の割合が減少しました。現状で、オリジナルデータや web 等から入手している学生のほとんどが、同じ方法を希望しており、点字使用学生の希望に沿った媒体で授業のプリントは入手できているようです。



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「拡大コピー」「web 等」(各64.3%)、「オリジナルデータ」(50.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「普通文字」(88.9%)、「拡大コピー」「オリジナルの電子データ」(各 22.2%)で、2008 年度は、「拡大コピー」(92.3%)、「普通文字」(76.9%)、「オリジナルの電子データ」「web」(各 15.4%)でした。過去の調査に比べ、普通文字で入手している学生の割合は減少し、web 等から入手している学生の割合が大きく増加しました。各大学のポータルサイト等の整備が広がっている様子が伺えます。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」「web 等」(各64.3%)、「拡大コピー」

(35.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「拡大コピー」(72.2%)、「普通文字」(27.8%)、「オリジナルの電子データ」(22.2%)で、2008 年度は、「拡大コピー」(76.9%)、「普通文字」(46.2%)、「オリジナルの電子データ」(38.5%)でした。過去の調査では、普通文字や拡大コピーといった紙媒体での入手を希望している学生の割合が高かったですが、今回は紙媒体よりもデータでの入手を希望する学生の割合の方が高くなりました。ポータルサイト等で授業のプリントを入手できることは、墨字使用学生にとって学びやすい環境となっていることがわかりました。



② 学生の発表資料

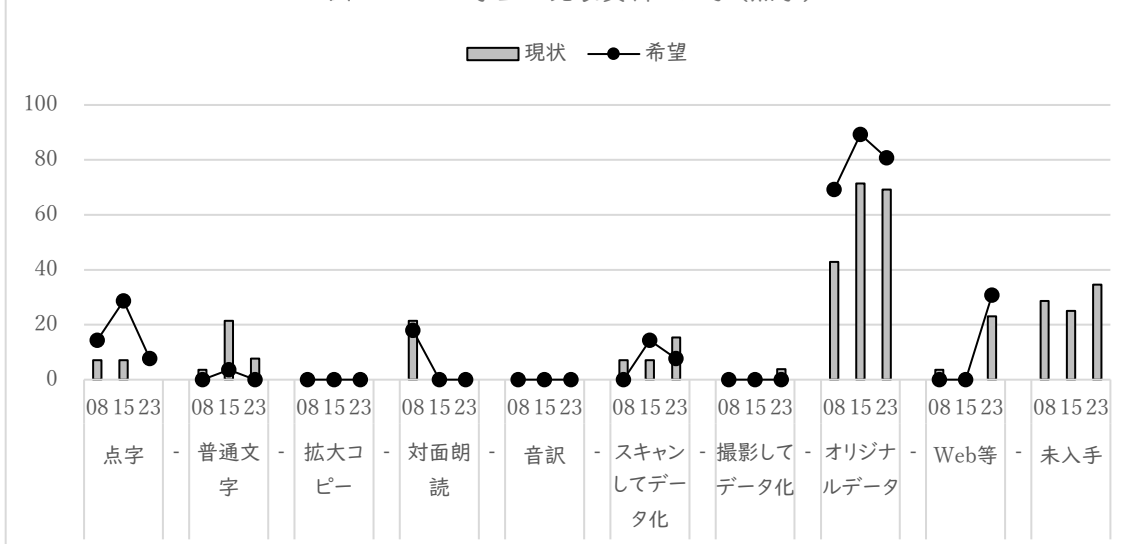
図 3-3-2-1 に点字使用学生の学生の発表資料の入手、図 3-3-2-2 に墨字使用学生の学生の発表資料の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「オリジナルデータ」(69.2%)、「web 等」(23.1%)、「未入手」(34.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(71.4%)、「未入手」(25.0%)、「普通文字」(21.4%)で、2008 年度は、「オリジナルデータ」(42.9%)、「未入手」(28.6%)、「対面朗読」(21.4%)でした。過去の調査では、web 等から入手している学生はほとんどいみせんでしたが、その割合が増加しています。しかし、入手できていない学生の割合もこれまでで一番高くなりました。これは、学生の発表資料では模造紙などに図や絵を含めて手書きでかき込むなど、視覚障害のない学生の発表の形態が多様化し、点字にしづらいものが増えていることも影響しているようです。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(80.8%)、「web 等」(30.8%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(89.3%)、「点字」(28.6%)、「OCR」(14.3%)で、2008 年度は、「オリジナルデータ」(78.6%)、「対面朗読」(17.9%)、「点字」(14.3%)でした。過去の調査と比べ、点字を希望する学生の割合は大きく減少し、web 等からの入手を希望する学生の割合が増加しました。また、オリジナルデータを希望する学生の割合もこれま

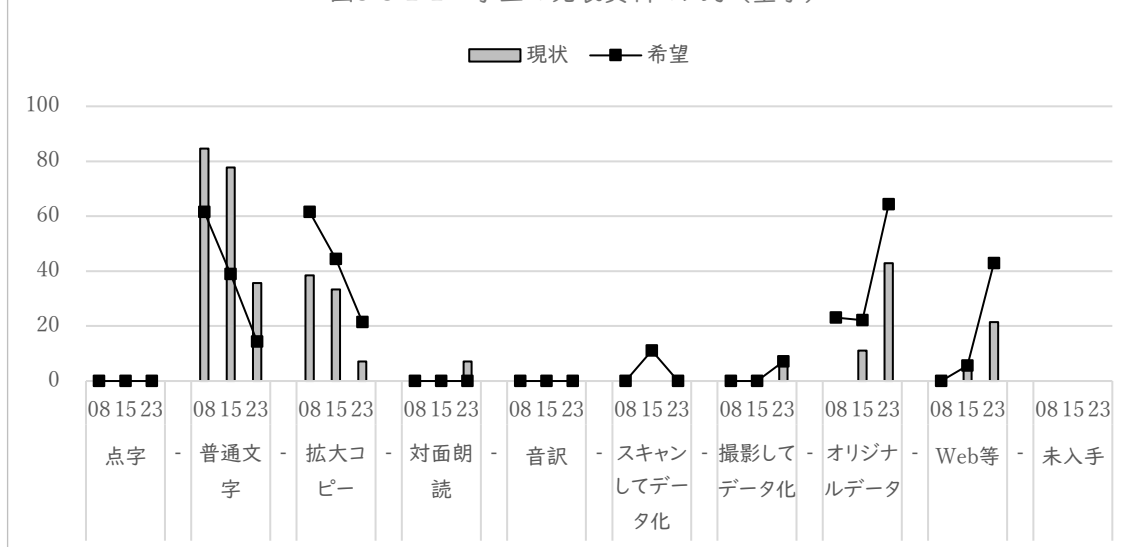
でと同様、8割程度いました。オリジナルデータが入手できると独力で読めることを他の学生に理解してもらい、発表資料の電子データを必ず提供してもらえよう、理解を促していくことが求められます。さらに、ポータルサイト等にアップロードされたものをダウンロードして入手するというシステムになると、他の学生と同様に入手できるため、特別な配慮の必要もなく、負担が少ないようです。

図3-3-2-1 学生の発表資料の入手(点字)



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「オリジナルデータ」(42.9%)、「普通文字」(35.7%)、「web等」(21.4%)でした。過去の調査では、2015年度は、「普通文字」(77.8%)、「拡大コピー」(33.3%)、「オリジナルデータ」(11.1%)で、2008年度は、「普通文字」(84.6%)、「拡大コピー」(38.5%)でした。過去の調査と比べ、普通文字で入手している学生の割合が大きく減少し、オリジナルデータを直接受け取ったり、web等からダウンロードしたりするなど、

図3-3-2-2 学生の発表資料の入手(墨字)



データで入手している学生の割合が増加しました。

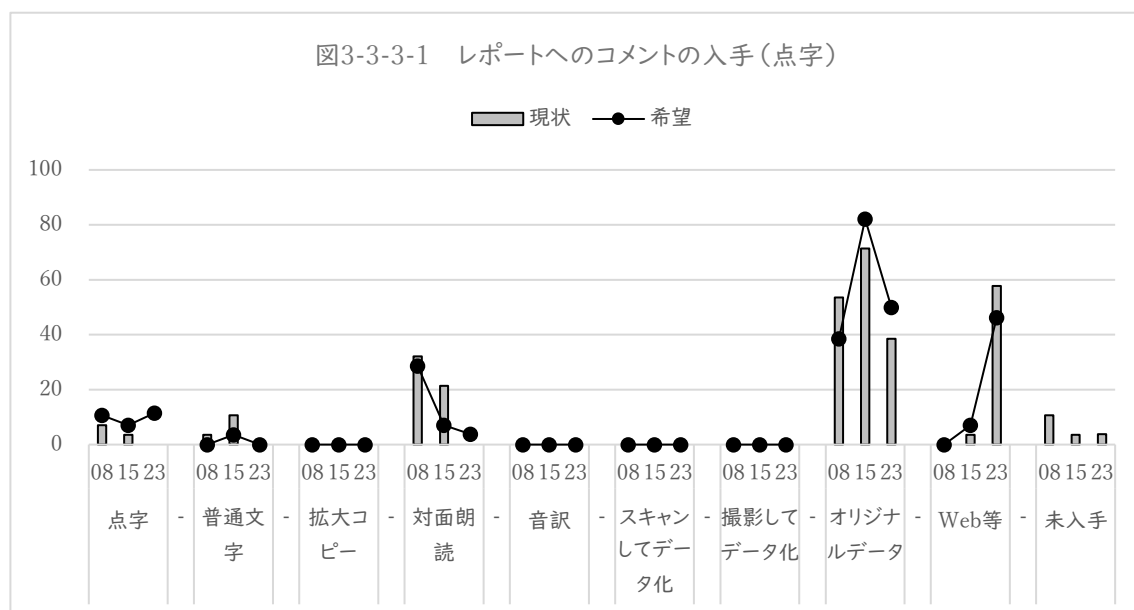
一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(64.3%)、「web 等」(42.9%)、「拡大コピー」(21.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「拡大コピー」(44.4%)、「普通文字」(38.9%)、「オリジナルの電子データ」(22.2%)で、2008 年度は、「普通文字」「拡大コピー」(各 61.5%)、「オリジナルの電子データ」(23.1%)でした。過去の調査に比べ、普通文字や拡大コピーといった紙媒体での入手を希望する学生の割合が減少し、データでの入手を希望する学生の割合が増加していることがわかりました。

③ 提出したレポートに対するコメント

図 3-3-3-1 に点字使用学生の提出したレポートに対するコメントの入手、図 3-3-3-2 に墨字使用学生の提出したレポートに対するコメントの入手の結果を示します。

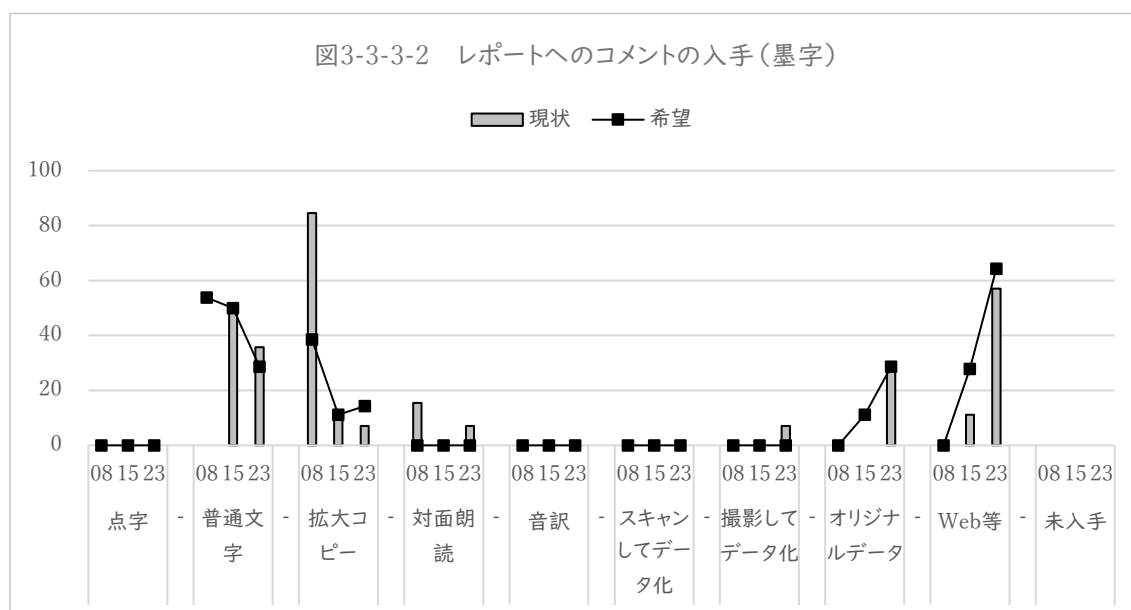
点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(57.7%)、「オリジナルデータ」(38.5%)、「未入手」(3.8%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(71.4%)、「対面朗読」(21.4%)、「普通文字」(10.7%)で、2008 年度は、「オリジナルデータ」(53.6%)、「対面朗読」(32.1%)、「未入手」(10.7%)でした。過去の調査に比べ、web 等から入手している学生の割合が大きく増加しました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「オリジナルデータ」(50.0%)、「web 等」(46.2%)、「点字」(11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「オリジナルデータ」(82.1%)、「点字」「web」「対面朗読」(各 7.1%)で、2008 年度は、「オリジナルデータ」(71.4%)、「対面朗読」(28.6%)、「点字」(10.7%)でした。過去の調査と比べ、ポータルサイト等での入手を希望する学生の割合が大きく増加しています。また、「その他」として、電子メールで送信してほしいという回答も多くなりました。



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(57.1%)、「普通文字」(35.7%)、「オリジナルデータ」(28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「普通文字」(50.0%)、「拡大コピー」「web」(各 11.1%)で、2008 年度は、「拡大コピー」(84.6%)、「対面朗読」(15.4%)でした。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(64.3%)、「普通文字」「オリジナルデータ」(各 28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「普通文字」(50.0%)、「web」(27.8%)、「拡大コピー」「オリジナルの電子データ」(各 11.1%)で、2008 年度は、「普通文字」(53.8%)、「拡大コピー」(38.5%)でした。過去の調査に比べ、現状と同様、web 等からの入手やオリジナルデータでの入手を希望する学生の割合が増加していることがわかりました。



④ 教員・他の学生からの配布資料のまとめ

点字使用学生では、2015年度の調査と同様に、オリジナルデータでの入手の割合が現状・希望ともに高いことが確認されました。さらに、今回の調査では、大学のポータルサイト等 web からの入手の割合が大きく増加しました。障害の有無に関係なく、ポータルサイト等から資料をダウンロードして入手するというシステムになっていることが多く、そのシステムで点字使用学生も資料が入手できていると考えられます。この場合、大学の先生方にとっても、点字使用学生にとっても負担が少なく、このシステムがより使いやすくなることを期待します。ただし、ポータルサイトによっては、アクセシビリティが十分でないこともあります。音声でも全体の構造を把握しやすく、操作しやすいポータルサイトが増えることを期待します。一方、学生の発表スタイルが多様化すると、点字使用学生が独力で読めない形式の資料になることもあることがわかりました。発表スタイルの多様化の中でも、様々な障害がある人にも伝わる形式を考慮するという観点が入るとよいのではないかと思います。

また、点字の資料を希望する割合は減少しているものの、点字を希望している学生もいます。特に、授業のプリントや学生の発表資料については、発表を聞きながら読むことを考えると、データよりも

点字のほうが扱いやすいとも考えられます。したがって、資料の内容や場面に応じて、資料の媒体を選択できるようにしてもらえことを期待します。

墨字使用学生では、紙媒体よりもデータでの入手の割合が、現状・希望共に高くなってきました。ポータルサイト等からデータをダウンロードできることで、スムーズに資料を入手でき、またタブレット端末等で自分の読みやすい大きさに拡大できるという状況に満足している様子が伺えました。おおむね環境が整ってきていると考えられますが、個々の見え方や ICT スキルによって異なる点がありますので、個々の学生の状況を考慮する必要はあると思われます。

(4) 事務連絡等

「掲示板等による諸連絡」、「成績の通知」、「履修登録や履修状況の確認」について質問しました。表 3-4-1 に点字使用学生、表 3-4-2 に墨字使用学生の結果を示します。

表 3-4-1 事務連絡等(点字:単位は%)

			点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャ ン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	Web 等	未入手
掲示板等による 諸連絡	現状	08	0.0	3.6	0.0	39.3	0.0	0.0	—	32.1	42.9	7.1
		15	0.0	0.0	0.0	14.8	0.0	0.0	—	33.3	74.1	11.1
		23	0.0	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	7.7	92.3	3.8
	希望	08	3.6	3.6	0.0	17.9	0.0	0.0	—	50.0	57.1	
		15	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	—	44.4	70.4	
		23	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8	0.0	11.5	76.9	
成績の 通知	現状	08	10.7	0.0	0.0	35.7	0.0	3.6	—	7.1	25.0	10.7
		15	7.1	25.0	0.0	17.9	0.0	0.0	—	17.9	46.4	0.0
		23	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	92.3	0.0
	希望	08	25.0	3.6	0.0	14.3	0.0	0.0	—	42.9	35.7	
		15	21.4	10.7	0.0	3.6	0.0	3.6	—	28.6	53.6	
		23	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	84.6	
履修登 録や履 修状況 の確認	現状	08	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	—	7.1	25.0	3.6
		15	7.1	10.7	0.0	25.0	0.0	3.6	—	3.6	53.6	10.7
		23	0.0	3.8	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	92.3	
	希望	08	17.9	0.0	0.0	14.3	3.6	0.0	—	28.6	57.1	
		15	7.1	7.1	0.0	25.0	0.0	3.6	—	7.1	53.6	
		23	3.8	0.0	0.0	11.5	0.0	0.0	0.0	15.4	85.6	

① 掲示板等による諸連絡

図 3-4-1-1 に点字使用学生の掲示板等による諸連絡の入手、図 3-4-1-2 に墨字使用学生の掲示板等による諸連絡の入手の結果を示します。

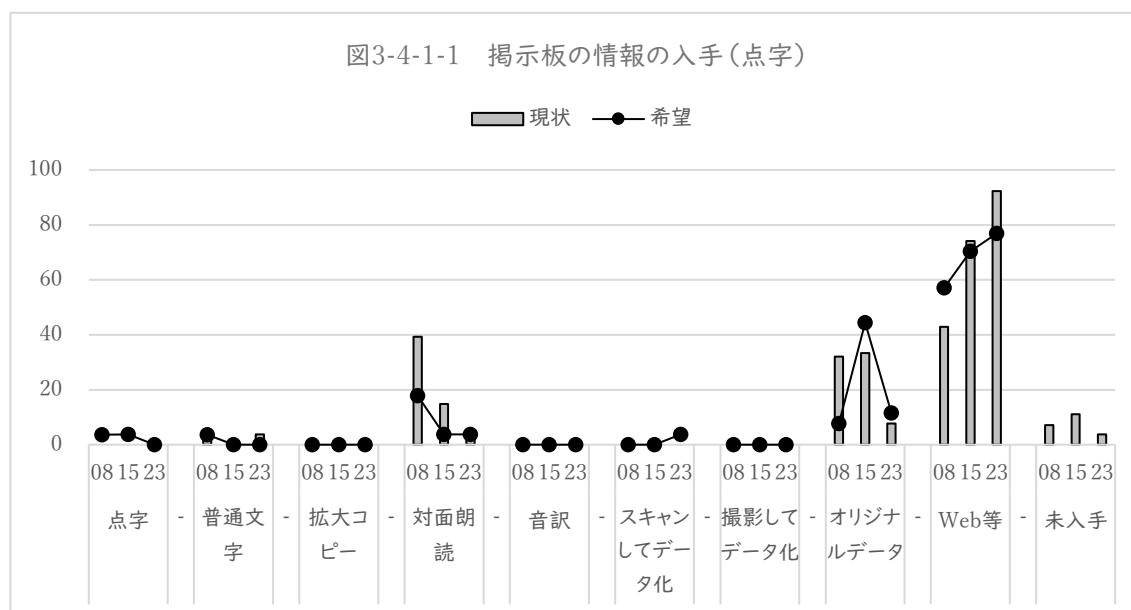
点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(92.3%)、「オリジナルデータ」(7.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(74.1%)、「オリジナルの電子データ」(33.3%)、「対面朗読」(14.8%)で、2008 年度は、「web」(42.9%)、「対面朗読」(39.3%)、「オリジナルの電子データ」(32.1%)でした。前回の調査でも web から入手している学生の割合が大きく増加しましたが、今回の調査では9割以上の学生がweb等から入手しており、ほかの手段

はほとんど使われていないことがわかりました。これは、視覚障害のない学生向けにも、掲示板の情報をポータルサイト等に掲載している大学が増えており、点字使用学生も web を利用して独力で読めるようになってきているためであると考えられます。

表 3-4-2 事務連絡等(墨字:単位は%)

			点字	普通 文字	拡大 コピー	対面 朗読	音訳	スキャ ン→デ ータ化	撮影→ データ 化	オリジ ナルデ ータ	Web 等	未入手
掲示板 等によ る 諸連絡	現状	08	0.0	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0	—	30.8	46.2	7.7
		15	0.0	16.7	11.1	5.6	0.0	0.0	—	11.1	72.2	0.0
		23	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	64.3	14.3
	希望	08	0.0	23.1	30.8	7.7	7.7	0.0	—	23.1	69.2	
		15	0.0	11.1	11.1	5.6	0.0	0.0	—	5.6	72.2	
		23	0.0	14.3	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0	21.4	64.3	
成績の 通知	現状	08	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	30.8	0.0
		15	0.0	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	61.1	0.0
		23	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1	78.6	0.0
	希望	08	0.0	69.2	23.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	30.8	
		15	0.0	44.4	16.7	0.0	0.0	5.6	—	11.1	44.4	
		23	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	85.7	
履修登 録や履 修状況 の確認	現状	08	0.0	38.5	0.0	0.0	0.0	0.0	—	7.7	61.5	0.0
		15	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	83.3	0.0
		23	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	85.7	0.0
	希望	08	0.0	53.8	38.5	0.0	0.0	0.0	—	7.7	53.8	
		15	0.0	11.1	5.6	0.0	0.0	0.0	—	5.6	83.3	
		23	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	85.7	

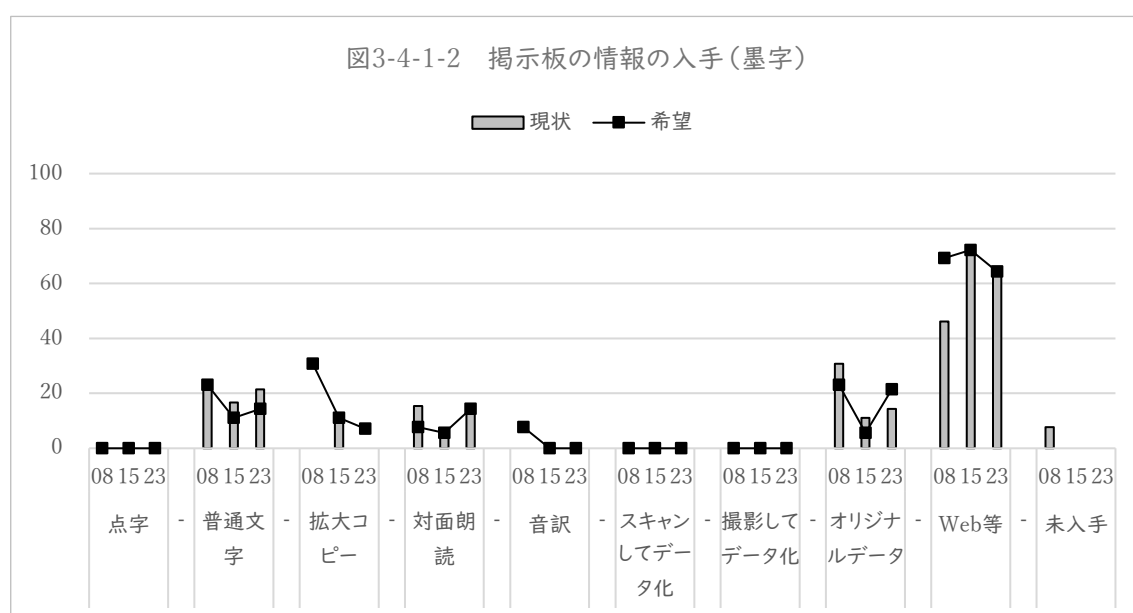
一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(76.9%)、「オリジナルデータ」(11.5%)、「対面朗読」「スキャンしてデータ化」(各3.8%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(70.4%)、「オリジナルデータ」(44.4%)、「点字」「対面朗読」(各3.7%)で、2008 年度は、



「web」(57.1%)、「オリジナルの電子データ」(50.0%)、「対面朗読」(17.9%)でした。過去の調査と比べ、web 等での入手を希望する学生の割合はあまり変わりませんが、ほかの手段を希望する学生の割合が大きく減少しました。なお、ポータルサイト等で情報を入手できているものの、必要な情報だけをメールで送信してほしいという回答もあり、web 等の中にある多くの情報から必要な情報にたどりつくまでには、視覚障害のない学生と比べるとかなりの時間を要することは考慮すべきだと考えられます。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(64.3%)、「普通文字」(21.4%)、「対面朗読」「オリジナルデータ」「未入手」(各14.3%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(72.2%)、「普通文字」(16.7%)、「オリジナルデータ」「拡大コピー」(各11.1%)で、2008 年度は、「web」(46.2%)、「オリジナルデータ」(30.8%)、「普通文字」(23.1%)でした。前回の調査と比べ、変化は見られませんでした。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(64.3%)、「オリジナルデータ」(21.4%)、「普通文字」「対面朗読」(各14.3%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(72.2%)、「拡大コピー」「普通文字」(各 11.1%)で、2008 年度は、「web」(69.2%)、「拡大コピー」(30.8%)、「オリジナルの電子データ」「普通文字」(各 23.1%)でした。こちらも前回の調査と比べ、大きな変化は見られませんでした。なお、点字使用学生と同様、必要な情報をメールで送信してほしいという回答が複数ありました。



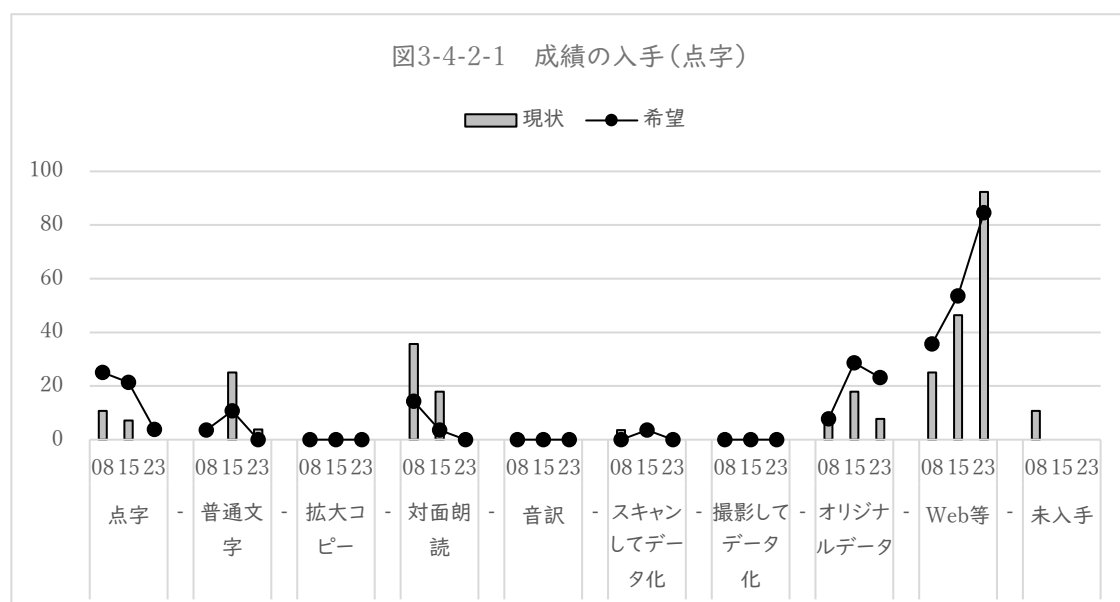
② 成績の通知

図 3-4-2-1 に点字使用学生の成績の通知の入手、図 3-4-2-2 に墨字使用学生の成績の通知の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(92.3%)、「オリジナルデータ」(7.7%)、「普通文字」(3.8%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(46.4%)、「普

通文字」(25.0%)、「オリジナルの電子データ」「対面朗読」(各17.9%)で、2008年度は、「対面朗読」(35.7%)、「web」(25.0%)、「点字」 「未入手」(各10.7%)でした。過去の調査に比べ、ポータルサイト等のwebから入手している学生の割合が大きく増加し、他の手段で入手している学生の割合はかなり低くなりました。

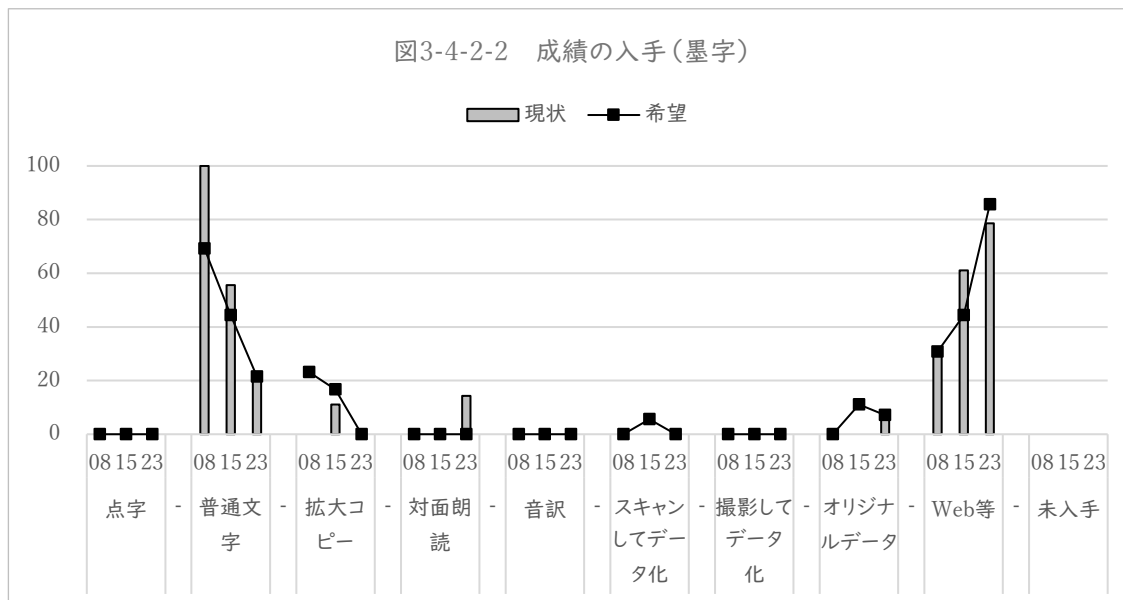
一方、希望を割合の高い順に示すと、「web等」(84.6%)、「オリジナルデータ」(23.1%)、「点字」(3.8%)でした。過去の調査では、2015年度は、「web」(53.6%)、「オリジナルデータ」(28.6%)、「点字」(21.4%)で、2008年度は、「オリジナルデータ」(42.9%)、「web」(35.7%)、「点字」(25.0%)でした。過去の調査と比べ、web等からの入手を希望する学生の割合が大きく増加しました。しかし、現状では9割以上の学生がweb等から入手しているものの、成績データを直接受け取りたいという希望や、データではなく点字で受け取りたいという希望もありました。成績は正確に確認しなければならない情報ですので、個々の学生が安心して確認できる方法を相談できる環境が必要だと考えられます。



墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web等」(78.6%)、「普通文字」(21.4%)、「対面朗読」(14.3%)でした。過去の調査では、2015年度は、「web」(61.1%)、「普通文字」(55.6%)、「拡大コピー」(11.1%)で、2008年度は、「普通文字」(100.0%)、「web」(30.8%)でした。過去の調査と比べ、普通文字や拡大コピーといった紙媒体で入手している学生の割合が大きく減少し、ポータルサイト等のwebやオリジナルデータで入手している学生の割合が増加していることがわかりました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web等」(85.7%)、「普通文字」(21.4%)、「オリジナルデータ」(7.1%)でした。過去の調査では、2015年度は、「web」「普通文字」(各44.4%)、「拡大コピー」(16.7%)で、2008年度は、「普通文字」(69.2%)、「web」(30.8%)、「拡大コピー」(23.1%)でした。前回の調査では、webで通知する大学が増加してきていましたが、web

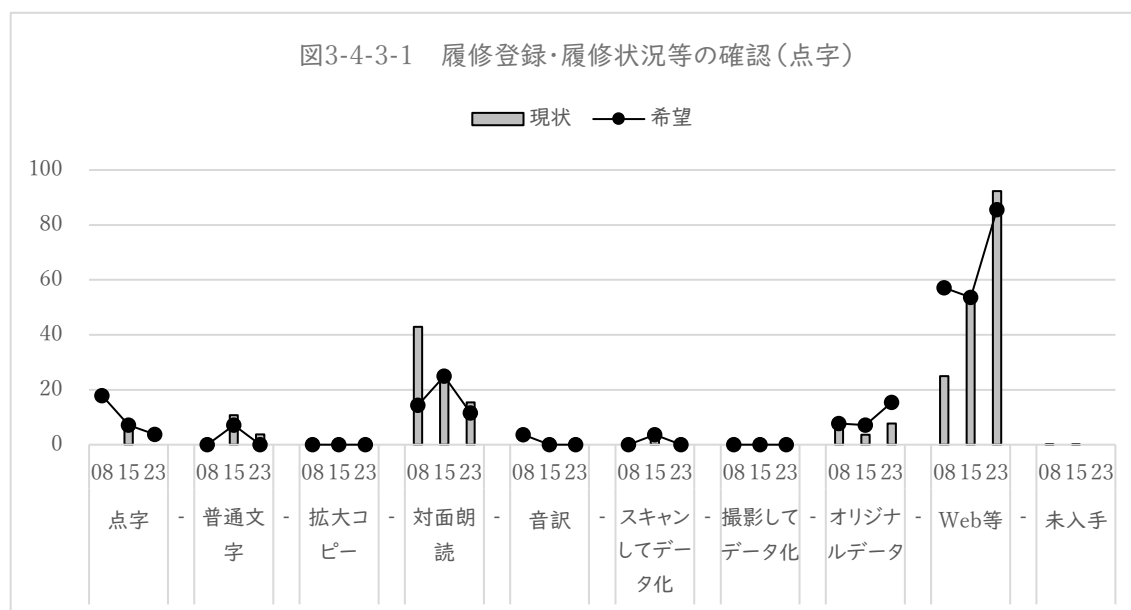
からの入手を希望する学生は半数以下でした。しかし、今回は、現状の割合よりも希望する学生の割合が高くなりました。これは、大学のポータルサイト等の整備が進み、使いやすくなっていることや、学生の ICT スキルが向上していることが影響しているのではないかと考えられます。



③ 履修登録や履修状況の確認

図3-4-3-1 に点字使用学生の履修登録や履修状況の確認の入手、図3-4-3-2 に墨字使用学生の履修登録や履修状況の確認の入手の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(92.3%)、「対面朗読」(15.4%)、「オリジナルデータ」(7.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(53.6%)、「対面朗読」(25.0%)、「普通文字」「未入手」(各 10.7%)で、2008 年度は、「対面朗読」(42.9%)、「web」(25.0%)、「オリジナルデータ」(7.1%)でした。過去の調査に比べ、web 等で入手してい

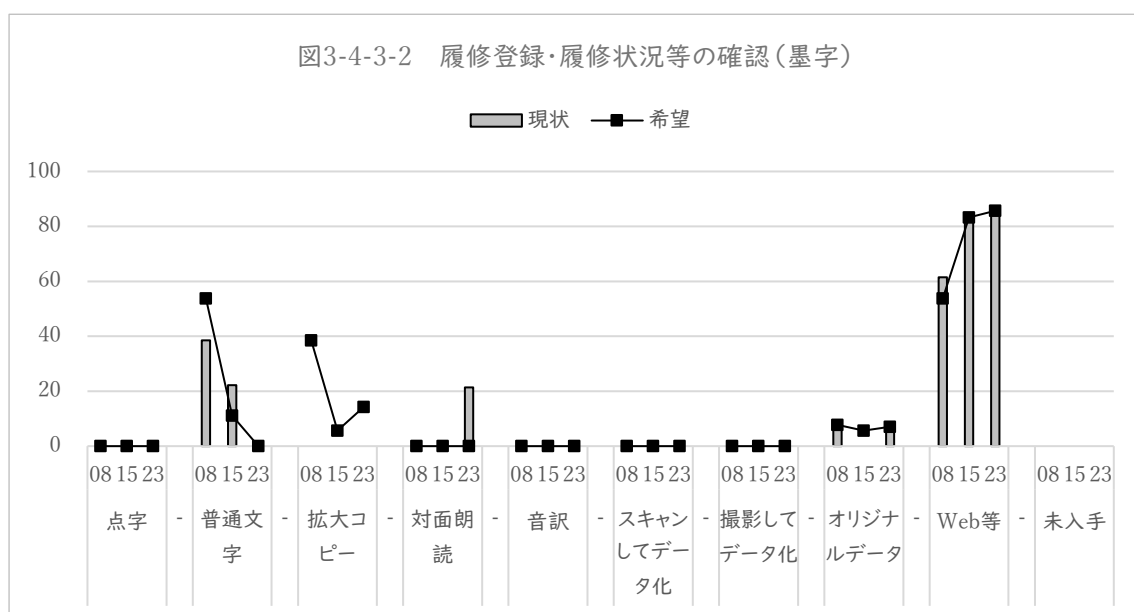


る学生の割合が大きく増加しました。これは、履修登録や履修状況の確認もまた、web 等で行う大学が増えてきているためであると考えられます。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(85.6%)、「オリジナルデータ」(15.4%)、「対面朗読」(11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(53.6%)、「対面朗読」(25.0%)、「オリジナルデータ」「普通文字」「未入手」(各 7.1%)で、2008 年度は、「web」(57.1%)、「オリジナルデータ」(28.6%)、「点字」(17.9%)でした。過去の調査と比べ、現状と同様、web 等での入手を希望する学生の割合が大きく増加しました。しかし、卒業に必要な科目等、様々な条件をきちんと満たして正確に登録しなければならず、間違えると進級や卒業に影響してしまうという側面もあるため、支援室等でサポートしてもらいながら行いたいという希望も複数ありました。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(85.7%)、「対面朗読」(21.4%)、「オリジナルデータ」(7.1%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(83.3%)、「普通文字」(22.2%)で、2008 年度は、「web」(61.5%)、「普通文字」(38.5%)、「オリジナルの電子データ」(7.7%)でした。過去の調査と比べ、web 等で入手している学生の割合が最も高かった点は変わりありませんが、他の手段として普通文字や拡大コピーといった紙媒体で入手している学生がいなくなり、対面朗読の割合が増加しました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(85.7%)、「拡大コピー」(14.3%)、「オリジナルデータ」(7.1%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web」(83.3%)、「普通文字」(11.1%)、「オリジナルの電子データ」「拡大コピー」(各5.6%)で、2008 年度は、「web」「普通文字」(各 53.8%)、「拡大コピー」(38.5%)でした。前回の調査から、web 等を希望する学生の割合が8割を超え、普通文字や拡大コピーを希望する学生の割合は減少しています。このことから、web で履修登録や履修状況を確認できるようになっている状況が、墨字使用学生にとっては便利になってきていると考えられます。



④ 事務連絡等のまとめ

掲示板等による諸連絡、成績の通知、履修登録や履修状況の確認のいずれの場合にも、点字使用学生、墨字使用学生ともに、前回の調査と同様に、現状も希望も「web等での入手」の割合が最も高かったです。これは、一般の学生向けに整備されてきているシステムを、視覚障害学生も活用できているものと考えられ、大学側が特別な配慮をしなくても、視覚障害学生が対応しやすい環境になってきていると考えられます。

ただし、履修登録や履修状況の確認においては、現状・希望ともに web の割合が最多ではあるものの、正確に手続きを行うためには、人的支援も必要であることの理解を求めていく必要があります。

また、入学当初から web を用いて効率的に情報を得られるよう、高校時代からパソコンや画面読み上げソフトなどの操作に慣れておくことが望まれます。一方、大学側には、web サイトの設計にあたり、画面読み上げソフトを用いて読んでも効率よく正確に読み取れるようなレイアウトや形式の工夫をお願いしたいものです。

4. 資料の提出

「授業中に作成し提出する資料」、「授業以外で作成し提出する資料」、「事務手続き」の資料の提出形態について、現状と希望を質問しました。

提出形態については、以下の8形態からあてはまるものをすべて選んでもらいました。それぞれの項目について、各形態を利用している割合及び、希望している割合を、点字使用学生・墨字使用学生別に表と図に示します。

- a. 点字で作成し紙で提出
- b. 点字で作成しデータで提出
- c. 自筆(墨字)で作成し提出
- d. パソコンなどで墨字を作成し印刷して提出
- e. パソコンなどで墨字を作成し電子メール等の電子データで提出
- f. web入力・学内のポータルサイト・オンライン学習システムなどで提出
- g. 手続き専用端末の利用
- h. 代筆してもらって提出

なお、過去の調査では「a.点字で作成し紙で提出」と「b.点字で作成しデータで提出」をまとめて「点字で提出」としていました。過去の調査と比べるため、「a.点字で作成し紙で提出」と「b.点字で作成しデータで提出」と回答した学生を合計し、「点字で提出」としました。その上で、手書きとデータの内訳を示しました。

表 4-1-1 授業中に作成し提出する資料(点字:単位は%)

		点字 ()内は順に 手書き:データ		自筆	印刷	電子 メール等	web等	専用端末	代筆
小テスト	現状	08	14.3	3.6	28.6	64.3	3.6	0.0	21.4
		15	21.4	3.6	10.7	78.6	0.0	0.0	32.1
		23	0.0	0.0	0.0	65.4	69.2	0.0	7.7
	希望	08	42.9	0.0	10.7	67.9	3.6	0.0	3.6
		15	46.4	0.0	7.1	57.1	0.0	0.0	10.7
		23	19.2	0.0	0.0	65.4	57.7	0.0	0.0
		(11.5:7.7)							
出席 カード	現状	08	0.0	7.1	3.6	25.0	0.0	0.0	96.4
		15	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	21.4	82.3
		23	0.0	3.8	3.8	26.9	26.9	15.4	65.4
	希望	08	25.0	3.6	0.0	17.9	3.6	0.0	50.0
		15	7.1	3.6	0.0	3.6	3.6	21.4	64.3
		23	11.5	0.0	0.0	23.1	34.6	15.4	26.9
		(7.7:3.8)							
授 業 内 のコメント カード	現状	08	3.6	3.6	14.3	64.3	0.0	0.0	60.7
		15	0.0	3.6	10.7	85.7	0.0	0.0	21.4
		23	0.0	0.0	3.8	69.2	61.5	0.0	30.8
	希望	08	21.4	3.6	7.1	67.9	0.0	0.0	25.0
		15	17.9	3.6	0.0	67.9	0.0	0.0	17.9
		23	11.5	0.0	0.0	61.5	65.4	0.0	11.5
		(3.8:7.7)							

表 4-1-2 授業中に作成し提出する資料（墨字：単位は％）

		点字	自筆	印刷	電子メール等	web 等	専用端末	代筆
小テスト	現状	08	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		15	0.0	94.4	0.0	0.0	16.7	0.0
		23	0.0	64.3	7.1	35.7	50.0	7.1
	希望	08	0.0	92.3	7.7	15.4	0.0	0.0
		15	0.0	77.8	5.6	22.2	11.1	0.0
		23	0.0	42.9	7.1	64.3	50.0	7.1
出席カード	現状	08	0.0	100.0	0.0	0.0	7.7	0.0
		15	0.0	83.3	0.0	0.0	16.7	5.6
		23	0.0	42.9	0.0	14.3	42.9	14.3
	希望	08	0.0	92.3	0.0	7.7	7.7	7.7
		15	0.0	72.2	0.0	11.1	22.2	0.0
		23	0.0	21.4	0.0	21.4	50.0	14.3
授業内のコメントカード	現状	08	0.0	100.0	7.7	0.0	0.0	0.0
		15	0.0	94.4	0.0	5.6	5.6	0.0
		23	0.0	50.0	0.0	42.9	57.1	14.3
	希望	08	0.0	92.3	15.4	7.7	7.7	0.0
		15	0.0	83.3	11.1	5.6	5.6	0.0
		23	0.0	35.7	7.1	42.9	64.3	7.1

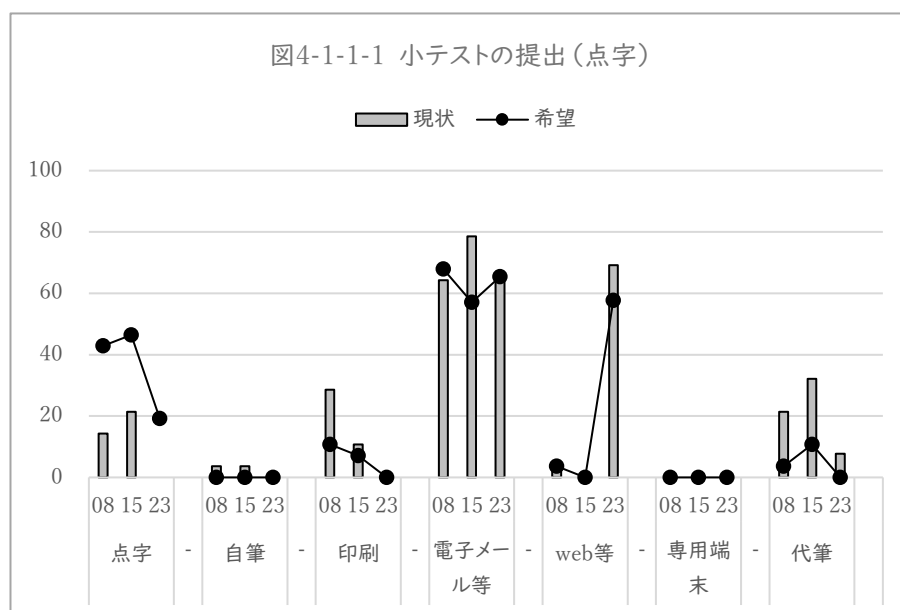
（1）授業中に作成し提出する資料

「小テスト」、「出席カード」、「授業内のコメントカード」について質問しました。表 4-1-1 に点字使用学生、表 4-1-2 に墨字使用学生の結果を示します。

① 小テスト

図 4-1-1-1 に点字使用学生の小テストの提出、図 4-1-1-2 に墨字使用学生の小テストの提出の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」（69.2%）、「電子メール等」（65.4%）、「代筆」（7.7%）でした。過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」（78.6%）、「代筆」（32.1%）、「点字」（21.4%）で、2008 年度は、「電子データ」（64.3%）、



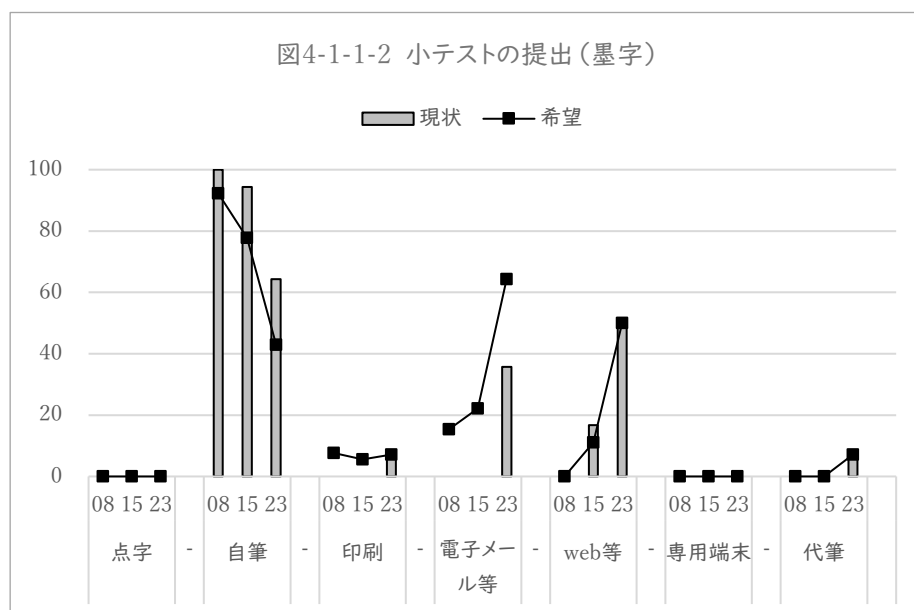
「印刷」(28.6%)、「代筆」(21.4%)でした。過去の調査ではほとんど利用されていなかったオンライン学習システムなどを用いた小テストを受けている学生が6割を超えました。一方、点字で提出している学生は全くいなくなりました。なお、免除されている学生もいました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「電子メール等」(65.4%)、「web 等」(57.7%)、「点字」(19.2%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」(57.1%)、「点字」(46.4%)、「代筆」(10.7%)で 2008 年度は、「電子データ」(67.9%)、「点字」(42.9%)、「印刷」(10.7%)でした。過去の調査と比べ、web 等での提出を希望する学生の割合が大きく増加し、点字を希望する学生の割合は大きく減少しました。また、2015年度は電子データを希望する学生の割合が減少していましたが、今回は電子メールやUSBなどを用いて電子データでの提出を希望する学生の割合が増加しました。

インターネット環境が安定してきていることや学生のICTスキルが向上しているものと考えられます。なお、点字を希望する学生の割合は減少していますが、現状は点字で提出している学生がいなかった中、手書きも含めて点字での提出を希望している学生がいることは軽視できません。成績に関わる提出物については、より確実な手段を選択できるようになることを期待します。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「自筆」(64.3%)、「web 等」(50.0%)、「電子メール等」(35.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(94.4%)、「web 入力」(16.7%)で、2008 年度は、「自筆」(100.0%)のみでした。2008年度の調査から、自筆で提出している学生の割合が最も高いという点は変わりませんが、その割合は次第に減少してきています。それに対し、web 等での提出が増加してきています。

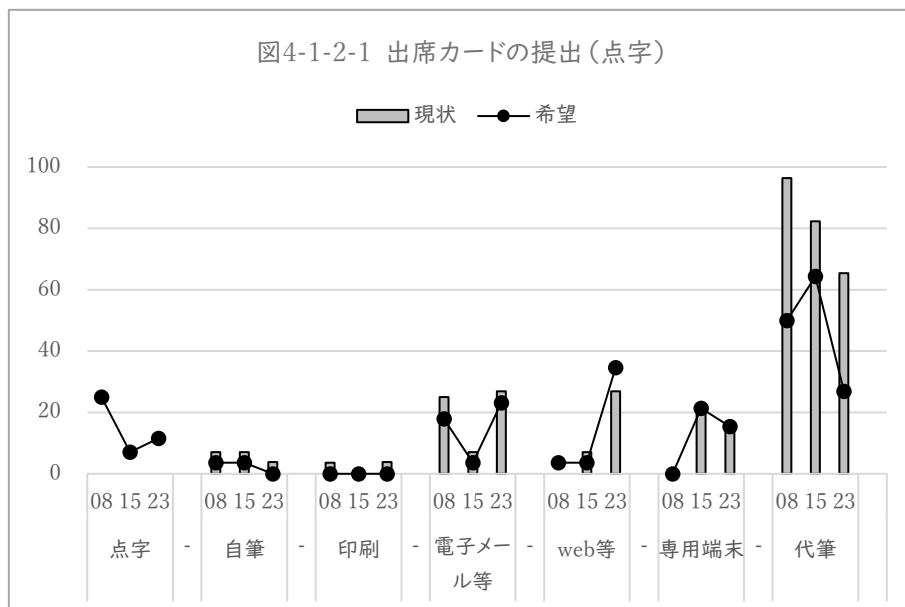
一方、希望を割合の高い順に示すと、「電子メール等」(64.3%)、「web 等」(50.0%)、「自筆」(42.9%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(77.8%)、「電子データ」(22.2%)、「web 入力」(11.1%)で、2008 年度は、「自筆」(92.3%)、「電子データ」(15.4%)、「印刷」(7.7%)でした。現状と同様、自筆での提出を希望する学生の割合は次第に減少し、電子メール等のデータでの提出や web 上での提出を希望する学生の割合が増加してきていることがわかりました。



② 出席カード

図 4-1-2-1 に点字使用学生の出席カードの提出、図 4-1-2-2 に墨字使用学生の出席カードの提出の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「代筆」(65.4%)、「電子メール等」「web 等」(各 26.9%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「代筆」(82.3%)、「専用端末」(21.4%)、「自筆」「電子データ」「web 入力」(各 7.1%)で、2008 年度は、「代筆」(96.4%)、「電子データ」

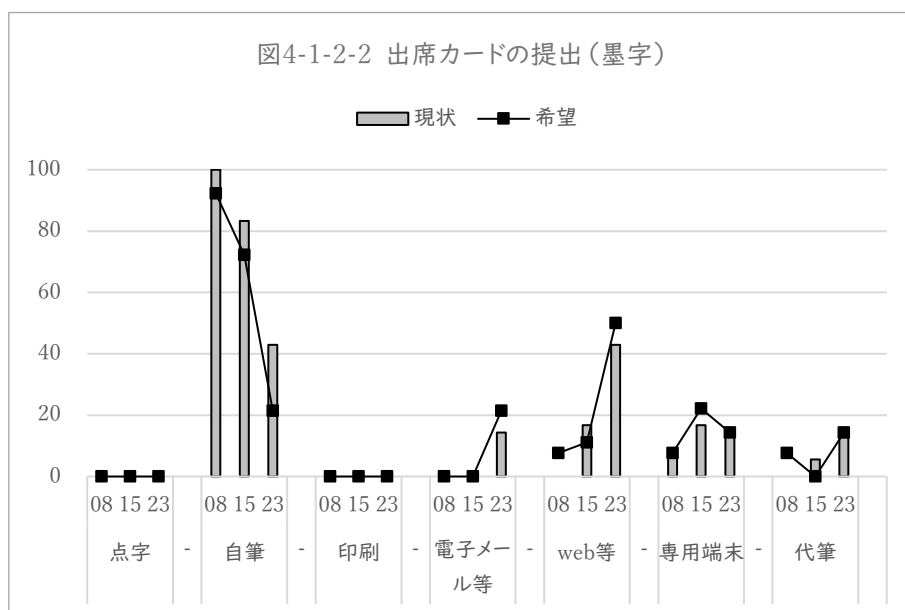


「電子データ」(25.0%)、「自筆」(7.1%)でした。2008年度の調査から、代筆で提出している学生の割合が最も高いという点は変わりませんが、その割合は次第に減少してきています。それに対し、電子メール等のデータでの提出やオンライン学習システムなどの web 上での提出が増加してきています。また、教員や TA に目視で確認されているという回答も複数ありました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(34.6%)、「代筆」(26.9%)、「電子メール等」(23.1%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「代筆」(64.3%)、「専用端末」(21.4%)、「点字」(7.1%)で、2008 年度は、「代筆」(50.0%)、「点字」(25.0%)、「電子データ」

(17.9%)でした。過去の調査と比べ、代筆での提出を希望する学生の割合が大きく減少し、電子メール等のデータでの提出や web での入力が、現状の増加と伴って希望する学生の割合も増加していることがわかりました。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「自筆」「web 等」



(各 42.9%)、「電子メール等」「専用端末」「代筆」(各 14.3%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(83.3%)、「web 入力」「専用端末」(各 16.7%)で、2008 年度は、「自筆」(100.0%)、「専用端末」(7.7%)でした。過去の調査と比べ、自筆で提出している学生の割合が大きく減少し、オンライン学習システムなど web で提出している学生の割合が大きく増加しました。

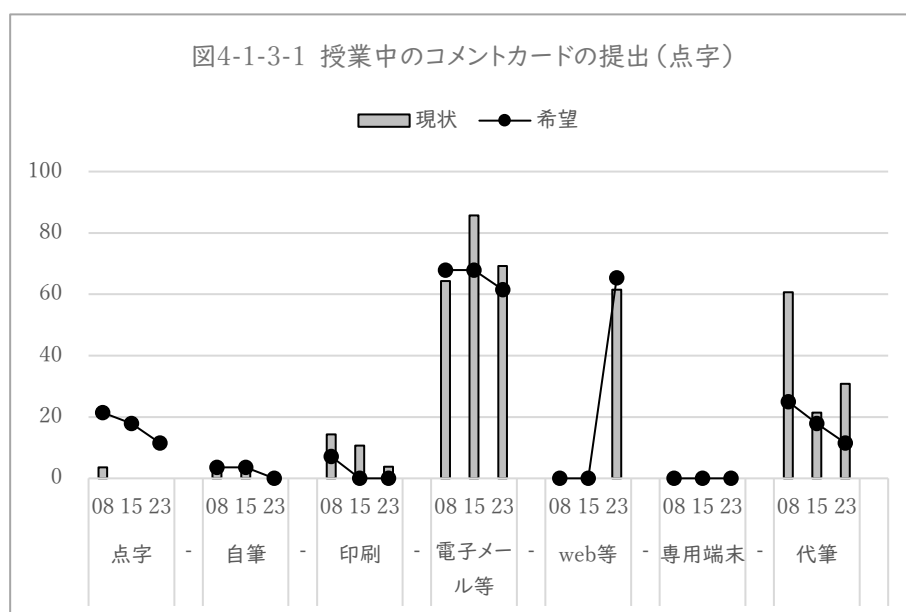
一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(50.0%)、「自筆」「電子メール等」(各 21.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(72.2%)、「専用端末」(22.2%)、「web 入力」(11.1%)で、2008 年度は、「自筆」(92.3%)、「代筆」「web 入力」「専用端末」(各 7.7%)でした。自筆を希望する学生の割合が次第に減少し、web での入力を希望する学生が時代に増加してきていることがわかりました。

③ 授業内のコメントカード

図 4-1-3-1 に点字使用学生の授業内のコメントカードの提出、図 4-1-3-2 に墨字使用学生の授業内のコメントカードの提出の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「電子メール等」(69.2%)、「web 等」(61.5%)、「代筆」(30.8%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」(85.7%)、

「代筆」(21.4%)、「印刷」(10.7%)で、2008 年度は、「電子データ」(64.3%)、「代筆」(60.7%)、「印刷」(14.3%)でした。過去の調査ではみられなかった web 上で入力して提出するという回答が6割を超えました。それに対し、代筆で提出している学生の割合が減少するかと予想しましたが、



2015年度よりも増加していました。各大学でオンライン学習システムの整備が急速に進んでいますが、授業のコメントにおいてもシステムを利用できるかどうかは、大学や担当教員によって差があるものと思われます。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(65.4%)、「電子メール等」(61.5%)、「点字」「代筆」(各 11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」(67.9%)、「点字」「代筆」(各 17.9%)で、2008 年度は、「電子データ」(67.9%)、「代筆」(25.0%)、「点字」(21.4%)でした。現状と同様に、過去の調査では希望されていなかった、web 上での提出を希望する学生の割合が6割を超えており、現状、web 上で提出している学生のほとんどはこの手段がよ

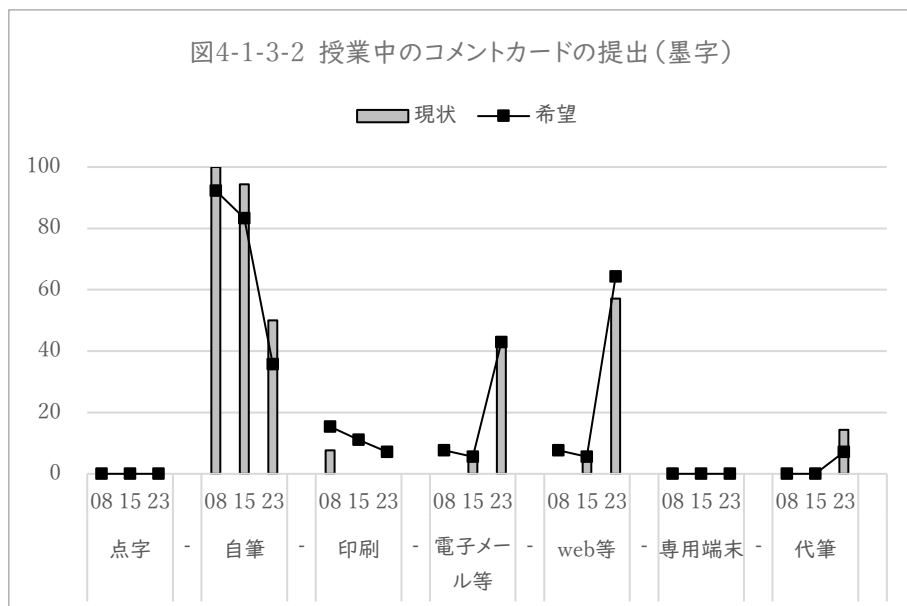
いと感じていることがわかりました。一方、代筆で提出している学生の割合に対し、代筆での提出を希望している学生の割合は低く、独力で作成できる手段で提出できることが望ましいといえます。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(57.1%)、「自筆」(50.0%)、「電子メール等」(42.9%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(94.4%)、「電子データ」「web 入力」(各 5.6%)

で、2008 年度は、「自筆」(100.0%)、「印刷」(7.7%)でした。過去の調査に比べ、自筆で作成して提出している学生の割合が大きく減少し、電子メール等のデータでの提出や web 上に入力して提出している学生の割合が大きく増加しました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(64.3%)、「電子メール

等」(42.9%)、「自筆」(38.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(83.3%)、「印刷」(11.1%)、「電子データ」「web 入力」(各 5.6%)で、2008 年度は、「自筆」(92.3%)、「印刷」(15.4%)、「電子データ」「web 入力」(各 7.7%)でした。過去の調査に比べ、現状の傾向と同様に、自筆を希望する学生の割合が大きく減少し、電子メール等のデータでの提出や web 上に入力して提出することを希望する学生の割合が大きく増加しました。ほとんどの学生が現状の手段でよいと感じていることがわかりました。



④ 授業中に作成し提出する資料のまとめ

出席カードについてみると、これまでの現状は、点字使用学生では代筆、墨字使用学生では自筆による提出が主流であり、その場で墨字で書いたものの提出を求められていましたが、オンライン学習システムなど web で入力できる大学が増えてきました。このようなシステムが導入されている大学の視覚障害学生のほとんどは、その手段を希望していました。Web 上で入力できると、「いつ出席カードが配布されているかを把握しなければならない」、「必要事項を周囲の学生に記入を依頼する」といった負担を軽くすることにつながると考えられます。

小テストと授業内のコメントカードについてみると、点字使用学生でも墨字使用学生でも、電子メール等の電子データでの提出や web 上で入力による提出という回答の割合が、現状・希望ともに大きく増加しました。

この背景には、新型コロナウイルスの感染拡大予防のために各大学においてオンライン授業シス

テムの整備が急速に進んだことや、学生のICTスキルの向上が影響していると考えられます。大学側が一般の学生に対して整備したシステムが視覚障害のある学生にとっても利用しやすいということは双方の負担軽減が期待できます。ただし、一概に「データでの提出」といっても、web 上での入力か電子メールやUSB等での提出かは異なります。特に、web の場合は、音声の読み上げでわかりやすい構造であることが必要です。アクセシビリティも含めたシステムの開発が進むことを期待します。

(2) 授業中以外の時間で作成し提出する資料

「レポート」、「発表資料」、「定期試験」について質問しました。表 4-2-1 に点字使用学生、表 4-2-2 に墨字使用学生の結果を示します。

表 4-2-1 授業中以外の時間で作成し提出する資料(点字:単位は%)

		点字 ()内は順に 手書き:データ	自筆	印刷	電子 メール等	Web 等	専用端末	代筆	
レポート	現状	08	10.7	0.0	82.1	78.6	7.1	0.0	3.6
		15	0.0	3.6	67.9	89.3	14.3	0.0	3.6
		23	0.0	0.0	15.4	88.5	76.9	0.0	7.7
	希望	08	10.7	0.0	50.0	85.7	0.0	0.0	3.6
		15	14.3	0.0	32.1	78.6	3.6	0.0	3.6
		23	15.4	0.0	11.5	84.6	69.2	0.0	7.7
			(3.8:11.5)						
発表資料	現状	08	0.0	0.0	67.9	39.3	3.6	0.0	0.0
		15	0.0	0.0	64.3	46.4	0.0	0.0	0.0
		23	0.0	0.0	15.4	76.9	61.5	0.0	7.7
	希望	08	7.1	0.0	60.7	46.4	0.0	0.0	0.0
		15	3.6	0.0	46.4	57.1	0.0	0.0	0.0
		23	7.7	0.0	7.7	84.6	46.2	0.0	3.8
			(3.8:3.8)						
定期試験	現状	08	53.6	10.7	35.7	60.7	0.0	0.0	3.6
		15	53.6	0.0	14.3	57.1	0.0	0.0	7.1
		23	57.7	0.0	0.0	76.9	50.0	0.0	15.4
			(46.2:11.5)						
	希望	08	64.3	7.1	21.4	35.7	0.0	0.0	3.6
		15	75.0	0.0	0.0	35.7	0.0	0.0	0.0
		23	69.2	0.0	0.0	65.4	30.8	0.0	3.8
		(53.8:15.4)							

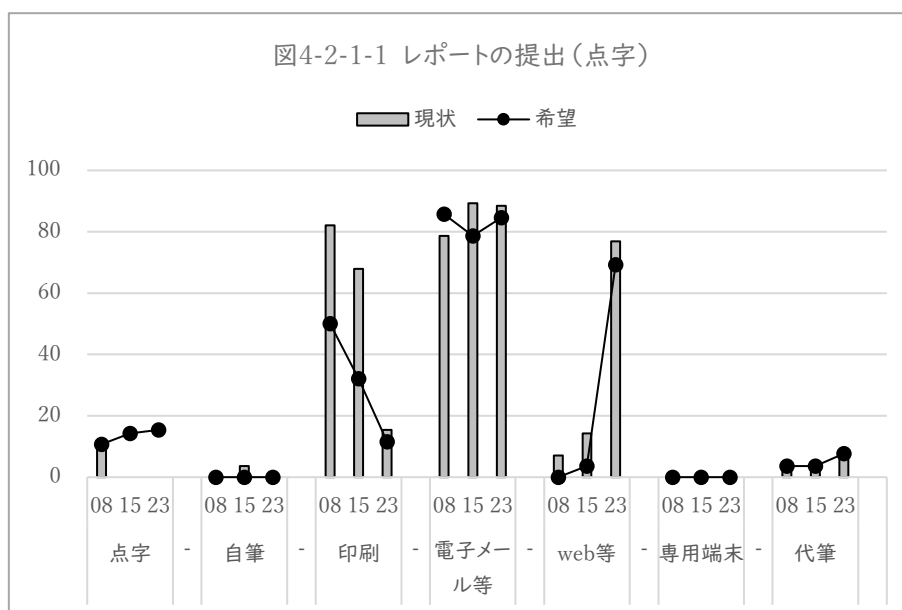
① レポート

図 4-2-1-1 に点字使用学生のレポートの提出、図 4-2-1-2 に墨字使用学生のレポートの提出の結果を示します。

表 4-2-2 授業中以外の時間で作成し提出する資料(墨字:単位は%)

		点字	自筆	印刷	電子メール	Web 等	専用端末	代筆
レポート	現状	08	0.0	53.8	76.9	30.8	7.7	0.0
		15	0.0	38.9	88.9	27.8	44.4	0.0
		23	0.0	21.4	50.0	78.6	100.0	7.1
	希望	08	0.0	23.1	76.9	23.1	0.0	0.0
		15	0.0	11.1	50.0	50.0	33.3	0.0
		23	0.0	14.3	42.9	78.6	92.9	0.0
発表資料	現状	08	0.0	46.2	76.9	0.0	0.0	0.0
		15	0.0	16.7	72.2	11.1	16.7	0.0
		23	0.0	7.1	28.6	85.7	71.4	0.0
	希望	08	0.0	38.5	84.6	7.7	0.0	0.0
		15	0.0	0.0	72.2	27.8	16.7	0.0
		23	0.0	0.0	28.6	78.6	71.4	0.0
定期試験	現状	08	0.0	100.0	7.7	7.7	0.0	0.0
		15	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		23	0.0	71.4	14.3	42.9	42.9	0.0
	希望	08	0.0	84.6	23.1	15.4	0.0	0.0
		15	0.0	83.3	5.6	22.2	0.0	0.0
		23	0.0	50.0	28.6	64.3	42.9	0.0

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「電子メール等」(88.5%)、「web 等」(76.9%)、「印刷」(15.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」(89.3%)、「印刷」(67.9%)、「web 入力」(14.3%)で、2008 年度は、「印刷」(82.1%)「電子データ」(78.6%)、「点字」(10.7%)でした。過去の調査に比べ、印刷して提出している学生の割合が大きく減少し、ポータルサイトにアップロードするなど web 上で提出している学生の割合が大きく増加しました。また、電子メールで送信するほか、USB で提出するなど電子データで提出している学生の割合はこれまでと同様に高かったです。印刷して提出する場合には、正確に印刷できているかを自分で確認することができないため、提出前に確認を依頼する必要がある、以前から希望する学生の割合は低かったです。現状でも印刷して提出する学生の割合が減少したことは、点字使用学生が希望する手段と現状が合ってきていると

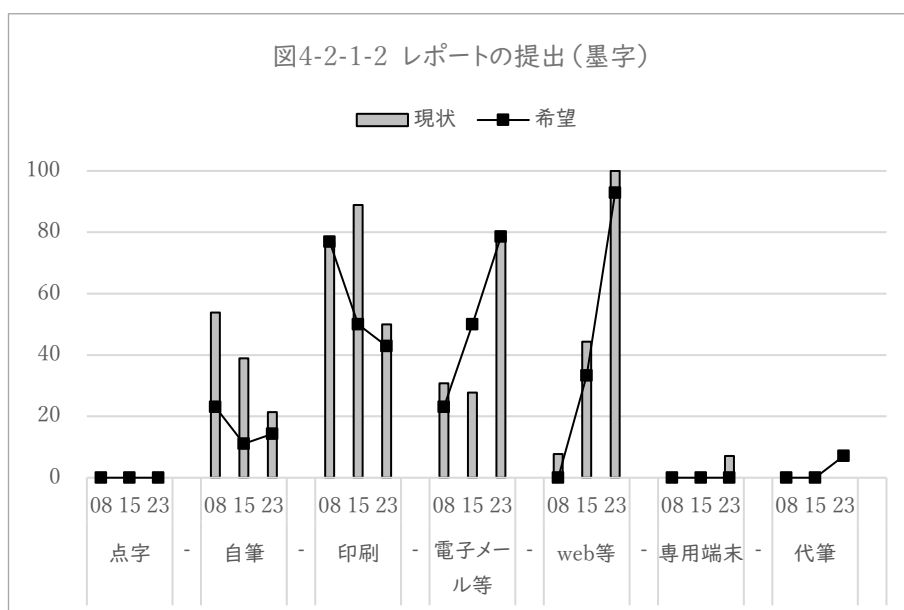


いえます。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「電子メール等」(88.5%)、「web 等」(69.2%)、「点字」(15.4%:手書き 3.8%、データ 11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」(78.6%)、「印刷」(32.1%)、「点字」(14.3%)で、2008 年度は、「電子データ」(85.7%)、「印刷」(50.0%)、「点字」(10.7%)でした。過去の調査に比べ、電子メールや USB など電子データで提出することを希望している学生の割合はこれまでと同様に8割程度と非常に高く、また、web 等での提出を希望する学生の割合が大きく増加しました。一方、パソコンで作成したレポートを印刷して提出することを希望する学生の割合は次第に減少してきました。なお、現状では点字で提出している学生はいませんでした、点字での提出を希望する学生の割合は微増していました。データでの提出では、漢字の変換にも留意しなければならない点などで、成績への影響の大きいレポートでは、点字で提出したい学生もいるのだと思われます。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(100.0%)、「電子メール等」(78.6%)、「印刷」(50.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「印刷」(88.9%)、「web 入力」(44.4%)、「自筆」(38.9%)で、2008 年度は、「印刷」(76.9%)、「自筆」(53.8%)、「電子データ」(30.8%)でした。過去の調査と比べ、自筆で提出している学生の割合は次第に減少してきました。また、パソコンで作成したものを印刷して提出している学生の割合は、2008年度から2015年度に増加しましたが、今回はこれまでで最も低くなりました。それに対し、電子メールや USB など提出している学生や、web 上でアップロードして提出している学生の割合が大きく増加し、全員が web 上でアップロードする手段を使っていることが分かりました。以前は、指定されたレターケース等に紙で提出することがほとんどでしたが、多くの大学でアップロードして提出するシステムが整備されていることがわかりました。

図4-2-1-2 レポートの提出（墨字）



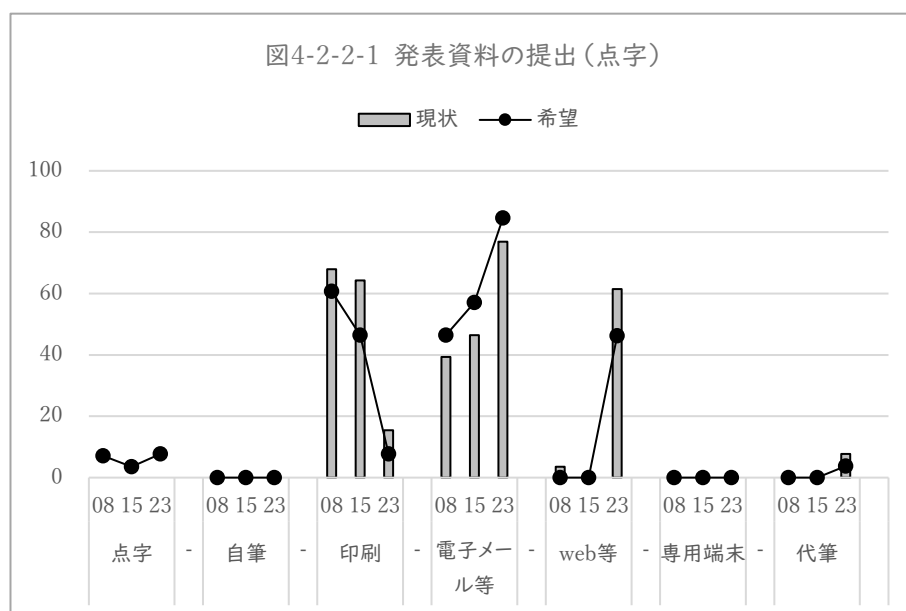
一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(92.9%)、「電子メール等」(78.6%)、「印刷」(50.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「印刷」「電子データ」(各 50.0%)、「web 入力」(33.3%)で、2008 年度は、「印刷」(76.9%)、「自筆」「電子データ」(各 23.1%)でした。2015年度の調査では、パソコンで作成したものを印刷して提出している学生の割合が高かったに

も関わらず、それを希望している学生の割合はそれほど高くありませんでした。今回の調査では、現状と希望の割合の差が小さくなりました。また、現状と同様、電子メール等での提出や web 上にアップロードして提出することを希望する学生の割合が大きく増加しました。いずれも現状と希望の割合の差が小さくなっており、視覚障害学生の希望と大学の対応が合ってきていることが伺えます。

② 発表資料

図 4-2-2-1 に点字使用学生の発表資料の提出、図 4-2-2-2 に墨字使用学生の発表資料の提出の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「電子メール等」(76.9%)、「web 等」(61.5%)、「印刷」(15.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「印刷」(64.3%)、「電子データ」(46.4%)で、2008 年度は、「印刷」(67.9%)、「電子データ」(39.3%)、「web 入力」(3.6%)でした。過去の調査に比べ、パソコンで作成したものを印刷して提出している学生の割合が大きく減少し、電子メールで送信して提出している学生の割合が大きく増加しました。周囲の学生においても、発表資料は必ずしも紙で配布されなくても、電子データを受け取れば確認できるようになってきているものと考えられます。



一方、希望を割合の高い順に示すと、「電子メール等」(84.6%)、「web 等」(46.2%)、「印刷」(7.7%)、「点字」(7.7%:手書き・データ共に 3.8%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」(57.1%)、「印刷」(46.4%)、「点字」(3.6%)で、2008 年度は、「印刷」(60.7%)、「電子データ」(46.4%)、「点字」(7.1%)でした。過去の調査に比べ、電子メール等での提出を希望する学生の割合が大きく増加しました。また、ポータルサイト等 web 上でアップロードしての提出を希望する学生も半数近いいました。しかしながら、現状では6割以上の学生がこの方法で提出していますが、この方法を希望する学生の割合は現状に比べて低かったです。これは、ポータルサイトのアクセシビリティに課題があるのではないかと考えられます。画面には表示されているものの画面読み上げソフトでは読み上げないボタンなどがあったり、見た目のレイアウトと読み上げ順序が異なり、音声を聞きながらそのサイトの構造を理解することが難しかったりすることがある

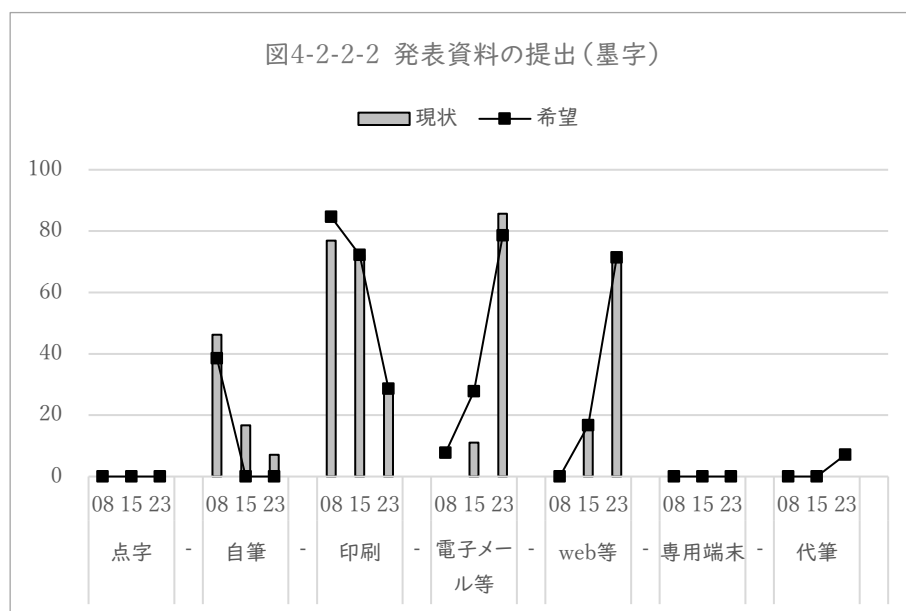
ためです。また、パソコンで作成した後、印刷して提出することを希望する学生は大きく減少する中、点字での提出を希望する学生の割合は、2015年度よりも増加しました。やはり、点字使用学生にとって、提出するものを自分で確認できないと不安であると考えられます。また、自分の発表時に資料を確認する際には、必要な部分を触って確認できる点字が便利なのだと思います。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「電子メール等」(85.7%)、「web 等」(71.4%)、「印刷」(28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「印刷」(72.2%)、「自筆」

「web 入力」(各 16.7%)で、2008 年度は、「印刷」(76.9%)、「自筆」(46.2%)でした。過去の調査に比べ、自筆で提出している学生の割合やパソコンで作成したものを紙に印刷して提出している学生の割合が大きく減少しました。これは、電子データでのやりとりが日常的になってきたことやペーパーレス化が広がっていることが影響していると考えられます。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「電子

メール等」(78.6%)、「web 等」(71.4%)、「印刷」(28.6%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「印刷」(72.2%)、「電子データ」(27.8%)、「web 入力」(16.7%)で、2008 年度は、「印刷」(84.6%)、「自筆」(38.5%)、「電子データ」(7.7%)でした。過去の調査に比べ、現状と同様に、電子メールやUSBなど電子データでの提出を希望する学生の割合が大きく増加し、紙に印刷して提出を希望する学生の割合は大きく減少しました。



③ 定期試験

図 4-2-3-1 に点字使用学生の定期試験の提出、図 4-2-3-2 に墨字使用学生の定期試験の提出の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「電子メール等」(76.9%)、「web 等」(50.0%)、「点字」(57.7%:手書き 46.2%、データ 11.5%)でした。また、「その他」として、口頭試験やレポートに変更されているという回答もありました。

過去の調査では、2015 年度は、「電子データ」(57.1%)、「点字」(53.6%)、「印刷」(14.3%)で、2008 年度は、「電子データ」(60.7%)、「点字」(53.6%)、「印刷」(35.7%)でした。過去の調査に比べ、パソコンで墨字データを作成した後、電子メールで送信したり、データを

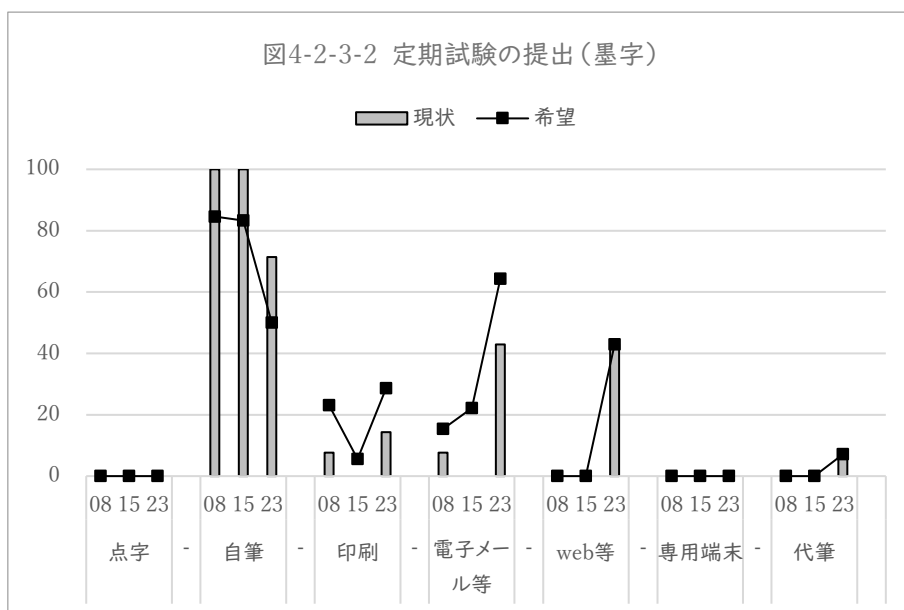
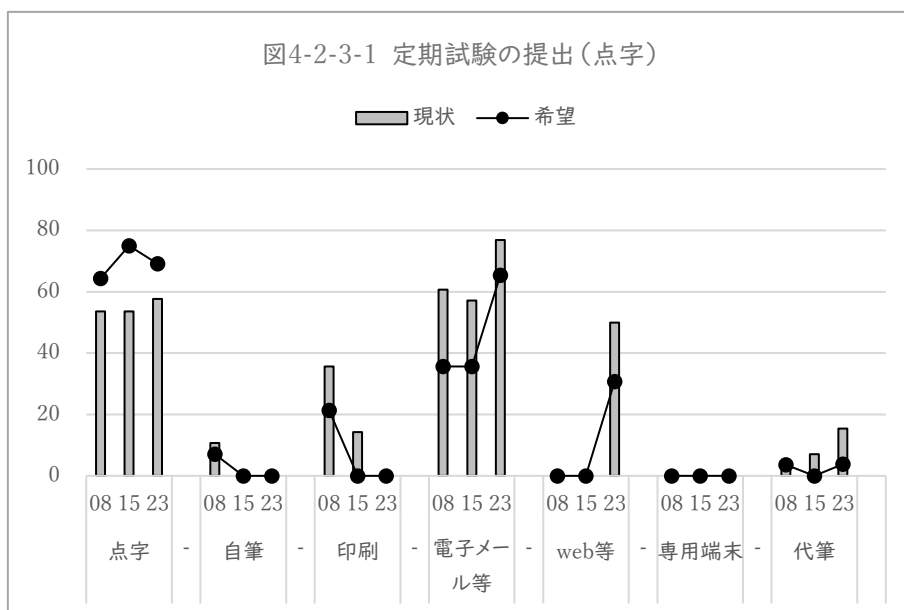
保存したUSBやパソコンそのものを提出したり、webにアップロードしたりといったデータでの提出をしている学生の割合が増加し、紙に印刷して提出している学生はいなくなりました。また、点字で提出している学生の割合が微増しました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「点字」(69.2%)、「電子メール等」(65.4%)、「web等」(30.8%)でした。過去の調査では、2015年度は、「点字」(75.0%)、「電子データ」(35.7%)で、2008年度は、「点字」(64.3%)、「電子データ」(35.7%)、「印刷」(21.4%)でした。2015年度に比べると、点字での提出を希望する学生の割合が減少しましたが、2008年度の割合よりは高く、漢字の変換ミスを気にする必要もなく、自分が作成した答案を確認しやすいことから、点字が最も安心して答案を作成できるのだと考えられます。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に

示すと、「自筆」(71.4%)、「電子メール等」「web等」(各42.9%)でした。過去の調査では、2015年度は、「自筆」(100.0%)のみで、2008年度は、「自筆」(100.0%)、「印刷」「電子データ」(各7.7%)でした。これまでは全員が自筆で提出している科目が少なくとも一つはありましたが、今回は、自筆での提出はなく、パソコンでデータを作成して提出している学生ができました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「電子メール等」(64.3%)、「自筆」(50.0%)、「web等」(42.9%)でした。過去の調査では、2015年度は、「自筆」(83.3%)、「電子データ」(22.2%)、「印刷」(5.6%)で、2008年度は、「自筆」(84.6%)、「印刷」(23.1%)、「電子データ」



タ」(15.4%)でした。過去の調査に比べ、自筆での提出を希望する学生の割合が大きく減少し、パソコンで作成したデータを電子メールで送信したり、USBに保存して提出したりすることを希望する学生の割合が大きく増加しました。また、現状で、定期試験にもオンライン学習システムを利用している学生は、その方法でよいと感じていました。さらに、上位には入りませんでしたが、パソコンで作成したデータを紙に印刷して提出することを希望する学生の割合も2015年度より増加しており、試験の解答作成の際に、自筆よりも電子データを希望する学生が増加していることがわかりました。

④ 授業時間以外で作成し提出する資料のまとめ

レポート・発表資料においては、点字や自筆・パソコンで作成したものを紙に印刷して提出といった、紙で提出している学生やそれを希望する学生の割合よりも、電子メールや USB での提出や web 上にアップロードして提出している学生やそれらを希望する学生の割合の方が高くなりました。これは、大学で提示されるレポートの提出方法が紙での提出からデータでの提出に代わってきていること、配布される資料のペーパーレス化が進んでいることなどが影響していると考えられます。そして、墨字使用学生のほとんどは指定された方法で提出できており、さらにその方法がよいと感じているようですので、墨字使用学生にとって提出しやすい状況になってきているといえます。

点字使用学生においては、紙ではなく電子データで提出できる点については、自分で確認して提出できてよいのですが、総じて web での提出の割合よりも電子メール等での提出の割合の方が高くなっています。これは、ポータルサイトやオンライン学習システムのアクセシビリティに課題があるものと考えられます。画面読み上げソフトを用いて利用しやすいポータルサイトやオンライン学習システムが整備されることを期待します。また、ICT技術の発展に伴い、提出しづらい方式にならないことを願っています。

定期試験における希望は、点字使用学生は点字での提出が最多でした。現状でも点字で行われている割合は微増しており、定期試験を点字で受けられなくなっているわけではありませんが、電子データでの提出を希望する学生が増えてくると、点字での試験の実施が減少する可能性が考えられます。大学側の準備を考えると、点字よりも電子データの方が便利な側面はあると思いますが、学年や試験の種類によって、学生が実力を発揮できる形式は異なります。それぞれの試験で最も能力を発揮できる形式で受験できるよう、理解を求めていく必要があります。

(3) 事務手続き

「履修登録」、「証明書等の発行手続き」、「その他の事務手続き」について質問しました。表 4-3-1 に点字使用学生、表 4-3-2 に墨字使用学生の結果を示します。

表 4-3-1 事務手続き(点字:単位は%)

			点字 ()内は順に 手書き:データ	自筆	印刷	電子 メール	Web 等	専用端末	代筆
履修登録	現状	08	0.0	0.0	0.0	3.6	57.1	0.0	25.0
		15	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	0.0	60.7
		23	0.0	0.0	0.0	26.9	50.0	0.0	34.6
	希望	08	0.0	0.0	3.6	25.0	60.7	3.6	7.1
		15	7.1	0.0	0.0	10.7	64.3	0.0	25.0
		23	3.8	0.0	0.0	23.1	76.9	0.0	19.2
			(0.0:3.8)						
証明書等の 発行手 続き	現状	08	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	39.3	25.0
		15	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	7.1	64.3
		23	0.0	0.0	11.5	0.0	23.1	50.0	23.1
	希望	08	3.6	0.0	3.6	17.9	25.0	39.3	28.6
		15	3.6	0.0	0.0	7.1	10.7	3.6	71.4
		23	3.8	0.0	3.8	15.4	42.3	23.1	23.1
			(0.0:3.8)						
その他の 事務手続 き	現状	08	3.6	3.6	3.6	10.7	7.1	3.6	78.6
		15	0.0	3.6	3.6	7.1	0.0	0.0	92.9
		23	7.7	7.7	7.7	26.9	53.8	3.8	38.6
			(3.8:3.8)						
	希望	08	3.6	0.0	3.6	35.7	17.9	14.3	46.4
		15	7.1	0.0	7.1	10.7	17.9	0.0	82.1
		23	3.8	0.0	3.8	38.5	46.2	0.0	23.1
		(0.0:3.8)							

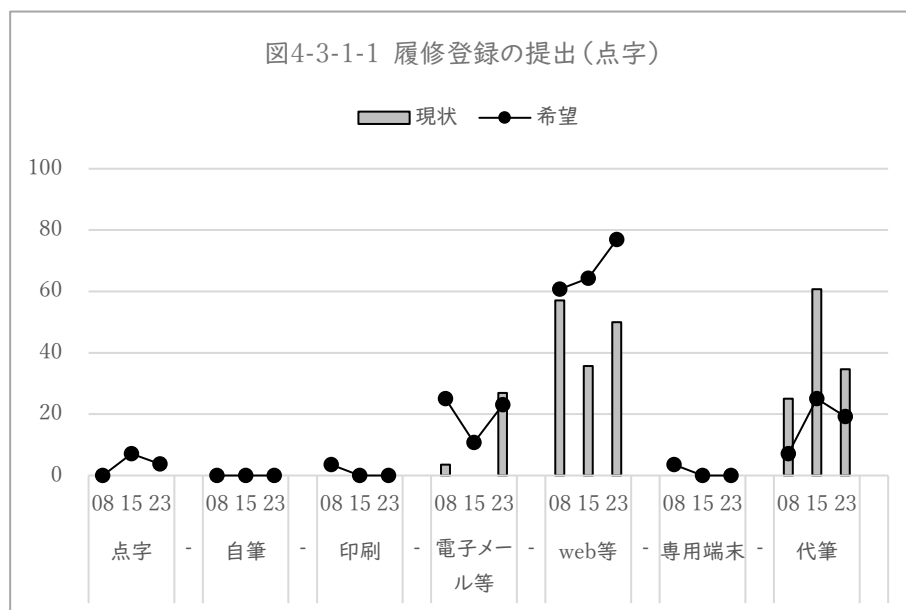
表 4-3-2 事務手続き(墨字:単位は%)

			点字	自筆	印刷	電子 データ	Web 等	専用端末	代筆
履修登録	現状	08	0.0	30.8	0.0	0.0	76.9	7.7	0.0
		15	0.0	16.7	0.0	0.0	77.8	0.0	0.0
		23	0.0	7.1	0.0	0.0	92.9	0.0	7.1
	希望	08	0.0	23.1	23.1	7.7	76.9	7.7	0.0
		15	0.0	11.1	0.0	0.0	77.8	0.0	5.6
		23	0.0	0.0	0.0	7.1	85.7	0.0	7.1
証明書等の発行手続き	現状	08	0.0	46.2	7.7	0.0	7.7	30.8	7.7
		15	0.0	27.8	16.7	0.0	0.0	50.0	11.1
		23	0.0	21.4	0.0	0.0	14.3	64.3	14.3
	希望	08	0.0	53.8	15.4	7.7	7.7	46.2	15.4
		15	0.0	16.7	5.6	0.0	22.2	27.8	22.2
		23	0.0	14.3	0.0	21.4	21.4	50.0	14.3
その他の事務手続き	現状	08	0.0	92.3	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7
		15	0.0	61.1	11.1	0.0	16.7	0.0	22.2
		23	0.0	28.6	7.1	21.4	21.4	7.1	35.7
	希望	08	0.0	92.3	15.4	7.7	7.7	7.7	7.7
		15	0.0	38.9	16.7	0.0	22.2	0.0	27.8
		23	0.0	14.3	7.1	21.4	14.3	0.0	42.9

① 履修登録

図 4-3-1-1 に点字使用学生の履修登録の提出、図 4-3-1-2 に墨字使用学生の履修登録の提出の結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(50.0%)、「代筆」(34.6%)、「電子メール等」(26.9%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「代筆」(60.7%)、「web 入力」(35.7%)で、2008 年度は、「web 入力」(57.1%)、「代筆」(25.0%)、「電子データ」(3.6%)でした。なお、今回の調査及び 2015 年度の調査の「代筆」には、web への入力を代行してもらっている学生も含まれています。履修登録を web で行える大学が増えてきていますが、必ずしも点字使用学生にとって操作しやすい状況ではないと考えられます。

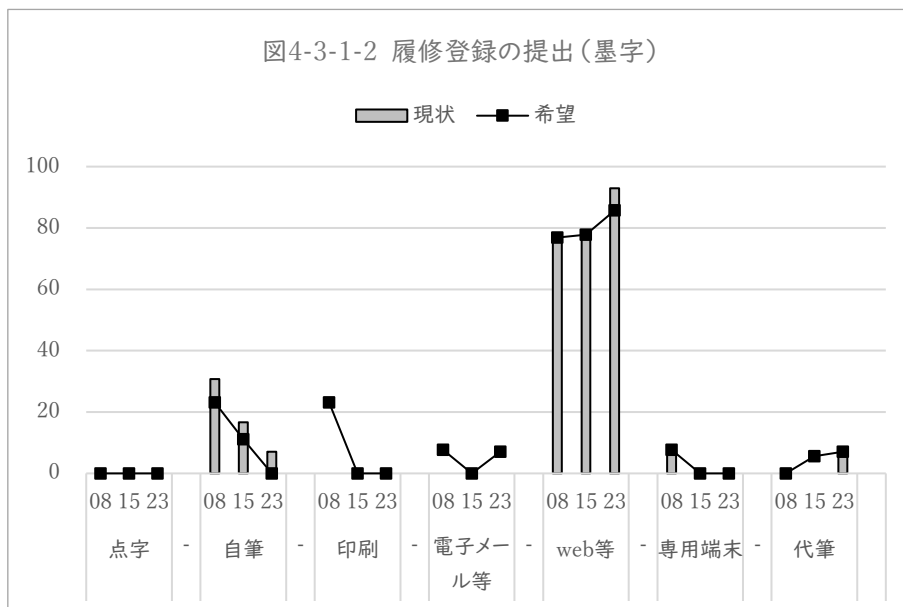


一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(76.9%)、「電子メール等」(23.1%)、「代筆」(11.5%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web 入力」(64.3%)、「代筆」(25.0%)、「電子データ」(10.7%)で、2008 年度は、「web 入力」(60.7%)、「電子データ」(25.0%)、「代筆」(7.1%)でした。過去の調査に比べ、web 等での提出を希望している学生の割合が増加しました。代筆を希望している学生の割合は、2015 年度に比べると減少しましたが、2008 年度よりも高くなっています。履修登録はかなり複雑で、間違えてはいけないものであるため、独力で行いたいという希望をもっている学生もいれば、事務職員の方などに正確に確認してもらいながら進めたいと思っている学生もいるようです。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(92.9%)、「自筆」「代筆」(各 7.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web 入力」(77.8%)、「自筆」(16.7%)で、2008 年度は、「web 入力」(76.9%)、「自筆」(30.8%)、「専用端末」(7.7%)でした。過去の調査に比べ、web 等での登録によって提出している学生の割合が増加し、自筆で提出している学生の割合は次第に減少してきていることがわかりました。これは、履修登録を web で行う大学が増えているためであると考えられます。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(85.7%)、「電子メール等」「代筆」(各 7.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「web 入力」(77.8%)、「自筆」(11.1%)、「代筆」(5.6%)で、2008 年度は、「web 入力」(76.9%)、「自筆」「印刷」(各 23.1%)でした。過去の

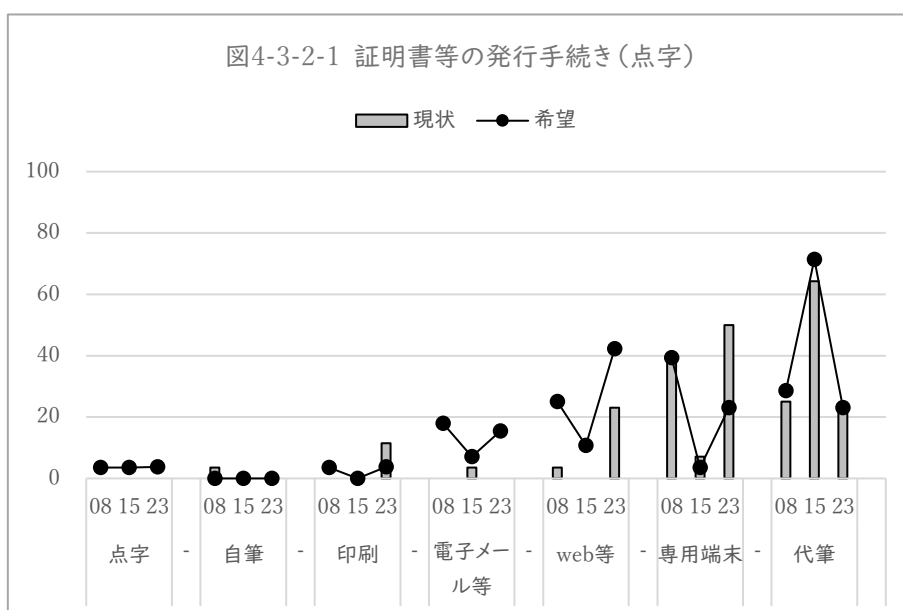
調査に比べ、web 等での登録を希望している学生の割合が増加しましたが、現状の割合よりは低く、現状についての回答では選択されなかった電子メール等での提出を希望している学生もいました。これは、web の登録サイトの構造が複雑である場合には登録作業にかなりの時間を要することから、自分が登録したい科目だけを電子メール等で提出することを希望している学生もいるようです。また、受講希望の多い科目では登録の先着順で履修者が決まるという制度もあるようです。しかし、視覚障害学生が登録作業を行う際には、視覚障害のない学生に比べて時間を要します。その点を考慮してほしいという意見もありました。



② 証明書等の発行手続き

図 4-3-2-1 に点字使用学生の証明書等の発行手続き、図 4-3-2-2 に墨字使用学生の証明書等の発行手続きの結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「専用端末」(50.0%)、「web 等」「代筆」(各 23.1%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「代筆」(64.3%)、「専用端末」(7.1%)、「電子データ」(3.6%)で、2008 年度は、「専用端末」(39.3%)、「代筆」(25.0%)、「web 入力」「自筆」(各 3.6%)でした。なお、今回の調査および 2015 年度の調査では、「代筆」には、専用端末の操作を代行してもらっている学生も含まれています。2008年度の調査から2015年度の調査にかけて、専用



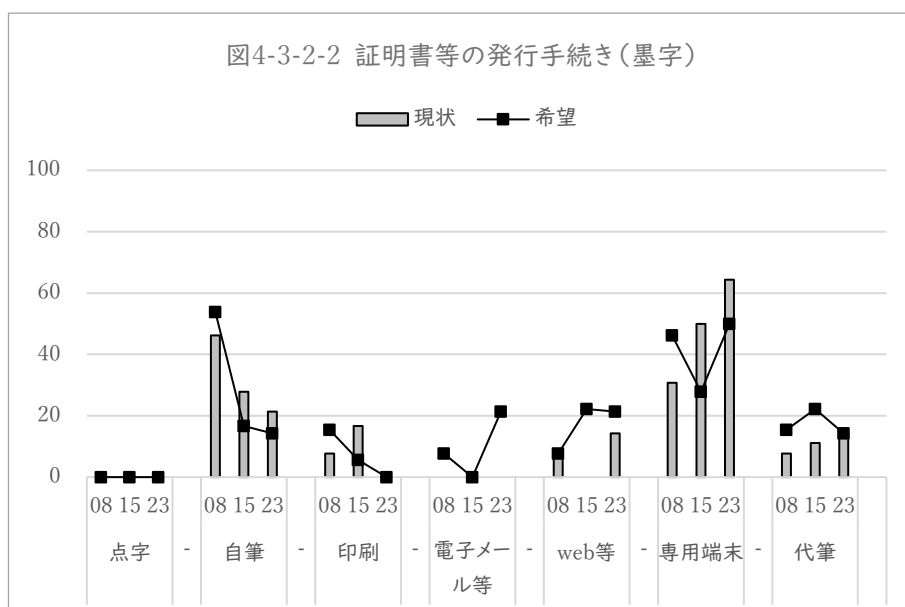
端末で手続きをしている学生の割合が減少しましたが、今回はまた増加しています。ただし、専用端末がタッチパネルになっていることも多く、専用端末で手続きをしていると回答した学生が独力で操作できているかどうかは十分に確認できていません。手伝ってもらいながら専用端末で手続きをしている学生も含まれていると考えられます。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「web 等」(42.3%)、「専用端末」(23.1%)、「電子メール等」「代筆」(各 15.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「代筆」(71.4%)、「web 入力」(10.7%)、「電子データ」(7.1%)で、2008 年度は、「専用端末」(39.3%)、「代筆」(28.6%)、「web 入力」(25.0%)でした。過去の調査に比べ、web 上での手続きを希望する学生が増加しました。これは、専用端末は点字使用学生が独力で操作できない中、他の資料の提出等で大学のポータルサイトなど web 上のシステムをうまく活用できていることや、同じシステムであれば手順も覚えやすく利用しやすいのではないかと考えられます。

墨字使用学生の現状を割合の高い順に示すと、「専用端末」(64.3%)、「自筆」(21.4%)、「web 等」「代筆」(各 14.3%)でした。過去の調査をみると、2015 年度は、「専用端末」(50.0%)、「自筆」(27.8%)、「印刷」(16.7%)で、2008 年度は、「自筆」(46.2%)、「専用端末」(30.8%)、「印刷」「代筆」「web 入力」(各 7.7%)でした。過去の調査に比べ、自筆での手続きを希望する学生の割合は次第に減少し、専用端末での手続きを希望する学生の割合が次第に増加していることがわかりました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「専用端末」(50.0%)、「電子メール等」「web 等」(各 21.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「専用端末」(27.8%)、「web 入力」「代筆」(各 22.2%)で、2008 年度は、「自筆」(53.8%)、「専用端末」(46.2%)、「代筆」「印刷」(各 15.4%)でした。2015

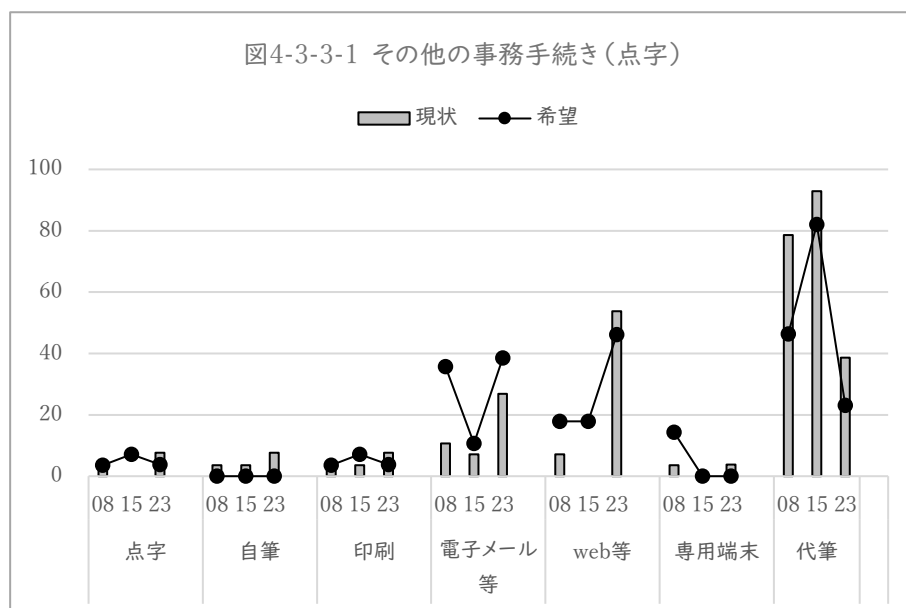
年度の調査では、専用端末での手続きを希望する学生の割合が減少しましたが、今回は増加しました。しかし、現状の割合ほど高くはありませんでした。墨字使用学生は、専用端末を使えてはいるものの、使いにくさを感じているものと考えられます。視覚障害学生が独力で使える専用端末が導入されていくことを期待します。



③ その他の事務手続き

図 4-3-3-1 に点字使用学生のその他の事務手続き、図 4-3-3-2 に墨字使用学生のその他の事務手続きの結果を示します。

点字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「web 等」(53.8%)、「代筆」(38.6%)、「電子メール等」(26.9%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「代筆」(92.9%)、「電子データ」(7.1%)、「自筆」「印刷」(各 3.6%)で、2008 年度は、「代筆」(78.6%)、「電子データ」(10.7%)、「web 入力」(7.1%)でした。過去の調査に比べ、web 上で手続きをしている学生の割合が大きく増加し、電子メール等で必要事項を送信している学生の割合も増加しましたが、代筆で手続きをしている学生の割合は大きく減少しました。大学のポータルサイトなどが、点字使用学生でも操作しやすいシステムになりつつあるのではないかと考えられます。



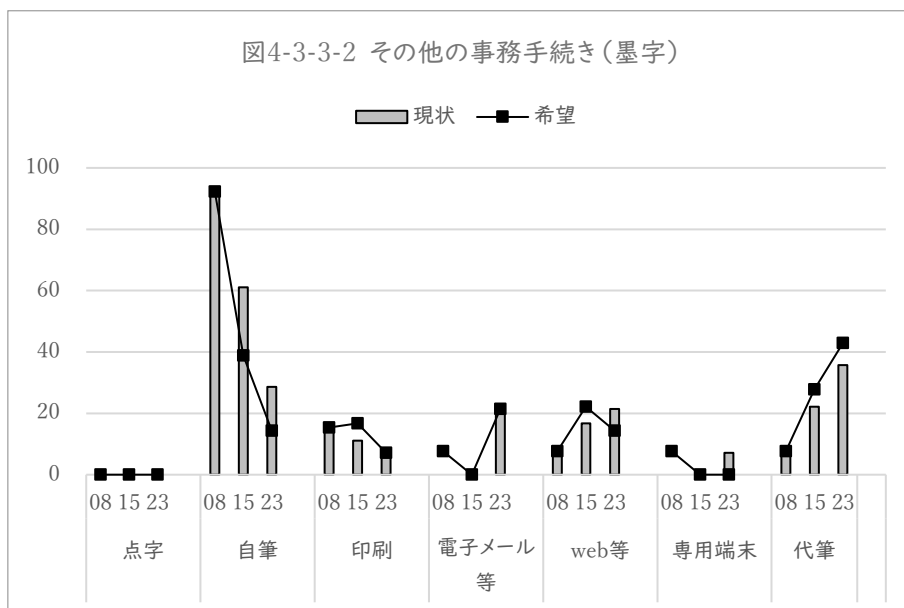
一方、希望を割合の

高い順に示すと、「web 等」(46.2%)、「電子メール等」(38.5%)、「代筆」(23.1%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「代筆」(82.1%)、「web 入力」(17.9%)、「電子データ」(10.7%)で、2008 年度は、「代筆」(46.4%)、「電子データ」(35.7%)、「web 入力」(17.9%)でした。2015 年度に比べ、web での手続きを希望する学生や必要事項を電子メールで送信することでの手続きを希望する学生の割合が増加し、代筆を希望する学生の割合が大きく減少しました。これは独力で手続きの操作をしたいという思いが強いのではないかと考えられます。

墨字使用学生の現状を割合が高い順に示すと、「代筆」(35.7%)、「自筆」(28.6%)、「web 等」(21.3%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(61.1%)、「代筆」(22.2%)、「web 入力」(16.7%)で、2008 年度は、「自筆」(92.3%)、「印刷」(15.4%)、「代筆」「web 入力」(各 7.7%)でした。過去の調査に比べ、自筆で手続きをしている学生の割合が大きく減少してきており、代筆の割合が次第に増加していることがわかりました。また、web 上で手続きをしている学生の割合は少しずつ増加してきているものの、それほど高くありませんでした。事務手続きの多くは紙の申請書の提出が必要であることがわかりました。

一方、希望を割合の高い順に示すと、「代筆」(42.9%)、「電子メール等」(21.4%)、「自筆」「web 等」(各 14.3%)でした。過去の調査では、2015 年度は、「自筆」(38.9%)、「代筆」(27.8%)、「web 入力」(22.2%)で、2008 年度は、「自筆」(92.3%)、「印刷」(15.4%)、「電

子データ」「代筆」「web 入力」「専用端末」(各 7.7%)でした。過去の調査に比べ、現状と同様に、自筆での手続きを希望する学生の割合は大きく減少してきており、代筆での手続きを希望する学生の割合は次第に増加しています。事務手続きにおいては、web 上のシステムが対応していなかったり、紙の書類では、文字や記入欄が小さかったりすることも多く、墨字を使用している学生でも、代筆を希望する学生が多いようです。



④ 事務手続きのまとめ

履修登録についてみると、点字使用学生も墨字使用学生も、現状・希望ともに「web 入力」の割合が最も高くなりました。特に、墨字使用学生では、現状・希望ともに約9割の学生が、web 入力での登録を行っており、また希望し、他の手段に比べて抜き出ていました。多くの大学で、一般の学生も含め、履修登録が web 入力で行われるようになってきていることが影響していると考えられます。一方で、点字使用学生においても web 入力の割合は高かったものの、墨字使用学生ほどではありませんでした。履修登録は正確に行わなければならない、点字使用学生が独力で行おうとすると、確認する際に時間もかかりますし、不安も大きいことが背景にあると考えられます。

証明書等の発行手続きについてみると、墨字使用学生では現状・希望ともに専用端末が最多で、点字使用学生でも現状は専用端末が最多でした。このことから、多くの大学では、証明書等の発行手続きのために専用端末が導入されている一方で、点字使用学生には操作できない端末であることが示唆されます。今後は、点字使用学生が自分で操作できる端末の導入またはポータルサイト等から証明書等も発行できるようになることが期待されます。

また、その他の事務手続きについてみると、点字使用学生では現状・希望ともに「web 上での手続き」が最多であったのに対し、墨字使用学生では現状・希望ともに「代筆」が最多でした。その他の事務手続きは形式も様々であるものと考えられます。墨字使用学生は書類を見て多種多様な形式があることを知っているため、様々な形式に合わせながら web で入力するよりは代筆してもらった方が負担が小さいと感じているのかもしれませんが。それに対し、点字使用学生は代筆をお願いするよりも、できる限り独力で手続きをしたいという気持ちが強いのではないかと推察されます。いずれにしても、点字使用学生も墨字使用学生も、特定の手段を希望する学生の割合も5割を超えておらず、様々なニーズに応じた柔軟な支援体制の構築が求められます。

5. 講義等

講義における配慮や支援として、「座席位置の配慮」、「板書やスライドの読み上げ」、「ビデオの字幕・映像等の説明」、「講義の録音の許可」、「TA（ティーチング・アシスタント）の配置」、「ノートテイカーの配置」、「他の学生への周知」、「授業担当教員への周知」の8項目について質問しました。各項目における現状について、「まったくしてもらっていない」を0点、「たまにもらっている」を1点、「ときどきもらっている」を2点、「いつももらっている」を3点、希望については、「まったく必要ない」を0点、「たまに配慮してほしい」を1点、「時々配慮してほしい」を2点、「いつも配慮してほしい」を3点と得点化し、項目ごとの合計点を、点字使用学生・墨字使用学生それぞれの（対象人数）×（満点3点）で割った値を求めました。その結果を図5-1（点字）、図5-2（墨字）に示します。

また、視覚障害があるために、授業内容が変更されたり、履修をあきらめざるをえなかったりしたケースについて自由に記述してもらいました。

（1）座席位置の配慮

点字使用学生では、現状0.36、希望0.41（「まったく必要ない」は19.2%）でした。過去の調査では、2015年度は現状0.27、希望0.30（「まったく必要ない」は29.6%）で、2008年度は現状0.12、希望0.18（「まったく

図5-1 講義における配慮や支援（点字）

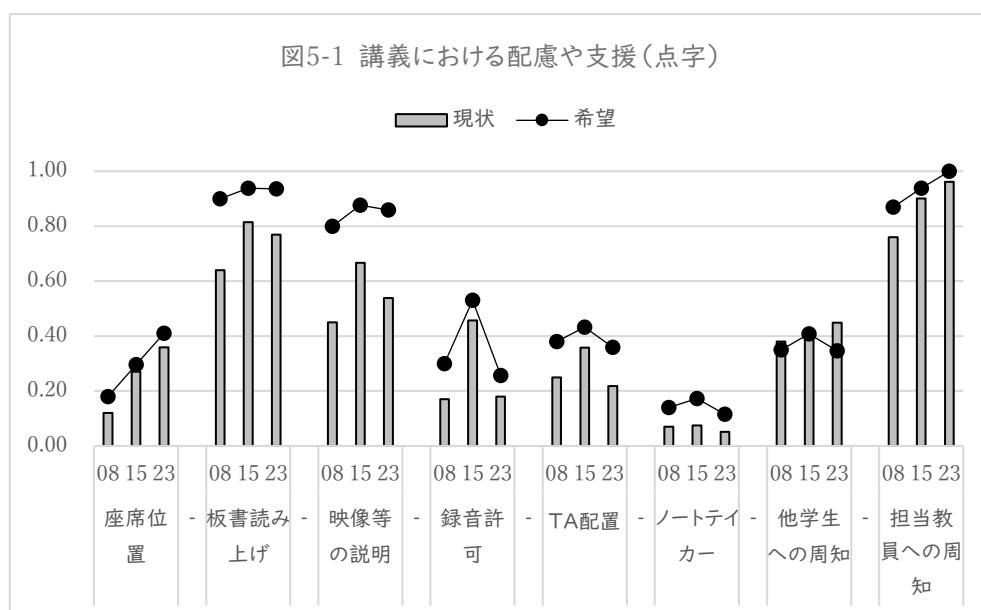
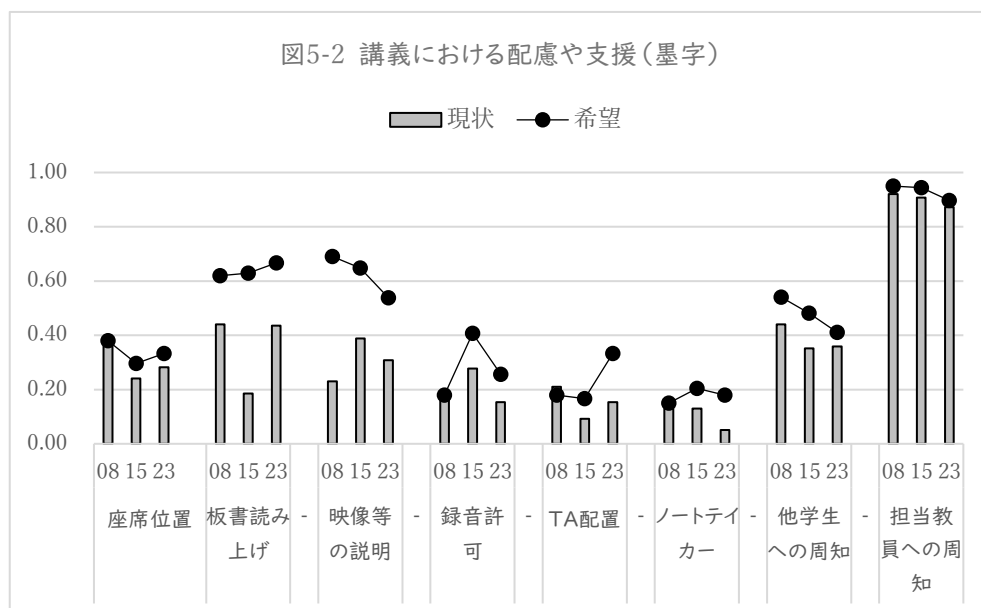


図5-2 講義における配慮や支援（墨字）



必要ない」は71.4%)でした。墨字使用学生では、現状 0.28、希望 0.33(「まったく必要ない」は 30.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.24、希望 0.30(「まったく必要ない」は 55.6%)で、2008 年度は現状 0.36、希望 0.38(「まったく必要ない」は 38.5%)でした。

点字使用学生の場合、どこが空いているのかを自分で探せないため、決まった席を確保しておいてもらえるとスムーズに着席でき、安心できる学生がいる一方で、特定の席にする必要はなく友人とコミュニケーションをとりながら着席している学生もいるようです。

墨字使用学生の場合、前方の席の方が黒板の文字を見やすいということがあるようですが、実際、前方の席は確保してもらわなくても空いていることが多く、あえて配慮をお願いする必要はないと感じているようです。

(2) 板書やスライドの読み上げ

点字使用学生では、現状 0.77、希望 0.94(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.81、希望 0.94(「まったく必要ない」は 3.7%)で、2008 年度は現状 0.64、希望 0.90(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。墨字使用学生では、現状 0.44、希望 0.67(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.19、希望 0.63(「まったく必要ない」は 16.7%)で、2008 年度は現状 0.44、希望 0.62(「まったく必要ない」は 23.1 %)でした。

2015年度に比べ、墨字使用学生の現状の値が高くなりました。墨字使用学生は見えているようでも板書の文字は見えなかったり、大きな黒板の中から必要な情報が書かれた場所を見つけることが困難であったりします。今後も大学側にその点を理解してもらい、墨字使用学生に対しても、板書の内容を言葉で説明してもらえるような配慮を求めていく必要があります。

(3) ビデオの字幕・映像等の説明

点字使用学生では、現状 0.54、希望 0.86(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.67、希望 0.88(「まったく必要ない」は 3.7%)で、2008 年度は現状 0.45、希望 0.80(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。墨字使用学生では、現状 0.31、希望 0.54(「まったく必要ない」は 15.4%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.39、希望 0.65(「まったく必要ない」は 5.6%)で、2008 年度は現状 0.23、希望 0.69(「まったく必要ない」は 7.7%)でした。

2015年度に比べ、点字使用学生でも墨字使用学生でも、現状の割合が低くなりました。映像そのものの音声に加えて画面の説明を入れることの難しさもあると思われますが、近年、講義中のビジュアルな情報提示方法がますます増えているため、視覚情報を補う支援の検討が不可欠であると考えられます。

(4) 録音の許可

点字使用学生では、現状 0.18、希望 0.26(「まったく必要ない」は 42.3%)でした。過去の調

査では、2015 年度は現状 0.46、希望 0.53（「まったく必要ない」は 29.6％）で、2008 年度は現状 0.17、希望 0.30（「まったく必要ない」は 42.9％）でした。墨字使用学生では、現状 0.15、希望 0.26（「まったく必要ない」は 30.8％）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.28、希望 0.41（「まったく必要ない」は 44.4％）で、2008 年度は現状・希望ともに 0.18（「まったく必要ない」は 71.4％）でした。

2015年度は2008年度に比べ、点字使用学生でも墨字使用学生でも、現状・希望ともに高くなりましたが、今回はまた2008年度の水準まで下がりました。これは、資料の提供が進んでいることや、録音をした場合には、聞きなおすための時間がかかり、復習のためにかなり時間を費やすことになることなどが考えられます。

(5) TA（ティーチング・アシスタント）の配置

点字使用学生では、現状 0.22、希望 0.36（「まったく必要ない」は 23.0％）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.36、希望 0.43（「まったく必要ない」は 14.8％）で、2008 年度は現状 0.25、希望 0.38（「まったく必要ない」は 21.4％）でした。墨字使用学生では、現状 0.15、希望 0.33（「まったく必要ない」は 38.5％）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.09、希望 0.17（「まったく必要ない」は 61.1％）で、2008 年度は現状 0.21、希望 0.18（「まったく必要ない」は 61.5％）でした。

TAとは、一般には、大学院生が教育的配慮のもとに、学部学生等に助言や実験・演習等の補助を行うことで、大学教育の充実と大学院生のトレーニングの機会提供を図る制度を意味しますが、本調査では、視覚障害学生が授業を受ける際に、個別に必要な支援を行うために配置される大学院生や教職員を指しています。過去の調査と比べ、点字使用学生については大きな変化はみられませんでした。墨字使用学生の希望が高くなりました。点字使用学生の情報処理や体育実技、ビデオを用いた授業に配置されていることが多く、そのような授業において墨字使用学生も必要を感じているようです。すべての授業で必要というわけではありませんが、授業の特性に応じて、授業者だけでは支援しきれない部分についてTAが配置されることを期待します。

(6) ノートテイカーの配置

点字使用学生では、現状 0.05、希望 0.12（「まったく必要ない」は 69.2％）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.07、希望 0.17（「まったく必要ない」は 70.4％）で、2008 年度は現状 0.07、希望 0.14（「まったく必要ない」は 67.9％）でした。墨字使用学生では、現状 0.05、希望 0.18（「まったく必要ない」は 61.5％）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.13、希望 0.20（「まったく必要ない」は 66.7％）で、2008 年度は現状 0.13、希望 0.15（「まったく必要ない」は 76.9％）でした。

ノートテイカーとは、視覚障害学生に代わって板書などの視覚情報をノートに書き取る支援者のことです。点字使用学生でも墨字使用学生でも、過去の調査と比べて大きな変化はなく、ノートテイカーの配置を希望している学生の割合はそれほど高くありませんでした。これは、視覚障害学生は

自分で講義を聞きながらノートを取ることができるからだと考えられます。また、支援者に書き取ってもらったノートを読んで理解するためにかえって時間を費やすことになるので、できる限り授業中に内容を理解しようと努めていると思われます。

(7) 他の学生への周知

点字使用学生では、現状 0.45、希望 0.35（「まったく必要ない」は 30.8%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.40、希望 0.41（「まったく必要ない」は 25.9%）で、2008 年度は現状 0.38、希望 0.35（「まったく必要ない」は 25.0%）でした。墨字使用学生では、現状 0.36、希望 0.41（「まったく必要ない」は 7.7%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.35、希望 0.48（「まったく必要ない」は 27.8%）で、2008 年度は現状 0.44、希望 0.54（「まったく必要ない」は 23.1%）でした。

過去の調査と比べ、点字使用学生の現状の値が次第に高くなってきており、配慮されるようになってきていることが伺えます。一方、希望の値はあまり変化なく、「まったく必要ない」と回答した学生の割合が増えてきています。墨字使用学生では現状の値に大きな変化はなく、希望の値は次第に低くなってきています。しかしながら、「まったく必要ない」と回答した学生の割合は大きく減少しました。

「同じ授業が多いので学科の学生には周知したいが、学部学生にまでは周知したくない」という意見や、「所属しているサークルの規模が大きく、どこまで自分の障害のことを話しておけばよいのか迷う」という意見もあり、どの程度周知しておくとういことは人によって様々な思いがあるといえます。

(8) 担当教員への周知

点字使用学生では、現状 0.96、希望 1.00（「まったく必要ない」は 0.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.90、希望 0.94（「まったく必要ない」は 3.7%）で、2008 年度は現状 0.76、希望は 0.87（「まったく必要ない」は 3.6%）でした。墨字使用学生では、現状 0.87、希望 0.90（「まったく必要ない」は 0.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.91、希望 0.94（「まったく必要ない」は 5.6%）で、2008 年度は現状 0.92、希望 0.95（「まったく必要ない」は 0.0%）でした。

点字使用学生でも墨字使用学生でも、現状・希望ともにかなり高い値となりました。視覚障害学生が大学での学習を進める際には、教員の視覚障害に対する理解が不可欠であることを示しています。また、視覚障害学生が個別に必要な支援を教員に依頼する場合も、大学から公式な通達で各教員になされていることでスムーズに話を進められるという側面もあると思われます。

(9) 授業内容の変更

情報処理や体育実技等の実習や実技について、通常とは異なる内容や障害者対応の内容となった授業があったかどうかを質問しました。「ある」と回答した学生は、点字使用学生で26名中22

名、墨字使用学生で14名中8名でした。以下に具体的な内容を記します。

(ア) 情報処理

情報処理の授業において、点字使用学生では、主に画面読み上げソフトに対応していないソフトウェアを用いた授業や画像の処理、マウス操作などで、視覚障害のない学生と同じ課題に取り組むことができないという回答が多くありました。

その際には、TA がついてマンツーマンでの説明や、別の課題の準備、課題の提出期限の延長、課題の免除、自分のパソコンの持ち込みの許可などの対応が行われていることが多いようです。

墨字使用学生においても、画面を拡大しながら操作することやマウスでの操作が難しいことなどがあり、TA をつけてもらったり、実際の作業は自分で行わずに作業の手順をレポートにまとめることで理解度を判断してもらったり、試験は免除されてその時間を授業に変更されたりという対応が行われていました。また、画面設定を自分の見やすい設定にすることや、自分のパソコンの持ち込みを許可してもらうということもありました。

特に点字使用学生の場合、画面が見えずマウス操作もできないため、画面読み上げソフトや点字ディスプレイの利用、キーボードのみを用いた操作をしなければなりません。したがって、通常の指導方法ではスキルアップが望めないため、視覚障害者のパソコン利用に関して専門知識をもった指導者が必要となります。TA の配置だけでは画面の情報を伝える程度に終わり、実際の操作方法、画面の構造や概念を系統的に指導することは困難だと考えられます。視覚障害学生が高度な情報処理技術や支援機器の使い方を身につけることは学習効率の向上や就職の機会拡大につながるため、一層の充実が望まれます。

(イ) 体育実技

体育実技において、点字使用学生でも墨字使用学生でも、競技の内容をトレーニングやアダプテッドスポーツ・ブラインドスポーツに変更するということが多くありました。他には、TA に動きの説明をしてもらうなどのサポートに入ってもらいながら参加する、1対1でできる内容に変更してもらって教員やTAと1対1で取り組む、タイムキーパーを担う、見学するという回答もありました。

体育で扱われる種目の中に、障害者スポーツやトレーニングなどが準備されている大学が増えており、それらを履修することで、他の学生と異なる内容に変更する必要がなかったという学生もいました。視覚障害があっても取り組める内容がすでに準備されているということはよいことですが、話を聞いていると、実際には十分に体を動かせる内容にはなっていないことにあり、視覚障害学生の体育実技への参加についてはさらに検討する必要があります。

(ウ) その他

学内の実験や実習では次のような対応がありました。

- ・時間前に実験器具や流れ、グラフの立体コピーやスイッチにマークするなど配慮事項を確認して本番に臨む。

- ・サポートをしてくれる大学の担当スタッフや盲学校の先生などをつけてもらう。
- ・実習日誌の付け方や提出方法を変更してもらう。
- ・顕微鏡での観察について、写真を立体コピー機で印刷し、それを触察する活動にする。
- ・観察や計測の活動は、触察可能な範囲のみでよいと認めてもらう。
- ・スケッチの活動を、触察での観察記録で代用する。
- ・レポートの提出期限を延長してもらう。

学外の実習やフィールドワークにおいては、次のような対応がありました。

- ・事前の見学に行かせてもらう。
- ・実習内容も細かく相談し、できる範囲の活動を行う。
- ・介護等体験実習があったが、障害者手帳を提示し免除してもらう。
- ・学外施設のフィールドワークをした際に、見学・課題レポートの作成を代替課題にしてもらう。
(障害のある子どもと一緒に山や川へ行くとき、先生方と後ろから見学する形で参加した)

他には、語学の授業において、e ラーニングが必修だったが、免除になる代わりにプレゼンの授業を多く履修することになったり、課題の期限が延長されたり、黒板に板書する活動は免除されたりしていました。

また、全面オンライン授業では、1対1での授業となり、前期は、データのやり取りや資料の説明等の配慮を受け、後期は1対20のクラスで問題なく授業を受けたという回答もありました。

地理の授業で、地図を見て意見を出す際には、地図の位置を確認する(紙の地図で先生の説明で位置を確認する)程度の内容に変更してもらうなど、地図を扱う授業では、適宜配慮してもらっているようです。

(10) 履修をあきらめた授業

視覚障害に関連して履修をあきらめた授業があるかについて質問しました。「ある」と回答した学生は、点字使用学生で26名中11名、墨字使用学生で14名中5名でした。以下に具体的な内容を記します。

(ア) 情報処理

情報処理の実習をあきらめた例として、次のようなものがありました。

- ・学内のパソコンの使い方を練習する授業は、普段やっている内容だったこと、画面読み上げソフトが入っていなかったことなどの理由であきらめた。
- ・デジタル機材を扱う授業は、視覚が必要だったためあきらめた。
- ・プログラミングやソフトウェアが画面読み上げソフトを用いて利用できるかどうかわからなかったため、あきらめた。
- ・画面を見続けることがきつく、課題をこなせるかも不安であったためあきらめた。

(イ) 体育実技

体育実技の授業をあきらめた例として、次のようなものがありました。

- ・バドミントン、テニス、バスケットボールなどの球技や、ウィンタースポーツの授業をあきらめた。
- ・やってみよう種目はあったが、アダプテッドスポーツなど視覚障害があってもできそうな種目を履修した。

(ウ) その他

その他に、履修をあきらめた授業として、次のようなものがありました。

- ・役所へのインターンシップを申し込んだが、大学からの支援は難しく、役所からの支援は十分に受けられない可能性があるという連絡があり、断念した。
- ・学外に行きたい施設があったが、行くことが難しいということで学内施設に変更になった。
- ・アラビア語の授業の履修を迷っていた時点訳やテキスト化の目処が立たなかったため履修をあきらめた。
- ・語学の授業で、板書を大きくしてもらえなかったり、支援が足りず提出が難しい課題があったりして、思ったような学びの環境を整えられずにあきらめた。
- ・国際社会学の授業
- ・海外での活動

(11) 履修を断られた授業

視覚障害に関連して履修を断られたことがあるかについて質問しました。「ある」と回答した学生は、点字使用学生26名中6名で、墨字使用学生はいませんでした。以下に具体的な内容を記します。

- ・体育実技で履修したかった授業があったが、TAの配置が難しいと言われた。
- ・語学の授業で、他の学生と同じようなことができるよう配慮をしてもらったが、点字使用学生が初めてだったため、特別対応を依頼しても受講拒否をされた科目があった。本来1年次に取得するはずの単位を2年次に取得した。その時に受けた配慮は、英会話の授業では口頭でのテスト、英語の読解を行う授業では試験ではなくレポートでの対応である。
- ・表やグラフが読みとれないだろうという先生の推測で、「単位の認定はしません」という履修拒否をされた。統計学や社会学の授業では、表やグラフが立体コピーなどで表せるものがあるかどうかという点で、履修を諦めざるを得なかった。
- ・統計学と社会学の履修が必須だったが、視覚障害のある人は履修してはいけないという大学の決まりがあったが、自身が必修のため履修したいと交渉し、特別対応なしで受講をしたが2度単位を落としてしまい、代替科目を設定してもらい単位を履修した。
- ・保健体育の座学では、障害に対する理解のない先生で、授業に参加することはできたが、レポートを受け取ってもらうことができず、別の科目で履修をした。代替科目で履修することを説明することに苦戦した。

- ・インターンの授業で、企業の受け入れが難しいかもしれないと言われた。
- ・教育実習の履修手続きに際して、大学から「行かないでください」と言われたことがある。現在は大学に配慮をしていただき、交渉の末、実習書類の作成をしたが、大学との折り合いはまだついていない。
- ・点字使用学生が初めてだったため、複数の科目で受講拒否になり、その度に特別措置の内容をそれぞれの科目で考えることが大変だった。

視覚障害があることで授業の目的を達成できないということも考えられます。過去に視覚障害学生を教えた経験がない教員や、非常勤教員が担当される授業では、大学で視覚障害学生への配慮内容を周知していただき、対応してもらえよう、理解を促してもらいたいものです。大学にとって初めてのケースであっても、すぐに履修を断らず、視覚障害教育の専門機関（学生の出身盲学校など）と十分に連携をとってもらいたいものです。

6. 定期試験

「時間延長」、「別室受験」、「出題方法の配慮(点字・拡大文字等での出題)」、「解答方法の配慮(点字解答・解答用紙の変更・パソコン解答など)」、「レポートへの変更」について質問しました。それぞれの項目における現在の状況について、「まったくしてもらっていない」を0点、「たまにしてもらっている」を1点、「時々してもらっている」を2点、「いつもしてもらっている」を3点、希望について、「まったく必要ない」を0点、「たまに配慮してほしい」を1点、「時々配慮してほしい」を2点、「いつも配慮してほしい」を3点と得点化し、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの(対象人数)×(満点3点)で割った値を求めました。その結果を図6-1-1(点字)、図6-1-2(墨字)に示します。

図6-1-1 定期試験における配慮や支援(点字)

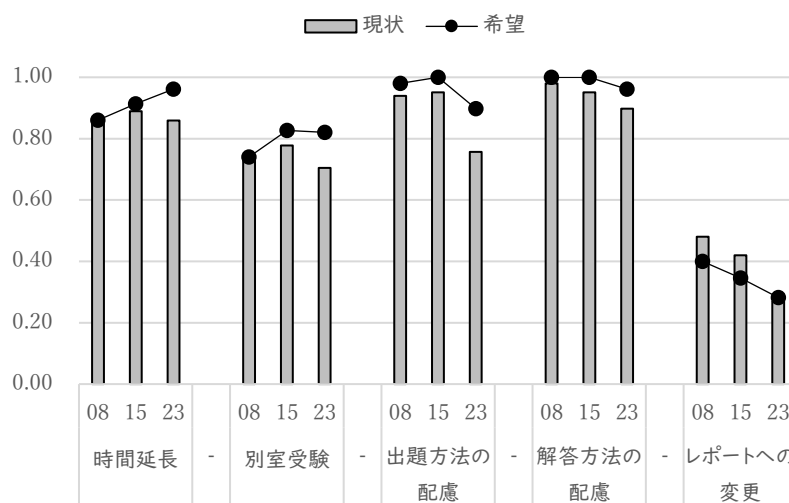
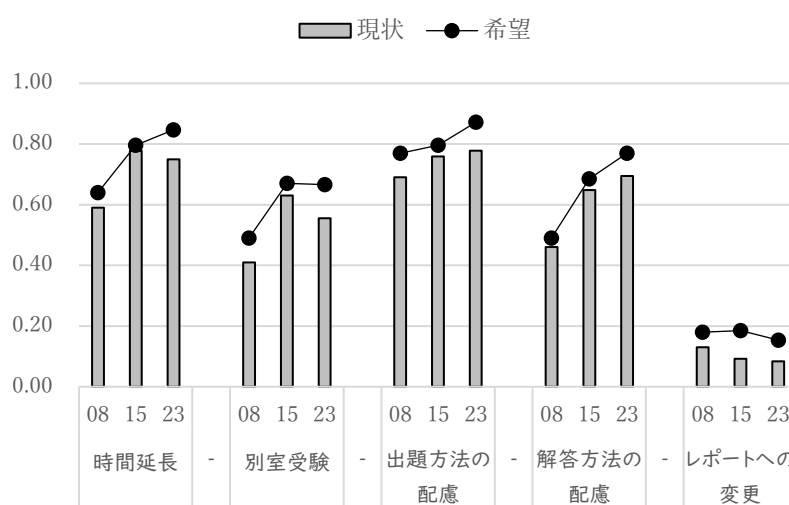


図6-1-2 定期試験における配慮や支援(墨字)



(1) 時間延長

点字使用学生では、現状 0.86、希望 0.96(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.89、希望 0.91(「まったく必要ない」は 0.0%)で、2008 年度は現状 0.85、希望 0.86(「まったく必要ない」は 7.1%)でした。過去の調査と同様、現状・希望ともかなり高い値を示しています。特に、希望は次第に高くなっており、定期試験の際の時間延長は必須であることがわかります。表 6-1-1 に、点字使用学生の時間延長の倍率について、現状と希望を示します。現状の平均は 1.49 倍で、過去の調査では 2015 年度が 1.51 倍、2008 年度が 1.47 倍でした。また、希望の平均は 1.55 倍で、過去の調査では 2015 年度が 1.57 倍、2008 年度が 1.51 倍でした。入学試験においても通常 1.5 倍の時間延長が認められており、定期試験において

も 1.5 倍の時間延長が定着していることがわかりました。

墨字使用学生では、現状 0.75、希望 0.85（「まったく必要ない」は 7.7%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.78、希望 0.80（「まったく必要ない」は 0.0%）で、2008 年度は現状 0.59、希望 0.64（「まったく必要ない」は 15.4%）でした。現状・希望ともに、2015 年度と同程度の高い値となっており、視覚障害のない学生と同じ時間内で解答を作成することは負担が大きいことがわかりました。表 6-1-2 に、墨字使用学生の時間延長の倍率について、現状と希望を示します。現状の平均は 1.43 倍で、過去の調査では 2015 年度が 1.37 倍、2008 年度が 1.3 倍でした。また、希望の平均は 1.45 倍で、過去の調査では 2015 年度が 1.40 倍で、2008 年度が 1.31 倍でした。現状・希望ともに次第に高くなってきています。墨字使用学生は入学試験で 1.3 倍の時間延長が認められていることが多いですが、大学入学共通テストでは必要に応じて 1.5 倍の時間延長も認められるようになってきており、各大学の入学試験もそれに準じている場合もあります。見え方によっては 1.3 倍では十分でないと感じている学生の割合が増加していることがわかりました。

表 6-1-1 定期試験における時間延長の倍率と人数（点字）

延長時間(倍)	1	1.5	1.5~2	2	その他	合計	平均
現状(人)	2	20	3	0	1	26	1.49倍
希望(人)	0	17	4	1	4	26	1.55倍

表 6-1-2 定期試験における時間延長の倍率と人数（墨字）

延長時間(倍)	1	1.3	1.3~1.5	1.5	1.5~2	2	無回答	合計	平均
現状(人)	0	5	3	2	1	0	2	13	1.43倍
希望(人)	0	6	1	3	1	1	1	13	1.45倍

(2) 別室受験

点字使用学生では、現状 0.71、希望 0.82（「まったく必要ない」は 7.7%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.78、希望 0.83（「まったく必要ない」3.7%）で、2008 年度は現状 0.73、希望 0.74（「まったく必要ない」14.3%）でした。

墨字使用学生では、現状 0.56、希望 0.67（「まったく必要ない」は 15.4%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.63、希望 0.67（「まったく必要ない」16.7%）で、2008 年度は現状 0.41、希望 0.49（「まったく必要ない」30.8%）でした。

2015年度に比べ、点字使用学生でも墨字使用学生でも、希望の値には変化が見られないにもかかわらず、現状の値が減少しています。大学によっては教室が足りないため、時間延長は認められるが、一般の学生と同じ教室で受験している場合もあるようです。試験中に、周囲の学生が入退室をすることとなり、試験に集中できないことも考えられます。教室や試験監督の手配等の問題もあるかと思いますが、できるだけ用意してもらえよう理解を求めていく必要があります。また、点字使用学生の場合には、点字盤や点字タイプライタを用いて解答する際には音が出ることもあり、別室の確保が望まれます。

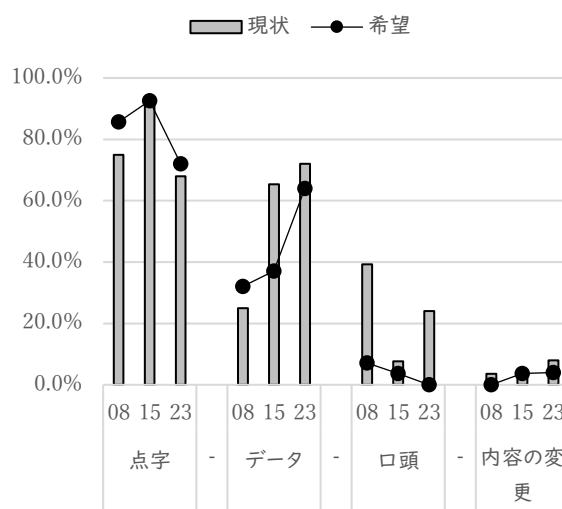
(3) 試験方法の配慮

(ア) 出題方法

点字使用学生について「出題方法の配慮」に関する回答をみると、現状 0.76、希望 0.90（「まったく必要ない」は 0.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.95、希望 1.00（「まったく必要ない」0.0%）で、2008 年度は現状 0.94、希望 0.98（「まったく必要ない」0.0%）でした。点字使用学生は通常の問題用紙を読んで解答できないため、必ず配慮が必要であり、結果にもそのことが示されています。

点字使用学生への配慮について、具体的内容をすべて答えてもらった結果を図 6-2-1 に示します。出題方法の現状を高い順にみると、「データ」（72.0%）、「点字」（68.0%）、「口頭」（24.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は「点字」（92.3%）、「データ」（65.4%）、「口頭」（7.7%）で、2008 年度は「点字」（75.0%）、「口頭」（39.3%）、「データ」（25.0%）でした。また、希望を高い順にみると、「点字」（72.0%）、「データ」（64.0%）、「内容の変更」（4.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は「点字」（92.6%）、「データ」（37.0%）、「口頭」（3.7%）で、2008 年度は「点字」（85.7%）、「データ」（32.1%）、「口頭」（7.1%）でした。過去の調査では点字での出題の割合が最も高かったのですが、今回はデータでの出題の割合の方がわずかに高くなりました。しかし、点字での出題を希望する学生の割合も減少してきていますが、データでの出題の希望よりもわずかに高かったです。データでの出題は、出題する側にとっては点訳のための時間や費用が軽減でき、負担が小さくなりますが、点字使用学生にとっては問題の全体を把握するのに時間がかかることや、下線や空欄などの記号類を見つけにくいこと、レイアウトが把握しにくいことなどから、負担が大きいと言えます。

図6-2-1 出題方法の配慮(点字)

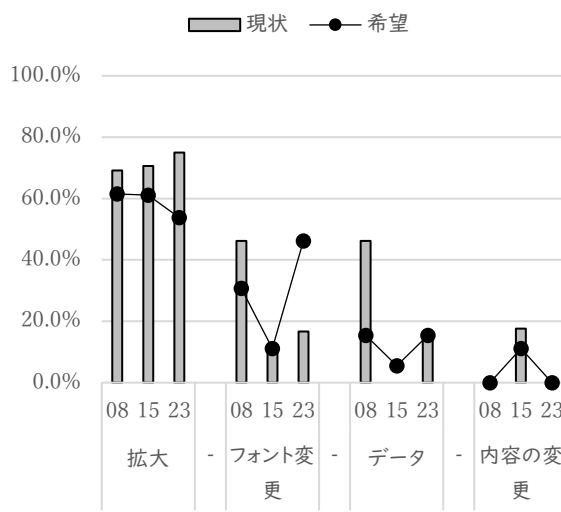


墨字使用学生について「出題方法の配慮」に関する回答をみると、現状 0.78、希望 0.87（「まったく必要ない」は 0.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.76、希望 0.80（「まったく必要ない」16.7%）で、2008 年度は現状 0.69、希望 0.77（「まったく必要ない」7.7%）でした。墨字使用学生についても文字サイズやフォントに配慮した問題用紙が必要なため、出題方法への配慮を希望していると考えられます。

墨字使用学生への配慮について、具体的内容をすべて答えてもらった結果を図 6-2-2 に示します。出題方法の現状を高い順にみると、「問題用紙・文字の拡大」（75.0%）、「フォントの変更」（各 16.7%）でした。過去の調査では、2015 年度は「問題用紙・文字の拡大」（70.6%）、「内容の変更」（17.6%）、「フォントの変更」（11.8%）で、2008 年度は「問題用紙・

文字の拡大」(69.2%)、「フォントの変更」(46.2%)、「データ」(46.2%)でした。また、希望を高い順にみると、「問題用紙・文字の拡大」(53.8%)、「フォントの変更」(46.2%)、「データ」(15.4%)でした。過去の調査では、2015年度は「問題用紙・文字の拡大」(61.1%)、「フォントの変更」(11.1%)、「データ」(5.6%)で、2008年度は「問題用紙・文字の拡大」(61.5%)、「フォントの変更」(30.8%)、「データ」(15.4%)でした。過去の調査と同様に、ほとんどの大学で拡大した問題用紙で出題されているようです。しかし、拡大された問題用紙を希望している学生は半数程度で、フォントの変更やデータでの出題を希望している学生も増加しています。それぞれの学生のニーズに対応してもらえることを期待します。

図6-2-2 出題方法の配慮(墨字)

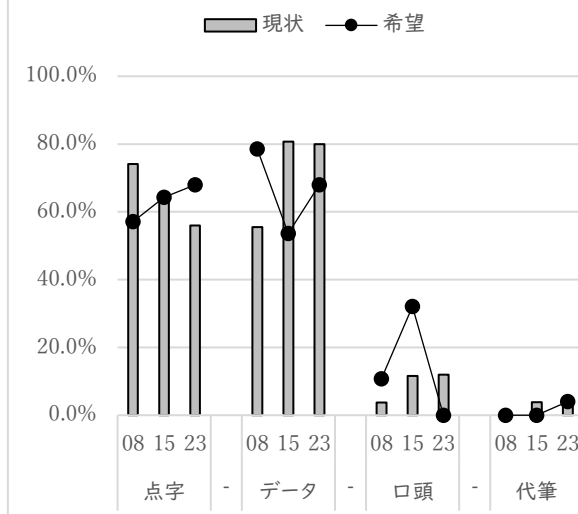


(イ) 解答方法の配慮

点字使用学生について「解答方法の配慮」に関する回答をみると、現状 0.90、希望 0.96(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。過去の調査では、2015年度は現状 0.95、希望 1.00(「まったく必要ない」0.0%)で、2008年度は現状 0.98、希望 1.00(「まったく必要ない」0.0%)でした。点字使用学生は通常の解答用紙に自筆で解答することができないため、必ず配慮が必要であり、結果にもそのことが示されています。その中で、現状の値が次第に減少しているのは、オンライン学習システムなどを用いてweb上で解答する試験等、一般の学生もデータで解答する場合は、特に配慮なく解答できるものも出てきているようです。

点字使用学生への配慮について、具体的内容をすべて答えてもらった結果を図 6-3-1 に示します。解答方法の現状を高い順にみると、「データ」(80.0%)、「点字」(56.0%)、「口頭」(12.0%)でした。過去の調査では、2015年度は「データ」(80.8%)、「点字」(65.4%)、「口頭」(11.5%)で、2008年度は「点字」(64.3%)、「データ」(53.6%)、「口頭」(32.1%)でした。また、希望を高い順にみると、「データ」「点字」(各 68.0%)、「代筆」

図6-3-1 解答方法の配慮(点字)



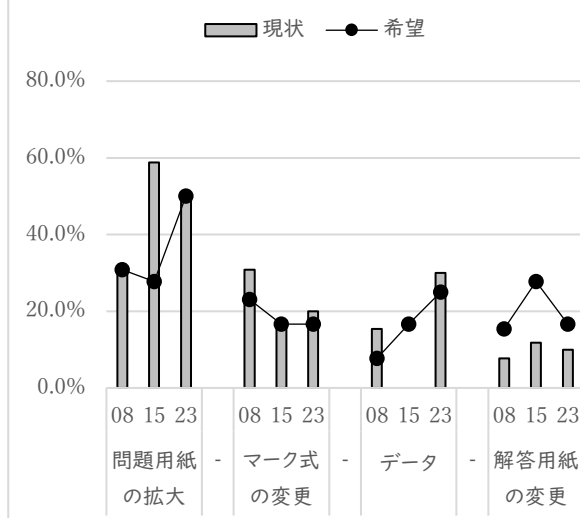
(4.0%)でした。過去の調査では、2015年度は「点字」(74.1%)、「データ」(55.6%)、「口頭」(3.7%)で、2008年度は「データ」(78.6%)、「点字」(57.1%)、「口頭」(10.7%)でした。過去の調査に比べ、現状では点字で解答している学生の割合が減少していますが、点字での解答を希望している学生の割合は増加しています。成績に影響する試験の場合には慎重に読み書きする必要があるため、何度も読み返すことができ、必要な部分をいつでも確認することができる点字を希望する学生の割合が増えているのではないかと考えられます。また、データで解答する場合には、漢字変換のミスや、漢字への不慣れによって使用する文字を間違えることもあります。その点を考慮して採点上の配慮をすることが必要となります。

墨字使用学生について「解答方法の配慮」に関する回答をみると、現状 0.69、希望 0.77(「まったく必要ない」は 0.0%)でした。過去の調査では、2015年度は現状 0.65、希望 0.69(「まったく必要ない」22.2%)で、2008年度は現状 0.46、希望 0.49(「まったく必要ない」46.2%)でした。現状・希望ともに、2015年度と大きな変化は見られませんでした。しかし、「まったく必要ない」と回答した学生の割合は大きく減少してきており、今回はゼロとなりました。何らかの配慮を希望していることがわかりました。

墨字使用学生への配慮について、具体的内容をすべて答えてもらった結果を図 6-3-2 に示します。解答方法の現状を高い順にみると、「解答用紙の拡大」(50.0%)、「データ」(30.0%)、「マークシート方式の変更」(20.0%)でした。過去の調査では、2015年度は「解答用紙の拡大」(58.8%)、「マークシート方式の変更」(17.6%)、「解答用紙の変更」(11.8%)で、2008年度は「解答用紙の拡大」(30.8%)、「マークシート方式の変更」(30.8%)、「データ」(15.4%)でした。また、希望を高い順にみると、「解答用紙の拡大」(50.0%)、「データ」(25.0%)、「マークシート方式の変更」(16.7%)でした。過去の調査

では、2015年度は「解答用紙の拡大」「解答用紙の変更」(各 27.8%)、「マークシート方式の変更」「データ」(各 16.7%)で、2008年度は「解答用紙の拡大」(30.8%)、「マークシート方式の変更」(23.1%)、「解答用紙の変更」(15.4%)、「データ」(7.7%)でした。過去の調査に比べ、現状と希望の割合の差が小さくなっています。墨字使用学生が希望している配慮の内容をみると、解答用紙の拡大だけではなく、さまざまです。マークシートは狭い範囲をきれいに塗りつぶす必要がありますが、負担が大きいため、学生がマークしたい部分をチェックし、後で担当者が塗りつぶす方法、学生本人が別紙に問題番号と選択肢の記号を文字で記入する方法などの配慮が必要です。また、解答欄を探したり指定された欄に書き込んだりすることが困難な場合は、自由に記述できる罫紙な

図6-3-2 解答方法の配慮(墨字)



どの解答用紙に変更するなどの配慮になります。視力や視野等の視機能が個人によってさまざまであるため、一律に適用できる方法はなく、各学生の見え方に合わせた配慮が求められます。少しずつ、個々の希望に応じた配慮がなされるようになってきていることが伺えます。

(4) レポートへの変更

点字使用学生では、現状 0.27、希望 0.28(「まったく必要ない」は 50.0%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.42、希望 0.35(「まったく必要ない」は 37.0%)で、2008 年度は現状 0.48、希望 0.40(「まったく必要ない」は 21.4%)でした。墨字使用学生では、現状 0.08、希望 0.15(「まったく必要ない」は 69.2%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.09、希望 0.19(「まったく必要ない」は 61.1%)で、2008 年度は現状 0.13、希望 0.18(「まったく必要ない」は 61.5%)でした。

過去の調査に比べ、点字使用学生でも墨字使用学生でも、現状の値は次第に減少しています。また希望の値も減少傾向にあるといえます。複数科目においてレポートへの変更が行われると、試験を受けるよりも負担が大きくなります。そのため、容易にレポートに変更するのではなくてきていることはよい傾向であるといえます。また、点字使用学生も墨字使用学生も「まったく必要ない」と回答した学生の割合が増加しており、出題方法や解答方法の配慮で対応できていると考えられます。

7. 図書館・参考資料室

図書館・参考資料室について、利用頻度、人的支援の利用状況、利用している支援の内容（現状）と希望について質問しました。

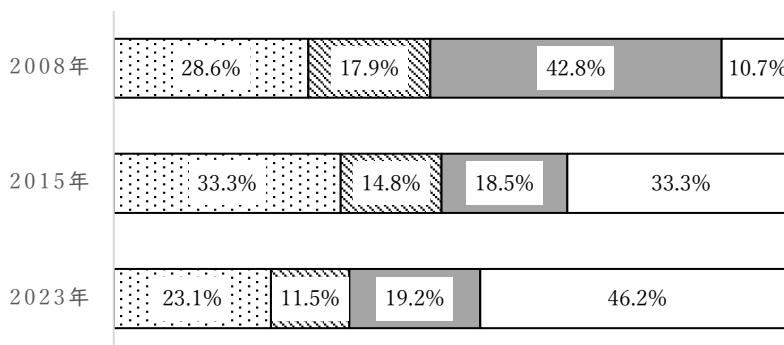
(1) 利用頻度

大学図書館・参考資料室を実際に利用している頻度を、図 7-1-1（点字）と図 7-1-2（墨字）に示します。

点字使用学生では、「週に 1 回以上」が 2008 年度 28.6%、2015 年度 33.3%、2023 年度 23.1%、「月数回」が 2008 年度 17.9%、2015 年度 14.8%、2023 年度 11.5%、「学期に数回」が 2008 年度 42.8%、2015 年度 18.5%、2023 年度 19.2%、「ほとんど利用しない」が 2008 年度 10.7%、2015 年度 33.3%、2023 年度 46.2%でした。「ほとんど利用しない」と回答した学生の割合が半数近くとなり、大学図書館の利用頻度がきわめて低いことがわかりました。

図 7-1-1 大学図書館の利用頻度（点字）

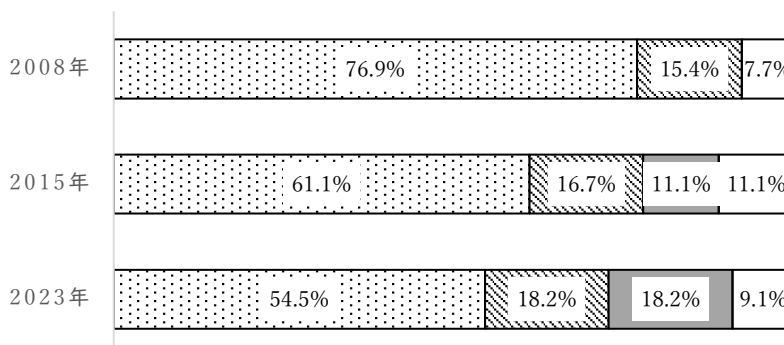
□ 週 1 回以上 ■ 月数回 ■ 学期に数回 □ ほとんど利用しない



墨字使用学生では、「週に 1 回以上」が 2008 年度 76.9%、2015 年度 61.1%、2023 年度 54.5%、「月数回」が 2008 年度 15.4%、2015 年度 16.7%、2023 年度 18.2%、「学期に数回」が 2008 年度は 0%、2015 年度は 11.1%、2023 年度 18.2%、「ほとんど利用しない」が 2008 年度 7.7%、

図 7-1-2 大学図書館の利用頻度（墨字）

□ 週 1 回以上 ■ 月数回 ■ 学期に数回 □ ほとんど利用しない



2015 年度 11.1%、2023 年度 9.1%でした。点字使用学生と比べると、「ほとんど利用しない」と回答した学生の割合は低いですが、月数回以上利用している学生の割合は、2008 年度から次第に減少してきています。週に 1 回以上利用している人の割合が高いですが、2008 年度と比べると、全体的に利用する頻度が低くなっていることがわかりました。

2015年度の調査時の回答から、大学図書館よりもサピエ図書館を利用しているという声がありましたので、今回は、サピエ図書館および国立国会図書館障害者用資料検索・視覚障害者等用データ送信サービスの利用頻度についても質問しました。その結果を、図 7-2-1（点字）と図 7-2-2（墨字）に示します。

点字使用学生においては、サピエ図書館の利用頻度が「週に1回以上」38.5%、「月数回」23.1%、「学期に数回」23.1%、「ほとんど利用しない」15.4%でした。また、国会図書館のサービスの利用頻度では「週に1回以上」3.8%、「月数回」11.5%、「学期に数回」7.7%、「ほとんど利用しない」76.9%でした。点字使用学生は、大学図書館よりもサピエ図書館を利用して学習することがわかりました。

墨字使用学生においては、サピエ図書館の利用頻度が「週に1回以上」9.1%、「月数回」27.3%、「学期に数回」0%、「ほとんど利用しない」63.6%でした。また、国会図書館のサービスの利用頻度では「週に1回以上」9.1%、「月数回」0%、「学期に数回」9.1%、「ほとんど利用しない」81.8%でした。墨字使用学生は、大学図書館の利用頻度が他の図書館よりも高いことがわかりました。

大学の学習において文献調査は不可欠であるにもかかわらず、特に点字使用学生が大学図書館を利用する頻度が低い理由としては、利用できる資料が整っていないこと、十分な人的支援が受けられていないことなどが考えられます。サピエ図書館では独力で点字データや音声データが入手でき、利用しやすいため、こちらの利用頻度が高くなっています。ただし、サピエ図書館の蔵書数はそれほど多くありません。特に専門書の種類や蔵書数はかなり少ないです。大学での学習を深めるためには、視覚障害学生に対する大学図書館の支援の一層の充実が望まれます。また、国会図書館

図 7-2-1 図書館別の利用頻度（点字）

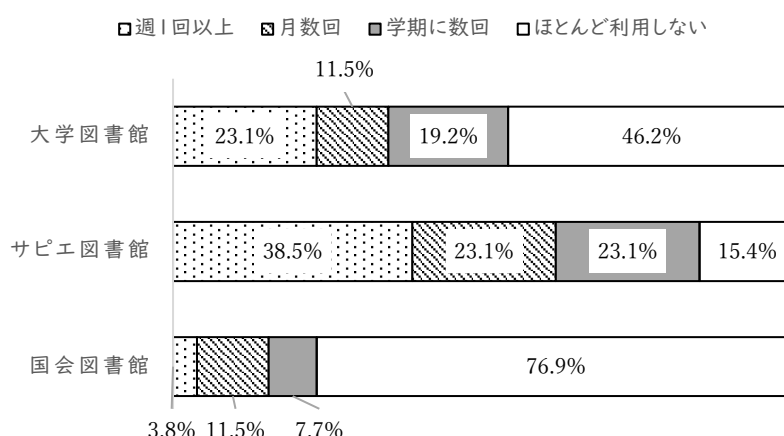
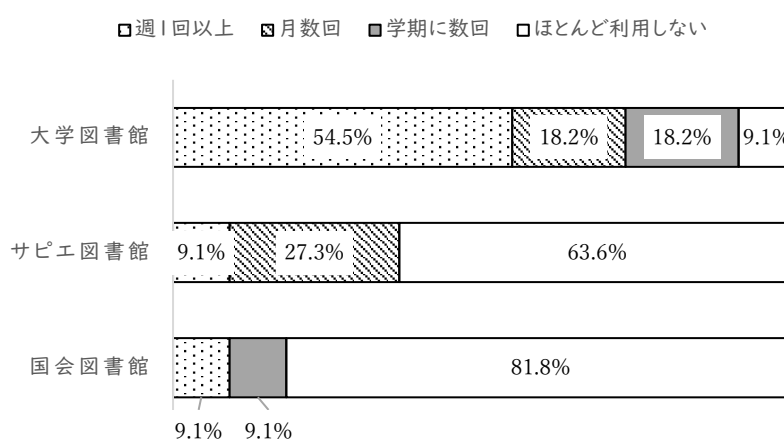


図 7-2-2 図書館別の利用頻度（墨字）



のサービスについては始まって間もないことからサービスの存在を知らない学生が多くいました。国会図書館にはかなりの数のテキストデータが整備されています。データ送信サービスは視覚障害学生自身が利用できるものですが、必要な文献のテキストデータがあるかどうかの検索等を大学図書館でもやっていただき、なかった場合には他の支援を提示してもらえることを期待します。

(2) 人的支援の利用状況

人的支援の利用状況を、図 7-3-1 (点字)と図 7-3-2 (墨字)に示します。

点字使用学生では、「支援を受けている」が2008年78.6%、2015年度66.7%、2023年度72.0%、「支援を受けていない」が2008年21.4%、2015年度33.3%、2023年28.0%でした。

墨字使用学生では、「支援を受けている」が2008年30.8%、2015年度38.9%、2023年度72.7%、「支援を受けていない」が2008年69.2%、2015年度61.1%、2023年度27.3%でした。過去の調査に比べ、支援を受けている学生の割合が大きく増加しました。墨字使用学生にも人的支援が必要であること、それに大学が対応してくれるようになってきていることがわかりました。

(3) 利用している支援の内容(現状)と希望

利用している支援の内容(現状)と希望を、図 7-4-1 (点字)と図 7-4-2 (墨字)に示します。

利用している人的支援の内容は、実際に支援を受けている点字使用学生(2008年度は22名、2015年度・2023年度は各18名)に対して、「検索の補助」は2008年度59.1%、2015年度88.9%、2023年度38.9%、「コピーの補助」は2008年度36.4%、2015年度55.6%、2023年度11.1%、「対面朗読」は2008年度40.9%、2015年度44.4%、2023年度50.0%でした。

また、希望する支援内容について、全員(2008年度は28名、2015年度は27名、2023年度は26名)に質問したところ、「検索の補助」は2008年度57.1%、2015年度77.8%、2023年

図 7-3-1 大学図書館における人的支援の利用状況(点字)

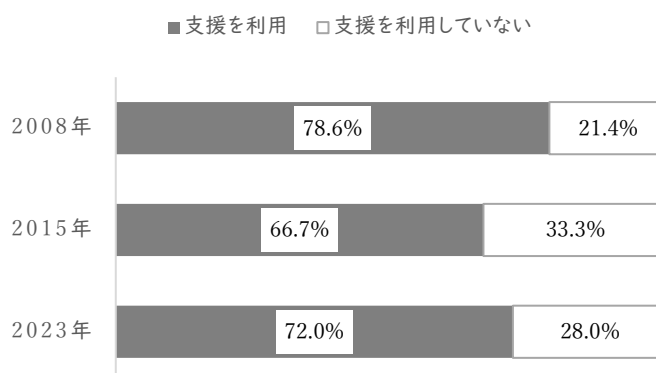
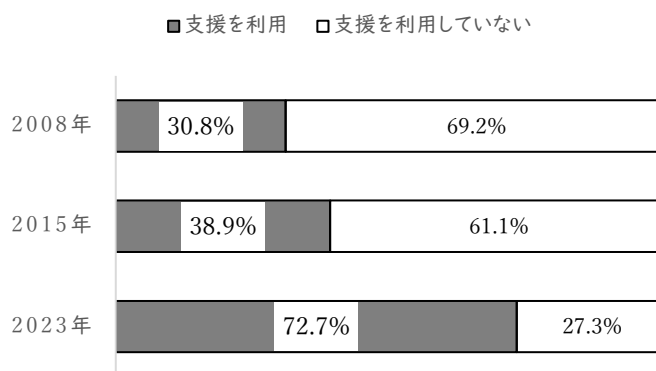


図 7-3-2 大学図書館における人的支援の利用状況(墨字)



度 60.0%、「コピーの補助」は 2008 年度 53.6%、2015 年度 66.7%、2023 年度 40.0%、「対面朗読」は 2008 年度 60.7%、2015 年度 70.4%、2023年度 76.0%でした。また、その他として、文献のテキストデータ化の支援を受けている学生およびテキストデータ化を希望する学生が多くいました。他には、貸出期間の延長なども上がっていました。

したがって、点字使用学生が図書館を利用する場合、これらの3項目の支援に加え、テキストデータでの提供が望まれます。文献をテキストデータで入手する方法としては、先述したサピエ図書館や国立国会図書館の利用に加え、大学図書館から

出版社に対し、テキストデータの提供の依頼などがあります。読書バリアフリー法によって、視覚障害学生が利用する際には出版社に対してテキストデータの提供を依頼できます。これらの支援の利用方法が明確になると、図書館をあまり利用していない点字使用学生も利用頻度が上がるのではないかと考えられます。

実際に支援を受けている墨字使用学生（2008 年度は 4 名、2015 年度は 7 名、2023年度は 8名）に対して、「検索の補助」は 2008 年度 50.0%、2015 年度 57.1%、2023 年度 62.5%、「コピーの補助」は 2008 年度 25.0%、2015 年度 28.6%、2023年度 25.0%、「対面朗読」は 2008 年度 0.0%、2015 年度 14.3%、2023年度 12.5%でした。

また、希望する支援内容について、全員（2008 年度は 13 名、2015 年度は 18 名、2023年度は 11 名）に質問したところ、「検索の補助」は 2008 年度 53.8%、2015 年度 66.7%、2023 年度 63.6%、「コピーの補助」は 2008 年度 23.1%、2015 年度 33.3%、2023 年度 36.4%「対面朗読」は 2008 年度 7.7%、2015 年度 16.7%、2023 年度 36.4%でした。墨字使用学生については、支援を利用している学生の割合が大きく増加していましたが、特にコピーの補助や対面朗読の割合が増加していることがわかりました。普段墨字を使用していたとしても、小さい文字を大量に読むことには負担感があると思われます。過去の調査に比べ、墨字使用学生自身が、図書館での困難さを大学にきちんと説明し、必要な支援を利用できるようになってきているのではないかと考えられます。

図7-4-1 図書館での支援（点字）

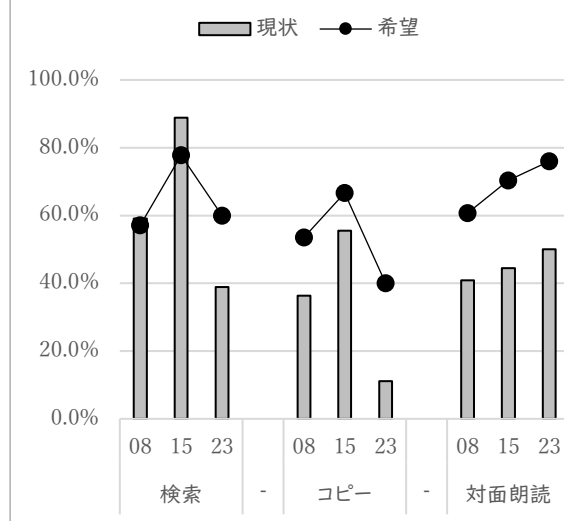
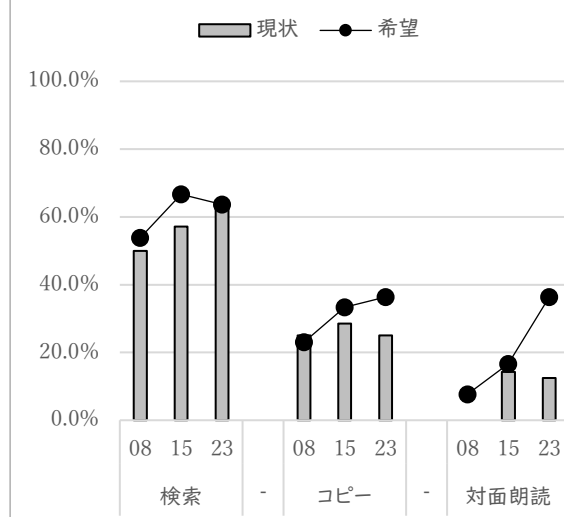


図7-4-2 図書館での支援（墨字）



8. 学習室・専用ロッカー

大学における視覚障害学生用学習室・専用ロッカーについて、現在の有無、必要な程度を質問しました。

現在の有無については「ない」を0点、「ある」を1点、必要な程度は「必要ない」を0点、「できたらほしい」を1点、「必ずほしい」を2点と得点化し、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの(対象人数)×(満点)で割った値を求めました。その結果を図8-1(点字)と図8-2(墨字)に示します。

点字使用学生では、「学習室(専用学習室・学習スペース・対面朗読室などを含む)」については、現状 0.50、希望 0.62 でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.81、希望 0.69 で、2008 年度は現状 0.64、希望 0.75 でした。「専用ロッカー」については、現状 0.08、希望 0.25 でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.33、希望 0.39 で、2008 年度は現状 0.46、希望 0.41 でした。

墨字使用学生では、「学習室」については、現状 0.36、希望 0.50 でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.56、希望 0.39 で、2008 年度は現状 0.31、希望 0.35 でした。「専用ロッカー」については、現状 0.21、希望 0.36 でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.17、希望 0.31 で、2008 年度は現状 0.15、希望 0.31 でした。

点字使用学生では、学習室や学習スペースについても、専用ロッカーについても、現状・希望ともに減少していました。教科書や資料の多くがデータでの提供となってきたこと、新型コロナウイルスの影響によって自宅で学習する機会が増えていることなどが影響しているのではないかと考えられます。また、通常、高校時代までは専用学習室を利用する経験はほとんどないため、学習室の確保を希望してよいことすら想像できていない学生もいると思われます。しかしながら、点字プリンタなど音の出る支援機器を使用する際や、大学で自習する際に空いている席を見つけて利用することが難しいことを考えると、このような学習室が不可欠です。適切に整備され、入学当初から効果的に活用できるよう指導する必要があると考えられます。

墨字使用学生でも、希望の値が次第に高くなってきています。これは、墨字使用学生でもスペースを必要とする卓上型拡大読書器を使用する場合や、画面読み上げソフトを用いてパソコンを利用する場合等には、周囲に気兼ねなく音を出せる環境や、それらの機器を保管できるロッカーが必要であると考えられます。

図8-1 学習室・専用ロッカーの整備状況と希望(点字)

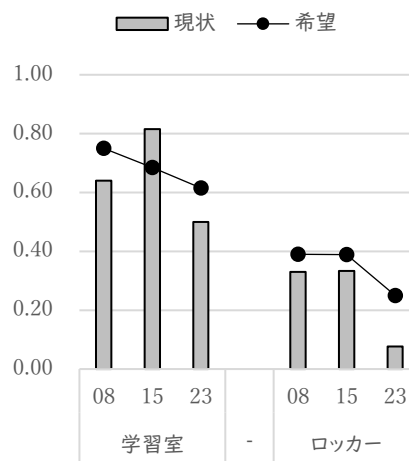
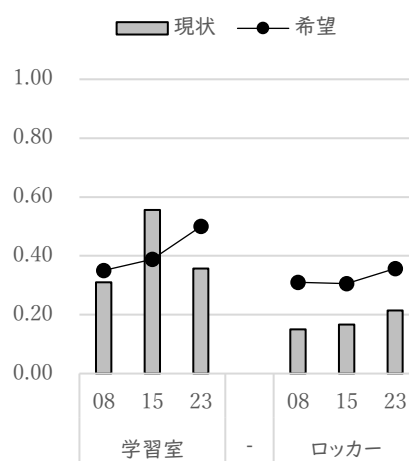


図8-2 学習室・専用ロッカーの整備状況と希望(墨字)



9. 支援機器・視覚補助具

次の17項目の支援機器や視覚補助具について、現在活用している程度、大学の予算による準備の有無、大学の予算による準備を希望する程度について質問しました。

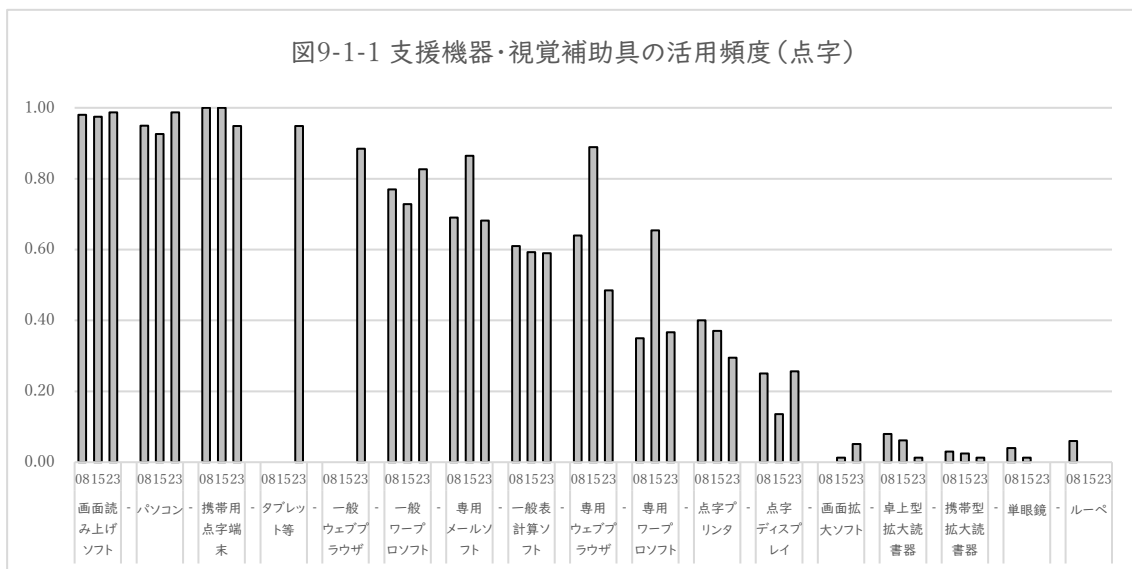
①パソコン、②点字プリンタ、③点字ディスプレイ、④携帯用点字端末、⑤スマホやタブレット、⑥画面読み上げソフト、⑦視覚障害者用メールソフト、⑧視覚障害者用ワープロソフト、⑨視覚障害者用インターネットブラウザ、⑩一般のワープロソフト、⑪一般の表計算ソフト、⑫一般のインターネットブラウザ、⑬卓上型拡大読書器、⑭携帯型拡大読書器、⑮画面拡大ソフト、⑯単眼鏡、⑰ルーペ

なお、⑤スマホやタブレットと⑫一般のインターネットブラウザは、今回の調査で新たに追加した項目です。また、図中では、視覚障害者用のメールソフト、ワープロソフト、インターネットブラウザについては、それぞれ「専用メールソフト」、「専用ワープロソフト」、「専用ウェブブラウザ」と記載しています。

(1) 支援機器・視覚補助具活用の程度

支援機器・視覚補助具の活用の程度について、「必要性がないので使っていない」と回答した学生を除き、「まったく使っていない」を0点、「たまに使っている」を1点、「時々使っている」を2点、「いつも使っている」を3点と得点化し、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの(対象人数)×(満点)で割った値を求めました。その結果を、図9-1-1(点字)と図9-1-2(墨字)に示します。

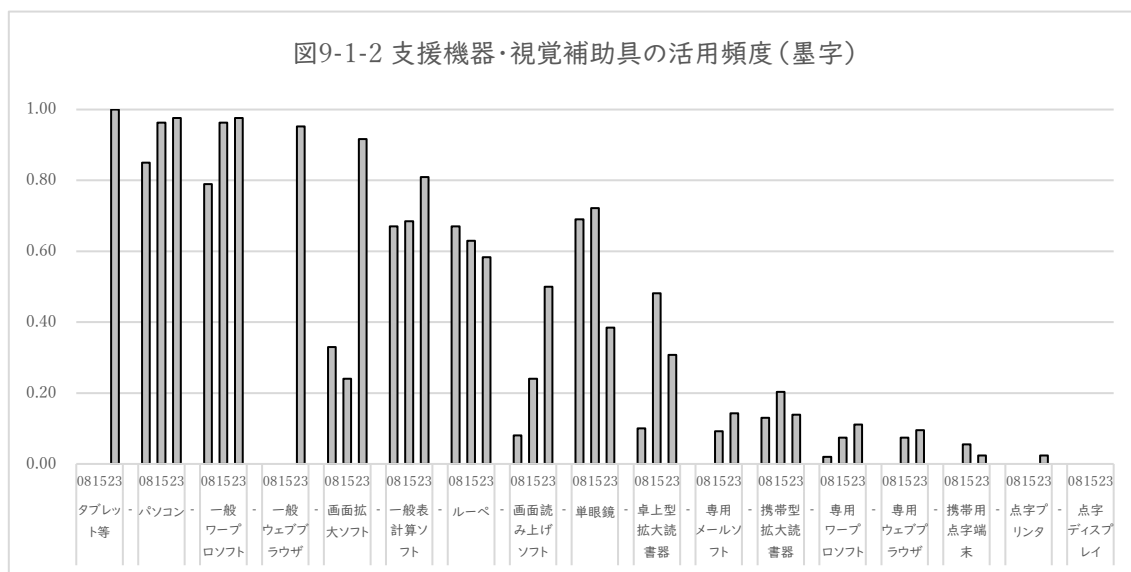
点字使用学生について、支援機器・視覚補助具の活用の程度が高い順にみると、画面読み上げソフト・パソコン(各0.99)、携帯用点字端末・タブレット等(各0.95)、一般ウェブブラウザ(0.88)、一般ワープロソフト(0.83)、専用メールソフト(0.68)、一般表計算ソフト(0.59)、専用ウェブブラウザ(0.48)、専用ワープロソフト(0.37)、点字プリンタ(0.29)、点字ディスプレイ(0.26)、画面拡大ソフト(0.05)、卓上型拡大読書器・携帯型拡大読書器(各0.01)という結果



でした。過去の調査では、2015 年度は、携帯用点字端末(1.00)、画面読み上げソフト(0.98)、パソコン(0.93)、専用ウェブブラウザ(0.89)、専用メールソフト(0.86)、一般ワープロソフト(0.73)、専用ワープロソフト(0.65)、一般表計算ソフト(0.59)、点字プリンタ(0.37)、点字ディスプレイ(0.14)、2008 年度は、携帯用点字端末(1.00)、画面読み上げソフト(0.98)、パソコン(0.95)、一般ワープロソフト(0.77)、専用メールソフト(0.69)、専用ウェブブラウザ(0.64)、一般表計算ソフト(0.61)、点字プリンタ(0.40)、専用ワープロソフト(0.35)、点字ディスプレイ(0.25)という結果でした。

点字使用学生では、過去と同様、画面読み上げソフト・パソコン・携帯用点字端末は常に活用されており、大学で学習する際になくてはならない機器であると言えます。また視覚障害者用のインターネットブラウザ・ワープロソフトの活用が低くなりました。一般のワープロソフトやウェブブラウザの活用が高くなっており、専用ソフトではなく一般のソフトを活用する学生が増加していることがわかりました。

墨字使用学生について、支援機器・視覚補助具の活用が高い順にみると、タブレット等(1.00)、パソコン・一般ワープロソフト(各 0.98)、一般ウェブブラウザ(0.95)、画面拡大ソフト(0.92)、一般表計算ソフト(0.81)、ルーペ(0.58)、画面読み上げソフト(0.50)、単眼鏡(0.38)、卓上型拡大読書器(0.31)、専用メールソフト・携帯型拡大読書器(各 0.14)、専用ワープロソフト(0.11)、専用ウェブブラウザ(0.10)、携帯用点字端末・点字プリンタ(0.02)という結果でした。過去の調査では、2015 年度は、パソコン・一般ワープロソフト(各 0.96)、単眼鏡(0.72)、一般表計算ソフト(0.69)、ルーペ(0.63)、卓上型拡大読書器(0.48)、画面読み上げソフト・画面拡大ソフト(各 0.24)、携帯型拡大読書器(0.20)、専用のメールソフト(0.09)、専用ウェブブラウザ・専用ワープロソフト(各 0.07)、2008 年度は、パソコン(0.85)、一般ワープロソフト(0.79)、単眼鏡(0.69)、ルーペ・一般表計算ソフト(各 0.67)、画面拡大ソフト(0.33)、携帯型拡大読書器(0.13)、卓上型拡大読書器(0.10)、画面読み上げソフト(0.08)という結果でした。墨字使用学生では、2015 年度と同様に、パソコンと一般のワープロソフトの活用がが



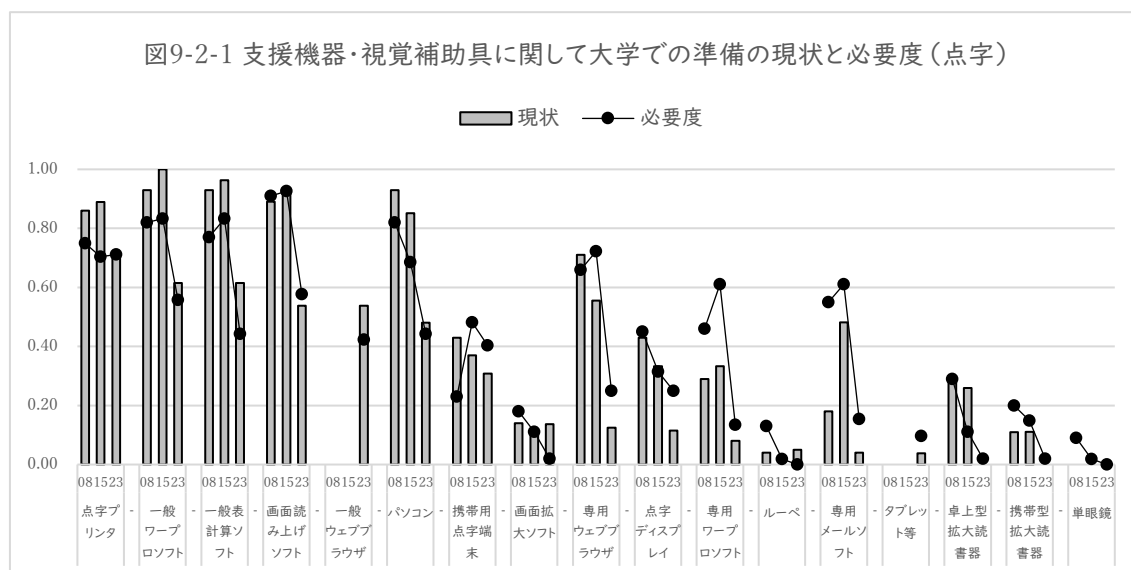
なり高く、さらに、スマホやタブレット、一般のインターネットブラウザの活用の程度もかなり高いことがわかりました。また、2015年度に比べ、画面拡大ソフトや画面読み上げソフトの活用の程度も高くなりました。墨字を使用している、視覚障害のない学生と同じようにパソコンの画面を操作することは難しい状況であることがわかりました。

(2) 支援機器・視覚補助具に関する大学での準備の程度（現状）と必要度

支援機器・視覚補助具に関する大学での準備の程度（現状）については、大学の予算による準備が「ない」を0点、「ある」を1点と得点化し、大学の予算による準備を希望する程度（必要度）については、「いらない」を0点、「できればほしい」を1点、「必ずほしい」を2点と得点化し、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの（対象人数）×（満点）で割った値を求めました。その結果を、図9-2-1（点字）と図9-2-2（墨字）に示します。

点字使用学生に対して、大学で準備されている程度が高い順にみると、点字プリンタ（0.72）、一般のワープロソフト・一般の表計算ソフト（各0.62）、画面読み上げソフト・一般のウェブブラウザ（各0.54）、パソコン（0.48）、携帯用点字端末（0.31）、画面拡大ソフト（0.14）、専用のウェブブラウザ（0.13）、点字ディスプレイ（0.12）、専用のワープロソフト（0.08）、ルーペ（0.05）、専用のメールソフト・タブレット等（各0.04）という結果でした。過去の調査では、2015年度は、一般のワープロソフト（1.00）、一般の表計算ソフト（0.96）、画面読み上げソフト（0.93）、点字プリンタ（0.89）、パソコン（0.85）、専用のウェブブラウザ（0.56）、専用のメールソフト（0.48）、携帯用点字端末（0.37）、点字ディスプレイ・専用のワープロソフト（各0.33）、2008年度は、パソコン（0.93）、一般ワープロソフト・一般表計算ソフト（各0.93）、画面読み上げソフト（0.89）、点字プリンタ（0.86）、専用ウェブブラウザ（0.71）、携帯用点字端末・点字ディスプレイ・専用メールソフト（各0.43）、専用ワープロソフト（0.29）という結果でした。

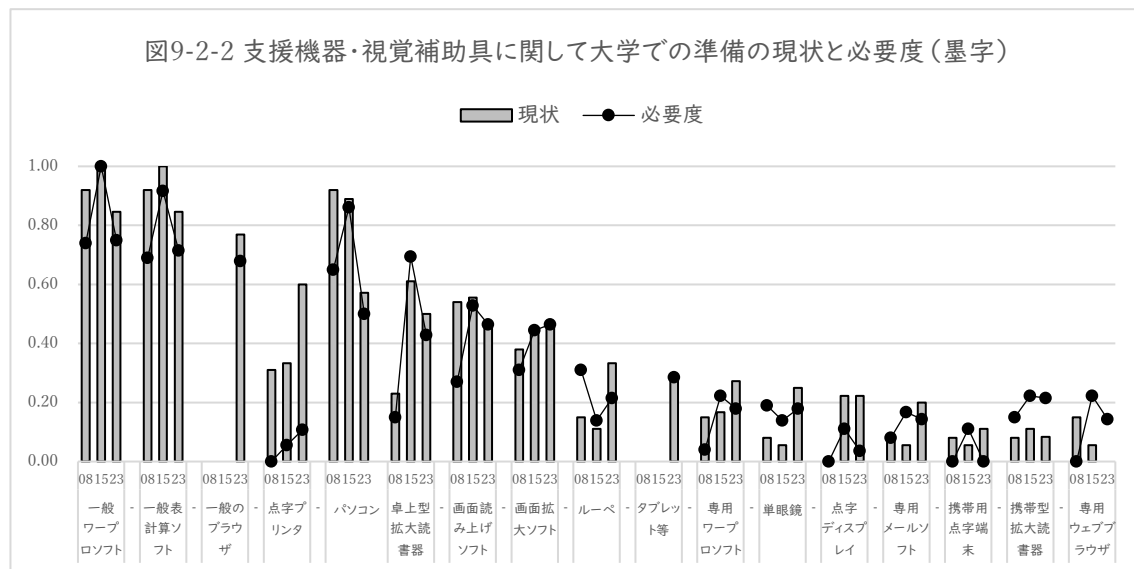
過去の調査に比べ、どの支援機器においても大学で準備されている程度が低くなりました。個人で準備していることが増えてきているものと考えられます。



一方、大学の予算による準備を希望する程度が高い順にみると、点字プリンタ(0.71)、画面読み上げソフト(0.58)、一般のワープロソフト(0.56)、一般の表計算ソフト・パソコン(各 0.44)、一般のウェブブラウザ(0.42)、携帯用点字端末(0.40)、専用のウェブブラウザ・点字ディスプレイ(各 0.25)、専用のメールソフト(0.15)、専用のワープロソフト(0.13)、スマホ等(0.10)、画面拡大ソフト・卓上型拡大読書器・携帯型拡大読書器(各 0.02)という結果でした。過去の調査では、2015 年度は、画面読み上げソフト(0.93)、一般ワープロソフト・一般表計算ソフト(各 0.83)、専用ウェブブラウザ(0.72)、点字プリンタ(0.70)、パソコン(0.69)、専用メールソフト・専用ワープロソフト(各 0.61)、携帯用点字端末(0.48)点字ディスプレイ(0.31)、2008 年度は、画面読み上げソフト(0.91)、パソコン(0.82)、一般ワープロソフト(0.82)、一般表計算ソフト(0.77)、点字プリンタ(0.75)、専用ウェブブラウザ(0.66)、専用メールソフト(0.55)、専用ワープロソフト(0.46)、点字ディスプレイ(0.45)、携帯用点字端末(0.23)という結果でした。

現状と同様、どの支援機器においても必要度が低くなっています。大学時にすでに個人のパソコンを準備していることが多く、その際、必要なソフトウェアもほとんど揃えているため、大学のものを借りる必要がなくなってきているものと考えられます。

墨字使用学生に対して、準備されている程度が高い順にみると、一般のワープロソフト・一般の表計算ソフト(各 0.85)、一般のウェブブラウザ(0.77)、点字プリンタ(0.60)、パソコン(0.57)、卓上型拡大読書器(0.50)、画面読み上げソフト・画面拡大ソフト(各 0.45)、ルーペ(0.33)、タブレット等・専用のワープロソフト(各 0.27)、単眼鏡(0.25)、点字ディスプレイ(0.22)、専用のメールソフト(0.20)、携帯用点字端末(0.11)、携帯型拡大読書器(0.08)という結果でした。過去の調査では、2015 年度は、一般ワープロソフト・一般表計算ソフト(各 1.00)、パソコン(0.89)、卓上型拡大読書器(0.61)、画面読み上げソフト(0.56)、画面拡大ソフト(0.44)、ルーペ・携帯型拡大読書器(各 0.11)、単眼鏡(0.06)、2008 年度は、パソコン・一般ワープロソフト・一般表計算ソフト(各 0.92)、画面読み上げソフト(0.54)、画面拡大ソフト(0.38)、卓上型拡大読書器(0.23)、ルーペ(0.15)、携帯型拡大読書器(0.08)、単眼鏡(0.08)という結果でした。



一般のワープロソフト・表計算ソフトは、ほとんどの大学で準備されていましたが、パソコンは個人で準備するようになってきているようで、大学で準備されている割合が減少しました。また、ルーペや単眼鏡、視覚障害者用のソフトウェアが準備されている割合が増加しました。

一方、大学の予算による準備を希望する程度が高い順にみると、一般のワープロソフト(0.75)、一般の表計算ソフト(0.71)、一般のウェブブラウザ(0.68)、パソコン(0.50)、画面読み上げソフト・画面拡大ソフト(各 0.46)、卓上型拡大読書器(0.43)、タブレット等(0.29)、ルーペ・携帯型拡大読書器(各 0.21)、専用のワープロソフト・単眼鏡(各 0.18)、点字ディスプレイ(0.04)、専用のメールソフト・専用のウェブブラウザ(各 0.14)、点字プリンタ(0.11)という結果でした。過去の調査では、2015 年度は、一般ワープロソフト(1.00)、一般表計算ソフト(0.92)、パソコン(0.86)、卓上型拡大読書器(0.69)、画面読み上げソフト(0.53)、画面拡大ソフト(0.44)、携帯型拡大読書器(0.22)、ルーペ・単眼鏡(各 0.14)、2008 年度は、一般ワープロソフト(0.73)、一般表計算ソフト(0.69)、パソコン(0.65)、画面拡大ソフト(0.31)、ルーペ(0.31)、画面読み上げソフト(0.27)、単眼鏡(0.19)、卓上型拡大読書器(0.15)、携帯型拡大読書器(0.15)という結果でした。

過去の調査に比べ、パソコンや一般のソフトウェアについて、大学での準備を希望する程度がかなり減少しました。また、専用のソフトウェアにおいても減少していました。パソコンおよびソフトウェアは高校時代から活用されるようになり、個人で購入するという傾向が強まっているものと考えられます。

(3) 画面読み上げソフトの種類

今回の調査では、視覚障害学生が活用している画面読み上げソフトの種類を質問しました。その結果を、表 9-3-1 (点字)と表 9-3-2 (墨字)に示します。

点字使用学生については、ほとんどの学生が、パソコンでは PC-talker、スマートフォンでは VoiceOver を活用していることがわかりました。PC-talker で読み上げられないものなどについては、NVDAを活用するという学生が半数程度いました。

墨字使用学生で画面読み上げソフトを活用している場合にも、スマートフォンではVoiceOver、パソコンではPC-talker または NVDA が活用されていることがわかりました。

まずは、PC-talker とVoiceOverの操作を身につけておくと言えます。

表9-3-1 活用している画面読み上げソフトの種類(点字)

種類	PC-talker	VoiceOver	NVDA	NetReader	ナレーター	その他	合計
人数(人)	24	23	15	2	4	1	26

表9-3-2 活用している画面読み上げソフトの種類(墨字)

種類	VoiceOver	PC-talker	NVDA	NetReader	ナレーター	その他	合計
人数(人)	9	3	3	1	0	2	12

(4) ウェブブラウザの種類

今回の調査では、視覚障害学生が利用しているウェブブラウザの種類も質問しました。その結果を、表 9-4-1 (点字)と表 9-4-2 (墨字)に示します。

利用している人数が多い順に並べると、点字使用学生では、GoogleChrome、NetReader、Safari、MicrosoftEdge でした。墨字使用学生では、GoogleChrome、Safari、NetReader、MicrosoftEdge でした。

視覚障害者用のインターネットブラウザである NetReader よりも一般のインターネットブラウザである GoogleChrome の方が多く活用されていることがわかりました。おそらく、NetReader ではボタンを押せないなど、うまく操作ができないことがあるため、一般のインターネットブラウザを利用することが増えているものと考えられます。しかし、視覚情報が多く取り入れられているホームページ等の構造を把握しやすいのは視覚障害者用のインターネットブラウザです。最初から一般のインターネットブラウザを使う練習をするのではなく、視覚障害者用のインターネットブラウザで構造を理解し、基本的操作に慣れた上で、必要に応じて一般のインターネットブラウザを利用できるよう練習していくことが大切です。

表9-4-1 活用している画面読み上げソフトの種類(点字)

種類	GoogleChrome	NetReader	Safari	MicrosoftEdge	合計
人数(人)	20	16	13	6	26

表9-4-2 活用している画面読み上げソフトの種類(墨字)

種類	GoogleChrome	Safari	NetReader	MicrosoftEdge	合計
人数(人)	9	7	6	4	14

(5) 支援機器・視覚補助具のまとめ

全体を通して点字使用学生でも墨字使用学生でも、支援機器や視覚補助具を大学の予算で準備してほしいという希望の程度が減少傾向にありました。

パソコンやタブレットを高校時代から活用することが多くなっており、すでに個人で購入している生が増えているのではないかと考えられます。支援機器には高額なものも多くありますが、福祉の補助などを活用して個人で購入できている学生が増えているものと考えられます。

点字プリンタについてみると、大学で準備されている割合が増加していましたが、希望の程度はあまり高くありませんでした。紙に印刷して資料を読むよりも、データで読む機会が増えているのではないかと考えられます。しかし、内容によっては紙で確認した方が理解しやすいものも多いため、大学で準備していただいた上で、学生本人が活用しやすい場所への設置、学生が自由に使える環境の整備が進むことを期待します。

点字ディスプレイについてみると、現在の活用の程度、大学での準備の程度、希望の程度ともに、次第に減少してきています。これは、高額で購入するのが難しいことや、携帯型点字端末の活用の程度が高くなっているためであると考えられます。しかし、携帯型点字端末では一度に確認できる

文字数が少なく、点字ディスプレイの活用が望まれます。点字プリンタ同様、高額で個人では購入できないため、大学で準備されることが望まれます。

墨字使用学生においては、見え方がさまざまで、必要としている支援機器や視覚補助具も個々に異なります。それぞれの学生のニーズに合わせて支援機器や視覚補助具が準備されることを期待します。

10. 施設・設備

点字ブロックの整備、教室番号の表示、エレベータの点字表示や音声案内について、大学で整備されている程度、整備を希望する程度を質問しました。点字使用学生では、「点字ブロックの整備」、「教室番号の点字表示」、「エレベータの点字表示」、「エレベータの音声案内」の4項目について、墨字使用学生では、「点字ブロックの整備」、「教室番号の拡大文字表示」、「エレベータの音声案内」の3項目について、分析を行いました。

整備されている程度については、各項目で、「まったく整備されていない」を0点、「あまり整備されていない」を1点、「すこし整備されている」を2点、「かなり整備されている」を3点と得点化し、希望する程度については、「必要ない」を0点、「できれば整備してほしい」を1点、「必ず整備してほしい」を2点と得点化して、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの(対象人数)×(満点)で割った値を求めました。その結果を図10-1(点字)、図10-2(墨字)に示します。

(1) 点字ブロックの整備、教室番号の点字表示・拡大文字表示

「点字ブロックの整備」についてみると、点字使用学生では、現状 0.44、希望 0.58(「必要ない」は 7.7%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.52、希望 0.52(「必要ない」は 14.8%)で、2008 年度は現状 0.71、希望 0.68(「必要ない」は 10.7%)でした。墨字使用学生では、現状 0.57、希望 0.57(「必要ない」は 7.1%)でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.52、希望 0.50(「必要ない」は 33.3%)で、2008 年度は現状 0.54、希望 0.35(「必要ない」は 46.2%)でした。

現状の割合をみると、点字使用学生では次第に減少してきていますが、墨字使用学生では微増していました。大学全体では整備されている可能性はありますが、点字使用学生が必要と感じてい

図10-1 施設・設備に対する配慮(点字)

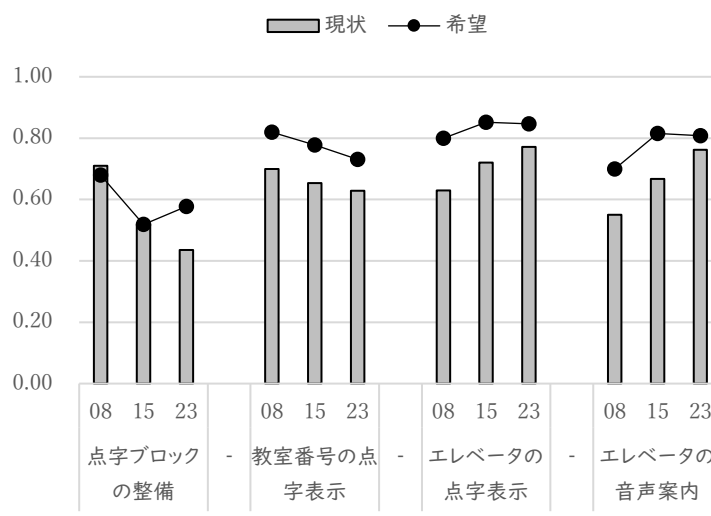
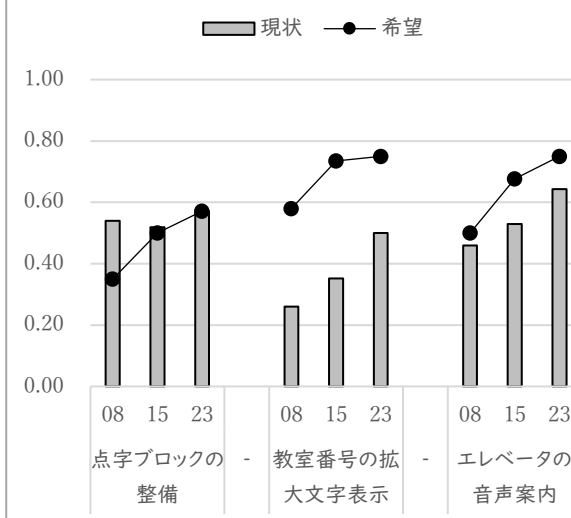


図10-2 施設・設備に対する配慮(墨字)



る場所には整備されていないことがわかりました。点字ブロックが整備されていなくても、点字ブロック以外の手がかりを見つけて移動できているのだと考えられますが、特に危険な場所などには整備されていないと安心して歩けません。必要に応じて適切な場所に整備されることを期待します。

「教室番号の点字表示」に関する点字使用学生の回答をみると、現状 0.63、希望 0.73（「必要ない」は 3.8%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.65、希望 0.78（「必要ない」は 7.4%）で、2008 年度は現状 0.70、希望 0.82（「必要ない」は 0.0%）でした。現状も希望も大きな変化はありませんでした。現状よりも希望の割合が高く、さらに充実することを期待します。

「教室番号の拡大文字表示」に関する墨字使用学生の回答をみると、現状 0.50、希望 0.75（「必要ない」は 0.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.35、希望 0.74（「必要ない」は 16.7%）で、2008 年度は現状 0.26、希望 0.58（「必要ない」は 15.4%）でした。現状の割合が次第に増加してきており、整備されつつあることがわかりましたが、さらなる充実を期待します。

(2) エレベータの点字表示、音声案内

「エレベータの点字表示」に関する点字使用学生の回答をみると、現状 0.77、希望 0.85（「必要ない」は 3.8%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.72、希望 0.85（「必要ない」は 3.7%）で、2008 年度は現状 0.63、希望 0.80（「必要ない」は 7.1%）でした。

また、「エレベータの音声案内」についてみると、点字使用学生では、現状 0.76、希望 0.81（「必要ない」は 3.8%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.67、希望 0.81（「必要ない」は 3.7%）で、2008 年度は現状 0.55、希望 0.70（「必要ない」は 10.7%）でした。墨字使用学生では、現状 0.64、希望 0.75（「必要ない」は 0.0%）でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.53、希望 0.68（「必要ない」は 22.2%）で、2008 年度は現状 0.46、希望 0.50（「必要ない」は 38.5%）でした。

「エレベータの点字表示や音声案内の整備」は、次第に進んできています。これは、建築物に関するバリアフリー法により、大学の改築や修繕については、建築物移動等円滑化基準を満たさなければならないことが影響しているのではないかと考えられます。点字表示がないと降りたい階のボタンが押せなかったり、音声案内がないと止まった階が自分の降りたい階なのかがわからなかったりするため、法律によって整備が広がっていくことは安心です。より多くの大学で整備されていくことを期待します。

11. 視覚に障害のある友人との関わり

視覚に障害のある友人との関わりについて、現在関わりのある程度（現状）および必要と思う程度（必要度）について質問しました。また、視覚に障害のある友人との関わりが役立つ場面について、複数回答可で質問しました。さらに、役立つ場面について選択肢にはない項目を自由に記述してもらいました。

視覚に障害のある友人と関わりのある程度については、各項目で「まったくつきあいはない」を 0 点、「あまりつきあいはない」を 1 点、「すこしつきあいがある」を 2 点、「かなりつきあいがある」を 3 点、必要と思う程度については、「まったく必要ない」を 0 点、「あまり必要ない」を 1 点、「少し必要である」を 2 点、「かなり必要である」を 3 点と得点化し、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの（対象人数）×（満点 3 点）で割った値を求めました。

視覚に障害のある友人との関わりが役立つ場面については、「役立つ」場面として選択された場合を 1 点、選択されなかった場合を 0 点と得点化し、項目ごとの合計点を点字使用学生・墨字使用学生それぞれの対象人数で割った値を求めました。また、視覚に障害のある友人との関わりについて自由記述で意見を求めた結果をまとめました。

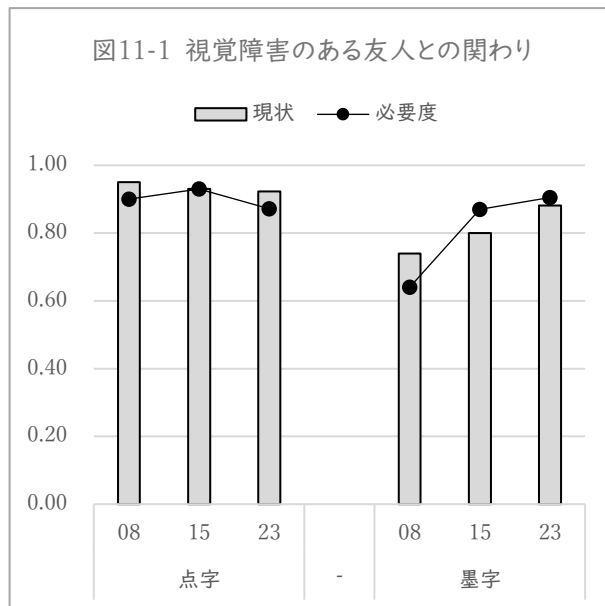
（1）現状と必要度

視覚に障害のある友人との関わりについて、現在関わりのある程度（現状）および必要と思う程度（必要度）を、図 11-1 に示します。

点字使用学生では、現状 0.92、必要度 0.87 でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.93、必要度 0.93 で、2008 年度は現状 0.95、必要度 0.90 でした。

墨字使用学生では、現状 0.88、必要度 0.90 でした。過去の調査では、2015 年度は現状 0.80、必要度 0.87（「まったく必要ない」は 0%）で、2008 年度は現状 0.74、必要度 0.64 でした。点字使用学生では、現状も必要度も過去の調査と同様に極めて高い値を示していました。墨字使用学生については、現状も必要度も次第に高くなってきています。

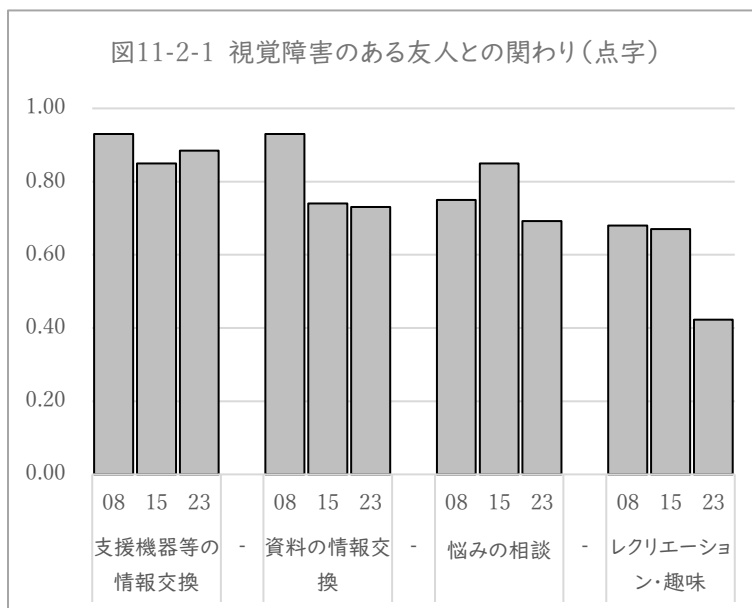
視覚障害学生は、一見、他の学生と同じ学生生活を送っていても学習手段は異なり、参加できる活動にも制限があります。したがって、視覚障害のない学生にはない悩みを抱えることも多いので、当事者の相談相手が必要です。しかし、視覚障害学生は各大学にごく少数しか在学していないことから、大学を超えた当事者同士のネットワークが重要と考えられます。



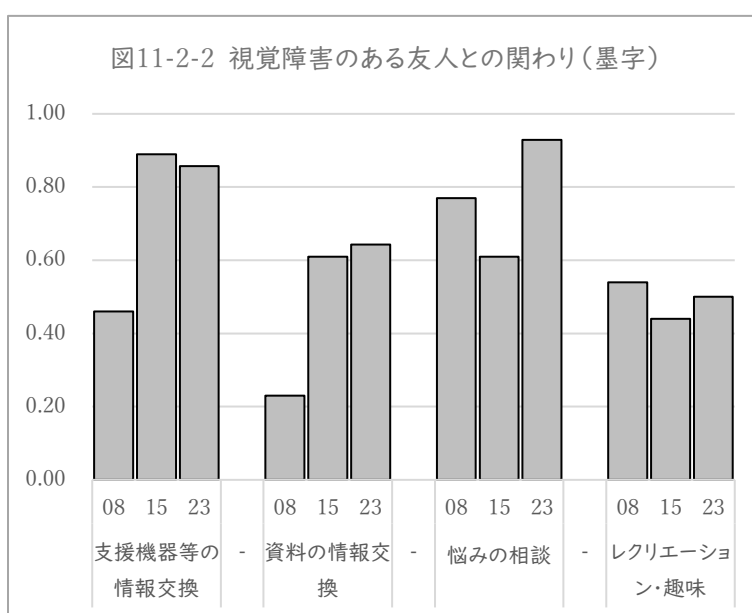
(2) 役に立つ場面

視覚障害のある友人との関わりが役に立つ場面を、図 11-2-1 (点字) と図 11-2-2 (墨字) に示します。

点字使用学生では、「役立つ」と答えた人の割合の高い順にみると、「支援機器に関する情報交換ができる」0.88、「点字・拡大文字・録音等の資料の情報交換ができる」0.73、「悩みの相談がしやすい」0.69、「視覚障害者が参加しやすいスポーツ・レクリエーション・趣味等の活動ができる」0.42 でした。過去の調査では、2015 年度は、「支援機器に関する情報交換ができる」0.85、「悩みの相談がしやすい」0.85、「点字・拡大文字・録音等の資料の情報交換ができる」0.74、「視覚障害者が参加しやすいスポーツ・レクリエーション・趣味等の活動ができる」0.67 で、2008 年度は、「支援機器に関する情報交換ができる」0.93、「点字・拡大文字・録音等の資料の情報交換ができる」0.93、「悩みの相談がしやすい」0.75、「視覚障害者が参加しやすいスポーツ・レクリエーション・趣味等の活動ができる」0.68 でした。



墨字使用学生では、割合の高い順に、「悩みの相談がしやすい」0.93、「支援機器に関する情報交換ができる」0.86、「点字・拡大文字・録音等の資料の情報交換ができる」0.64、「視覚障害者が参加しやすいスポーツ・レクリエーション・趣味等の活動ができる」0.50 でした。過去の調査では、2015 年度は、「支援機器に関する情報交換ができる」0.89、「点字・拡大文字・録音等の資料の情報交換ができる」0.61、「悩みの相談がしやすい」0.61、「視覚障害者が参加しやすいスポーツ・レクリエーション・趣味等の活動ができる」0.44 で、2008 年度は、「悩みの相談がしやすい」0.77、「視覚障害者が参加しやすいスポーツ・レクリエーション・趣味等の活動ができる」0.54、



「支援機器に関する情報交換ができる」0.46、「点字・拡大文字・録音等の資料の情報交換ができる」0.23 でした。

点字使用学生では、これまでと同様に、「支援機器や資料に関する情報交換」で高い割合を示しています。墨字使用学生では、「悩みの相談」の割合がかなり増加し、「支援機器や資料に関する情報交換」の割合は2015年度とほとんど変化はありませんでした。点字使用学生も、墨字使用学生も、支援機器等を用いて学習することが増えてきており、学習に必要な資料や支援機器に関する情報交換が最も重要であることがわかりました。また、「悩みの相談」を通じて心理的安定を図ることを求めていると考えられます。

(3) 役に立つ場面に関する自由記述

視覚に障害のある友人との関わりが役に立つ場面についての自由記述には、「合理的配慮をどのように依頼するとよいのかを相談する」、「支援制度に関する情報共有ができる」、「悩みを相談しやすく心の支えになる」、「進路に関する情報交換ができる」、「大学とは異なるコミュニティをもてる」等の回答がありました。

一般の大学に在籍していると、視覚障害学生が一人や少数であるということが多く、同じ障害のある友人との関わりが、視覚障害に特化した情報収集や心理的安定を図るためにも重要であるということがわかりました。

12. 大学生活

大学生活について、合理的配慮に関する説明および災害時の避難経路や手段に関する説明の現状について質問しました。また、学習や生活の支援に関する話し合いの頻度と相談できる組織や担当者の有無について質問しました。なお、これらは 2008 年度には調査項目に入っていないので、2015 年度と2023年度の結果のみを示します。

(1) 合理的配慮に関する説明

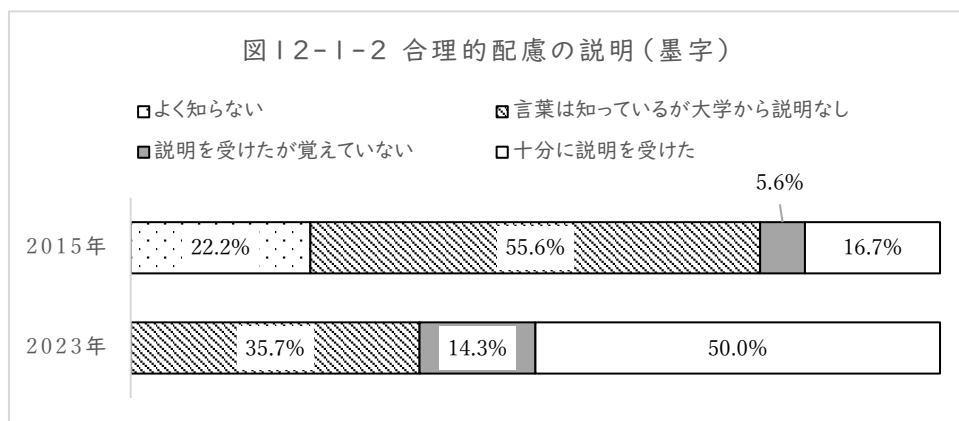
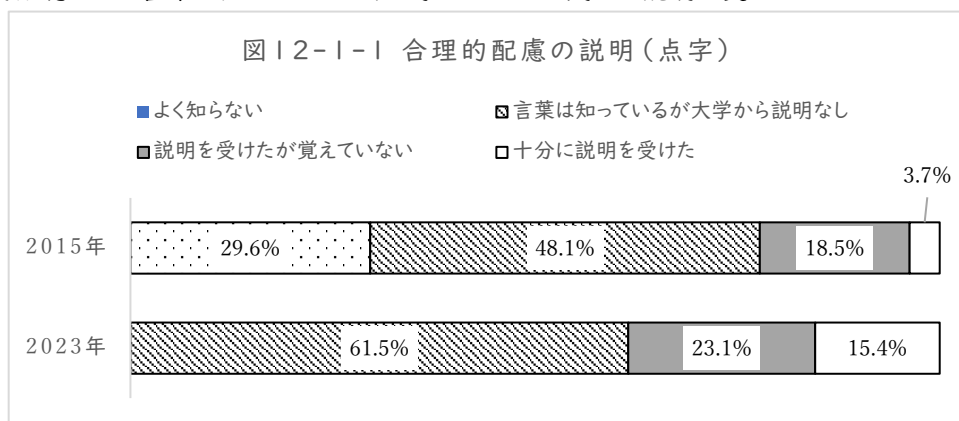
合理的配慮について、視覚障害学生本人および大学がどの程度意識しているかを、図 12-1-1 (点字)と図 12-1-2 (墨字)に示します。

点字使用学生では、「合理的配慮という言葉をよく知らない」が 2023 年度は 0.0%、2015 年度は 29.6%、「合理的配慮という言葉は知っているが、大学からこれに関する説明を受けてはいない」が 2023 年度は 61.5%、2015 年度は 48.1%、「合理的配慮に関する説明を受けたが、あまり覚えていない」が 2023 年度は 23.1%、2015 年度は 18.5%、「合理的配慮に関する説明を十分に受けた」が 2023 年度は 15.4%、2015 年度は 3.7%でした。

墨字使用学生では、「合理的配慮という言葉をよく知らない」が 2023 年度

は 0.0%、2015 年度は 22.2%、「合理的配慮という言葉は知っているが、大学からこれに関する説明を受けてはいない」が 2023 年度は 35.7%、2015 年度は 55.6%、「合理的配慮に関する説明を受けたが、あまり覚えていない」が 2023 年度は 14.3%、2015 年度は 5.6%、「合理的配慮に関する説明を十分に受けた」が 2023 年度は 50.0%、2015 年度は 16.7%でした。

点字使用学生・墨字使用学生ともに、2015 年度の調査では「合理的配慮という言葉をよく知らない」と回答した学生が2割以上いましたが、今回の調査では全員、合理的配慮について知っていました。しかし、大学から十分に説明を受けたと回答した学生は、墨字使用学生で 50.0%、点字使



用学生では 15.4%にとどまっていた。2016 年度より障害者差別解消法が施行され、障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思表示があった場合には、必要かつ合理的な配慮を行わなければならないことが示されています。すなわち、障害のある学生が大学で学習する際には、学生本人が必要な配慮を意思表示し、大学が具体的にどのように対応するかを相談していくことになります。今後は、視覚障害学生本人も大学側も、障害者差別解消法の趣旨を十分理解し、視覚障害学生本人は自分に必要な配慮をきちんと伝えられるようになること、大学側は障害学生が必要としている配慮内容にどのように対応できるかを提示し相談する場を設け、建設的な対話を重ねることが不可欠です。

(2) 災害時の避難経路や手段に関する説明

災害時の避難経路や手段に関する説明の程度を、図 12-2-1 (点字) と図 12-2-2 (墨字) に示します。

点字使用学生では、「まったくない」が2023年度は 65.4%、2015年度は 63.0%、「一度だけ」が2023年度は 11.5%、2015年度は 18.5%、「年に一度」が2023年度は 15.4%、2015年度は 18.5%、「年に数回」が2023年度は 7.7%、2015年度は 0.0%でした。

墨字使用学生では、「まったくない」が2023年度は 50.0%、2015年度は 61.1%、「一度だけ」が2023年度は 28.6%、2015年度は

22.2%、「年に一度」が2023年度は 7.1%、2015年度は 11.1%、「年に数回」が2023年度は 14.3%、2015年度は 5.6%でした。

点字使用学生・墨字使用学生ともに、半数以上の学生が、災害時の避難経路や手段に関する説明を受けておらず、年に一度以上説明を受けている学生は2割程度でした。2015 年度に比べ、大きく改善したとは言えない状況であることがわかりました。近年、各地で震災が起こっていることもあり、いつどこで災害に遭遇するかわかりません。視覚障害学生の場合、災害によって変化した状況

図 12-2-1 災害時の説明 (点字)

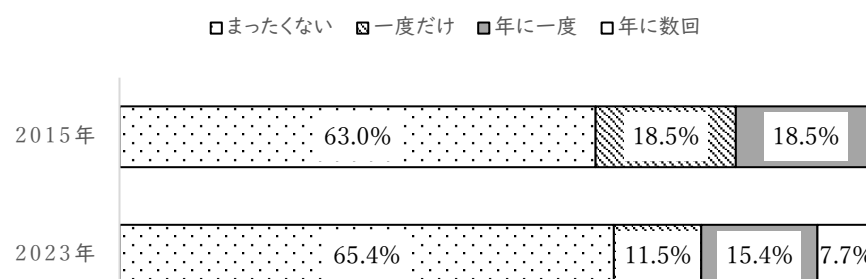
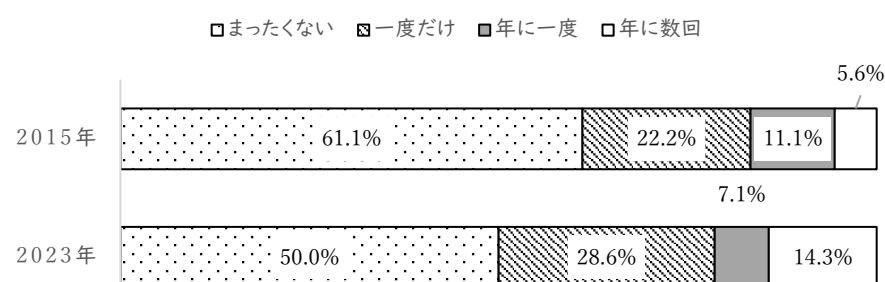


図 12-2-2 災害時の説明 (墨字)



を把握することが難しく、周囲の人とともに避難できることが望ましいです。そのことを、視覚障害学生本人も大学関係者も日頃から意識し、災害時には本人が周囲にサポートを依頼すること、周囲は視覚障害学生の安全を確認することが必要です。また、災害時に周囲に人がいないことも考えられます。基本的な避難経路を日頃から確認しておくことも重要です。

(3) 学習や生活の支援に関する話し合い

学習や生活の支援に関する話し合いの程度を、図12-3-1（点字）と図12-3-2（墨字）に示します。点字使用学生も、墨字使用学生も、「まったくない」と回答した学生は2015年度も2023年度も0.0%でしたので、図の中では省略しています。

点字使用学生では、「入学時のみ」が2023年度は3.8%、2015年度は3.7%、「年に一度」が2023年度は3.8%、2015年度は7.4%、「学期に一度以上」が2023年度は92.3%、2015年度は88.9%でした。

墨字使用学生では、「入学時のみ」が2023年度は14.3%、2015年度は5.6%、「年に一度」が2023年度は14.3%、2015年度は5.6%、「学期に一度以上」が2023年度は71.4%、2015年度は88.9%でした。

点字使用学生では9割以上の学生が、学期に一度以上、学習や生活の支援に関する話し合いが行われていることがわかりました。墨字使用学生については、全員、話し合いの機会があったものの、入学時のみや年に一度だけという学生の割合が増加していました。ただし、継続的に相談できる組織や担当者があるかどうかを尋ねたところ、墨字使用学生全員が「いる」と回答しています。話し合いの頻度は減少していますが、相談できる場があることは安心です。なお、点字使用学生については、1名がそのような組織や担当者が「いない」と回答し、他の学生は「いる」と回答しました。なお、「いる」と回答した学生の中で、点字使用学生のうち9名と、墨字使用学生のうち6名は、障害学生支援室や障害学生担当の窓口で相談していました。他の学生の多くは、障害学生に限らずすべての学生を対象とした支援室や保健室に相談しており、いずれにしても、組織的に障害学生の支援

図12-3-1 話し合いの頻度（点字）

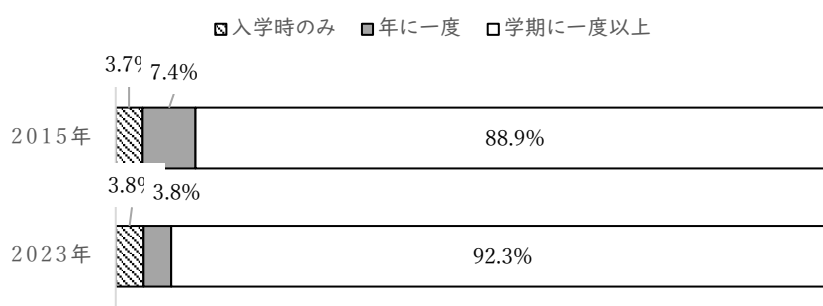
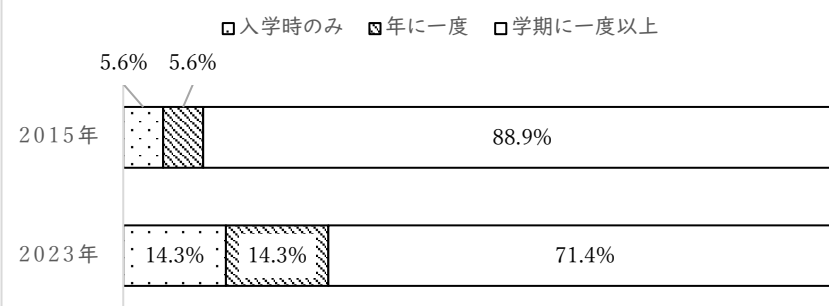


図12-3-2 話し合いの頻度（墨字）



が行われるようになってきていることがわかりました。

「いない」と回答した学生は、教科書のテキストデータ化を希望した際に、大学では対応できないと断られ、自治体に依頼するよう言われたとのことでした。一方、「いる」と回答している学生の中にも、希望する文献すべてのテキストデータ化には対応してもらえなかったり、定期試験の点字での受験を希望しても対応してもらえなかったり、希望する対応をすべてしてもらえているわけではありませんでした。しかし、どのような形であれば大学側が対応できるかを一緒に検討してくれると、継続的に相談できる関係になっていくのだと考えられます。視覚障害学生の希望をしっかりと聞き、大学の体制の中でできることを提示していただきながら、個々のケースでよりよい対応について検討できる環境の整備が広がることを期待します。

13. 高校時代に身につけておくべき力

大学生を送る上で高校時代に身につけておくべき力について、自由に答えてもらいました。それらをまとめると、以下のようになりました。

(1) 日常生活スキル

- ア. 単独歩行や公共交通の利用、移動スキル(点字ブロックがない場所や信号のない横断歩道含む)
- イ. 道に迷ったときなど、日常生活で困ったときに自分なりに解決する力
- ウ. 一人暮らしに必要なスキル(料理、掃除、買い物など)
- エ. ATM、クレジットカード、電子決済(PayPay 等)の使い方や金銭管理
- オ. 身だしなみ

(2) 自己理解と自己表現の力

- ア. 自分の障害・見え方・困る場面を説明する力
- イ. 自分ができること・できないこと・少しサポートがあればできることを整理・把握する力
- ウ. 必要な配慮を説明・依頼する力(合理的配慮を求める力)
- エ. 一方的でない交渉力(自分の努力も伝えながら配慮を求める)

(3) コミュニケーション・対人関係能力

- ア. 自分から話しかける力、友人関係の構築力
- イ. 教員・支援者とのやり取りスキル
- ウ. グループ活動・ディスカッションに参加する力
- エ. 視覚障害のない人との感覚の違いを理解する力

(4) 学習・情報処理能力

- ア. 自分の学ぶ分野に関する基礎学力(例:生理学→高校生物)
- イ. レポート作成力、ノートテイク、情報収集
- ウ. Web ブラウザを使った検索、資料の読解
- エ. こそあど言葉や不親切な指示に対応できる読解力

(5) 情報機器・ICT 活用力

- ア. パソコン・スマートフォン・支援機器(ブレイルメモ、点字ディスプレイ等)の操作
- イ. Word・Excel・PowerPoint・Google 系アプリ(ドキュメント、スライド等)の基本操作
- ウ. PC-Talker 等の画面読み上げソフトの操作スキル
- エ. SNS、Zoom、Teams 等、大学生活・コミュニケーションに必要なオンラインツールの利用力

(6) 外部とのつながり・主体的な行動力

- ア. 視覚障害のある同級生や先輩との交流・情報収集
- イ. 支援制度・福祉制度についての基本的な知識
- ウ. 高校時代から外部と関わる体験(点訳依頼など)
- エ. 困っていることを「困っている」と言える自己表現

これらの回答は、「高校時代にもっとこういう力をつけておけるとよかった」という意見が多く、これらの力の基礎となる力(例えば、点字や拡大文字の読み書きのスキル、期限に間に合うようにレポートを作成するための計画力など)については、ほとんど触れられませんでした。

しかし、例えば ICT スキルにおいて、大学では Word や Excel、Google などが使えるとよいというのはその通りだと思いますが、だからといって視覚障害のない生徒が使うようにこれらのソフトウェアから練習するわけにはいきません。視覚障害者用のワープロソフトやインターネットブラウザを用いて基本構造を理解しておくことが重要です。そしてそれは、ICT スキルに限らず、様々な面で言えることです。視覚特別支援学校(盲学校)高等部等で指導にあたられる先生方には、上記のような力を育てられるように意識していただくと同時に、まずはこれらの力の基礎となる力を十分に身につけることが前提であることを忘れないでいただきたいと思います。

以上

おわりに

2015年度の調査に引き続き、今回も、視覚障害学生の生の声を聞き、本報告書をまとめるお手伝いをさせていただけるという大変貴重な機会をいただきました。今回の調査を通して大きく感じたことが3つあります。

1つ目に、オンライン学習システムや大学のポータルサイトの存在です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、こうした仕組みが急激に普及しました。これらによって、データで資料を入手し、レポート等をデータで提出するというのが、一般の学生と同様にできるようになりました。視覚障害学生自身の ICT スキルの向上もあり、この状況で満足しているという回答も多くありました。大学側にとっては特別な配慮が必要なく、学習しやすい環境になってきたのだと感じました。ただし、すべてがこれでうまく進んでいるわけではありません。点字が必要な場合もありますし、書籍のオリジナルデータが必要なこともあります。おおむねうまくいっていることで、ほかの手段が検討されなくなることを願います。

2つ目に、大学との合理的配慮に関する話し合いがほぼ100%行われているということです。

2024年に障害者差別解消法が改正されたこともあり、この傾向は継続されることが期待されます。ただし、話し合いが行われても、視覚障害学生の希望通りにはなっていないことも多く、点字で資料を入手することや、点字で定期試験を受験することは難しい状況があります。これは、点字での提供方法を大学側も学生側も具体的にわからないということや、予算的な制約が背景にあるのではないかと推測されます。先に述べたように、データで対応できるものもありますが、語学や理系の授業では、対応できないものもあります。内容によって適した形式での提供が実現できる仕組みを検討していく必要性を感じます。

3つ目に、墨字使用学生の配慮希望が高くなっているということです。

これまで、墨字使用学生は墨字が見えることもあり、「自分でなんとかできる」と感じている印象がありました。しかし、今回は、墨字使用学生も配慮の希望を具体的に伝えられるようになっており、大学側も対応してくださっていることを感じました。

本報告書では、視覚障害学生の生の声をまとめ、様々な場面において、点字使用学生・墨字使用学生それぞれの傾向を分析しました。大学で視覚障害学生の学習や生活の支援について検討される場合にはぜひ当事者の声に耳を傾けていただけることを願っています。その際には、本報告書も参考にしてもらえればと思います。

とりわけ、初めて視覚障害学生が入学する大学では、支援の体制が不十分であるのは当然です。最初からすべてを整えることは難しいですが、視覚障害学生のニーズの高い支援から少しずつ実現していただきたいと思います。大学生活を通して視覚障害学生が成長するとともに、支援体制や支援そのものも一歩ずつ充実していくことを願っています。また、盲学校の教員としては、生徒が、「適切な支援があれば十分に学習や生活ができる」ということを実感できる体験を積み重ね、学習や生活の基礎力、自分に必要な支援を自覚し周囲に伝える力を身につけられるよう、指導内容の充実につなげていきたいと考えています。

(調査・編集担当 清和嘉子)

この資料についてのご質問や、さらに詳しい情報については、下記にご連絡ください。

全国盲学校長会大学進学支援委員会事務局
(筑波大学附属視覚特別支援学校内)
TEL 03-3943-5423, FAX 03-3943-5410
E-mail : furenkyo@nsfb.tsukuba.ac.jp

全国高等学校長協会入試点訳事業部
(筑波大学附属視覚特別支援学校内)
TEL 03-3945-6824, FAX 03-5981-9985
E-mail : ntj@braille-exam.org

シリーズ 視覚障害者の大学進学 別冊
「視覚障害学生実態調査報告書」

令和7(2025)年6月26日 改訂

発行者 全国高等学校長協会特別支援学校部会
全国盲学校長会大学進学支援委員会
全国高等学校長協会入試点訳事業部